



江戸名所圖會

七

西垣文庫
文庫10
6556
7



江戸名所圖會卷之三

天璣之部目錄

永田馬場日吉山王神社

第六天祠

寅藥師如來

富士見坂 五川の橋

溜池 白土洞

行海上人

霞山福徳祠

廣尾毘沙門堂

土筆系の野

三柱坂

無雲院 観音

平川天満宮

千手観世音

梅田

靈南坂 見坂

一本松

新日観音

廣尾天満宮

澤森神明宮

松秀寺 日限地蔵

梅ヶ原

成田下総守長泰舊地

貝塚

梅ヶ原

麻布善福寺

氷川明神社

子安藥師如來

廣尾系

氷川明神社 雷電宮

白金野寺

北城天満宮

英一蝶墓

栖岸院

清水坂 清水谷

霞園舊跡

七佛藥師堂

祥雲禪寺

廣尾水車

覺林寺 清心公社

廣尾水車

廣尾水車

廣尾水車

廣尾水車

寶晉齋其角墓 二木櫻覺心寺 法林寺 兼教寺 上乃寺 圓志寺

英林院の圖 正覺院 瑞聖寺 誕生八幡宮 太鼓橋

元三大師堂 白浪妙見堂 明王院 蟠龍寺 岩窟辨財天 安養院 寐釋迦堂

同不動堂 圓通寺 金毘羅權現社 子代ヶ湯 長泉律院 碑文谷法華寺

大島明神社 祐天寺 觀音堂 二王門 圓光大師堂 寺宮 浮陀堂

大平山 赤坂氷川明神社 淨土寺 今井古城址 梅窓院 泰平觀音堂 龜泉寺 一本木系 玉窓寺

鳳岡寺 海藏寺 觀音堂 通明觀 金王麻呂守佛觀音 濃谷八幡宮 子安業師 鶴ヶ谷 濃谷氷川明神社 室泉寺 朝霧ヶ瀧 金王麻呂影堂

同産湯水 甘露水 玉池 河邊宮重宅旧址 姉尾光景旧館址 神尾水 富士見坂 富士見

大島明神社 祐天寺 觀音堂 二王門 圓光大師堂 寺宮 浮陀堂

大島明神社 祐天寺 觀音堂 二王門 圓光大師堂 寺宮 浮陀堂

大島明神社 祐天寺 觀音堂 二王門 圓光大師堂 寺宮 浮陀堂

大島明神社 祐天寺 觀音堂 二王門 圓光大師堂 寺宮 浮陀堂

道玄坂

同物見松

駒場野

去我苦塚

土蓋塚

足毛塚

氷川明神社

天満宮

北澤渡島明神社

沈尻村祖師堂

子明神社

馬牽沢橋

若宮八幡宮

常徳禪寺

圓禪寺

常光寺

常徳橋

象徳禪寺

長森稲荷社

實相院

吉良氏古城址

宮坂八幡宮

龍華山永安寺

石井神社

弦巻郷

世田谷八幡宮

慶元寺

天神の森

氷川明神社

常刀先生義賢之墓

禱若寺

氷川明神社

吉祥院

観音寺

泉龍寺

廣福寺

小見村除蝮蛇神社

江戶遠江守喬俊地

升形山

版室山

稲毛重成墓

章太天宮

雲う坂

藥師堂

長者穴

大師穴

六不接現社

妙樂寺七面山

杉山明神社

稲毛藥師堂

同渡

十三塚

舟田

檜明神社

山王権現社

同神廟

大戸明神社

登戸宿

牛頭天王社

最明寺

安源寺

小杉清盛地

忍系

羽黒権現社

九子渡江

田谷

大宗寺

鬼子母神堂

戒行寺

沙干親世音

古佛孫院洞像

藤寺

四谷大木戸

内藤新宿

仙壽院

吾妻堤

鞍河橋

一行院

遊女の松

龍岩寺

子太谷太神宮

遊女の松

子太谷八幡宮

代々木野八幡宮

十駄谷觀音堂

子太谷八幡宮

高井戸

鬼子母神堂

布多の里

代々木

虎柏神社

徳園寺

狗入道田坂地

里の程

深大寺 元三大師堂
流石天王社

秘波回禪心城址 同伊豆田路

紫州 牛頭天王

石塚社 河連樹
神樂

安養寺 天下泰平社
田面社

若明寺

伏小川 橋古樹

青渭神社

青渭堤

深大寺城址 同新向池
観立石

富士見塚

傾城う松

逃水

府中驛舎 大津車園
河田社

六所宮新旅所河田

武蔵國造見武日命殿御跡

津保宮

陣街道

神道

四分寺 徳満堂子祠
仁玉塚

小分寺村廣竈

武蔵野

八幡宮

六所明神社 本堂
河田社

分倍河原

小野宮村

小野牧

阿弥陀及河津院

武蔵野

瀧の社 本堂
河田社

是政村

三子入塚

小野神社舊址

新名寺

高安禪寺 観音堂

谷保天神社 巻壁の清水
道成約長石法

日野津

飯訪社 二王門
鼻井

平惟盛之墓

百系八幡宮

小山田宮旧址 関戸

番切坂

小澤小太郎居宅旧址

穴沢天神社

青沼明神社

普濟禪寺 塔

多摩川

本切澤

松蓮禪寺 古経筒
右玉見

一宮大明神社

延命寺

赤坂臺

小沢城址

壽福禪寺 本堂
掛月橋

弥勒寺 津戸懸鐘

飯家坂

八幡宮

同福院

番匠谷 井

一本榎

城山 井

威光寺

向の岡 法堂
観音堂

餐霞谷 法堂
観音堂

清水立場

安樂寺

萬願寺

高幡金剛不動堂

別務明神

二王塚

横溝八郎墳墓

天守臺

明覚寺

國安明神祠

都筑の墓 方丈
櫻露松



10
6556
7

展翼峰

沙間山

吐玉泉

法泉寺

茶師

西垣文庫

日吉山王神社

永田馬場より江戸第一の大神中として別當ハ

天台宗僧正の観理院と号し神主ハ樹下氏なり其餘

社僧及び社家巫女等数多あり御祭禮ハ隔年六月十五日

なりその行粧を初春茅場町御旅所の条下ニ詳なり

本社祭神大宮比叡の二宮小比叡大明神を勧請せし

二宮氣比宮を勧請せし聖觀世音菩薩を本地佛とし

古鱈口昔ハ本社は辨りしと今ハ右の於稻荷祠に掛あり径一尺あり

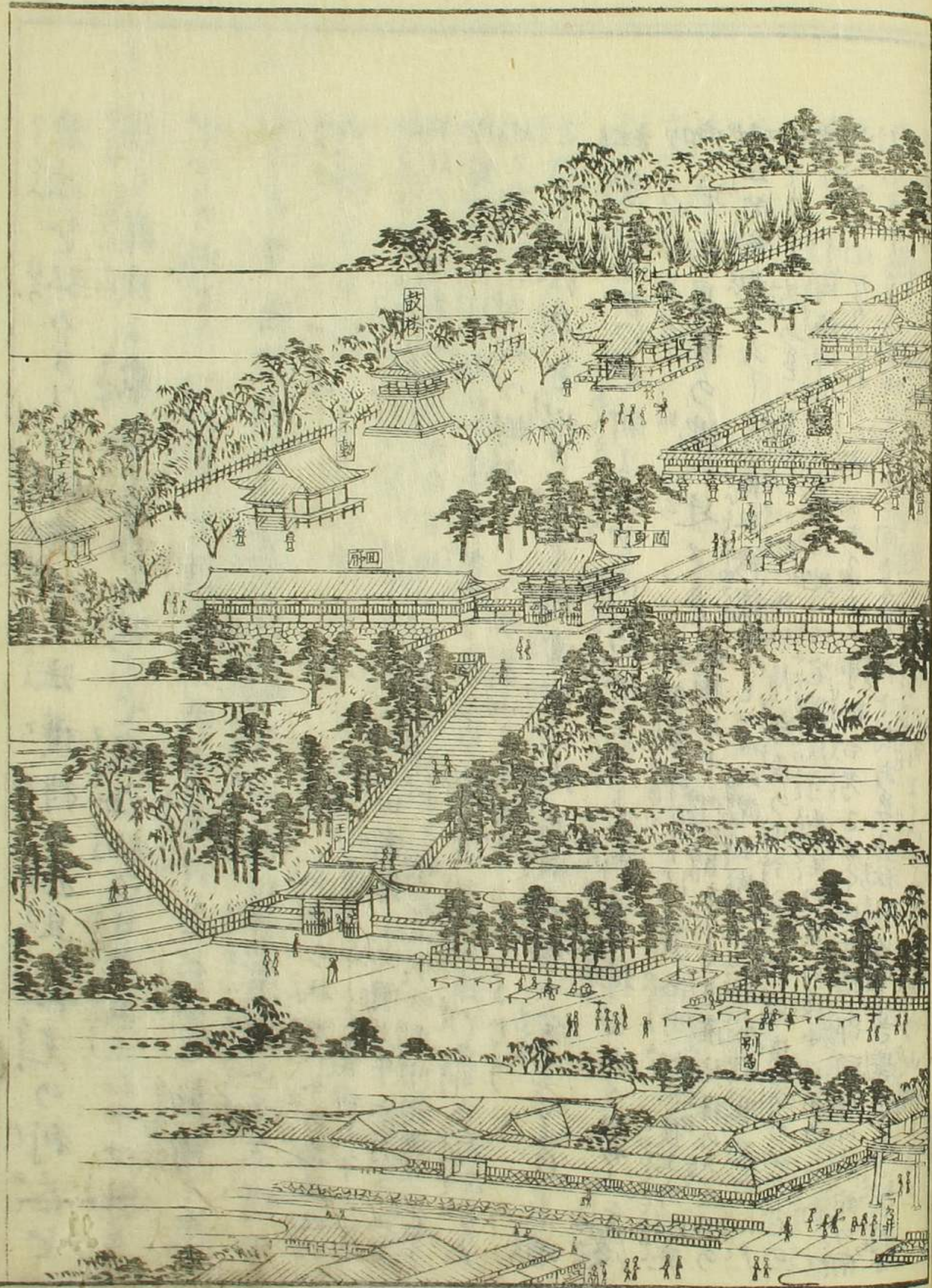
敬白奉納山王權現御寶前鱈口大檀那直景

願主南仙房

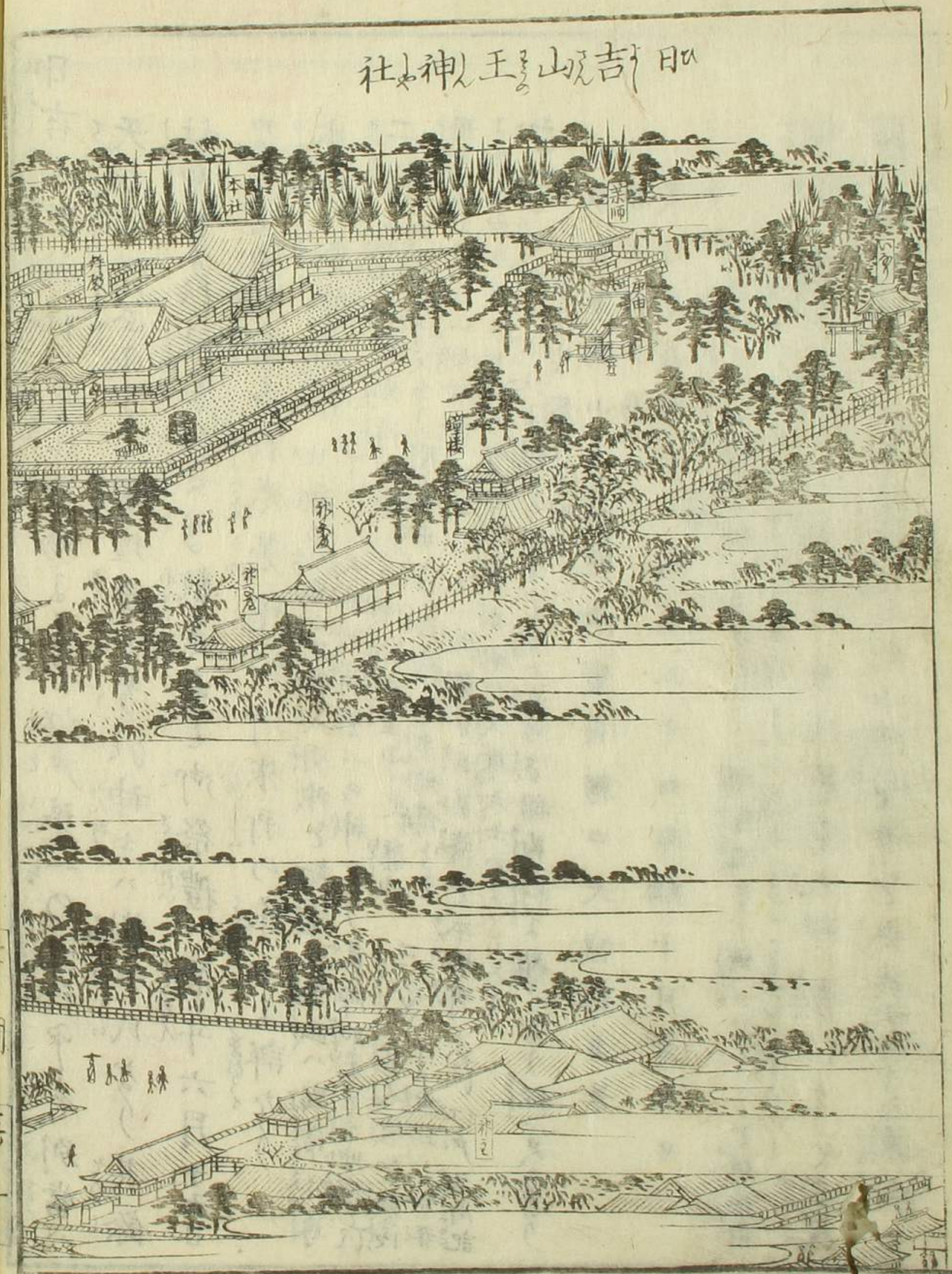
武州豊島郡江戸館天正十四年丙十月廿五日

當社ハ薄和天皇の天長七年庚戌慈覚大師勅によりて武蔵

國入間郡仙波小あり所の星野山無量寺を再興ありて圓頓の



日吉山王神社



教法を弘めりし頃佛法王法護持の爲且ハ和光の利益を
普く萬民に蒙らるゝと欲しく我立松の日吉山王二十一社上
中下の内より一社宛を撰り三所の靈神を彼地は勸請し
かゝる星霜を経ると然り文明年中太田道灌此山王三所の
御神を星野山より江戸に遷し置る其頃の社地ハ今の梅林坂の
ありて大田家藩は文明十年六月十五日
於江戸城内龜山王権現堂荒神祠菅丞相祠云々菅祠ハ今の平川天神のりなり
伊國初の項迄ハ兩社とも所城内ありて菅祠ハ平川口後門の外ハ天正より
遷され山王御城の鎮守とす紅葉山より遷座ありけるなり

この江戸を以て永く御當家 御居城の地は定させられ頃
紅葉山より移り新に社を御造営ありて御産神はあらめあはる後
御城西貝塚の地へ遷り置る其の年歴詳し江戸名所記ハ後土御門院
延徳年中御城の旨ありて道灌結縁の爲三所の
御社を城西より移り再興修造ありて云々此説未考へて菅祠ハ菅祠ハ今の平川天神のりなり
伊國初の項迄ハ兩社とも所城内ありて菅祠ハ平川口後門の外ハ天正より
遷され山王御城の鎮守とす

山王の旧地なりとあるハ實は又事蹟合考は云々伊井掃部頭殿の居館の南
後元未申の方の小坂の際中二間を長十間ありて松杉の少し繁るる坂の内ハ
稻荷の小祠ある餘地是山王一度半蔵御門外より古蹟の由緒と云々

又兼應三年申午田禄の後溜池の築山勝地たるにあり
竟ハ 台余のの今之地へ遷座なりより 宮社御造営あり
より江府第一の宮居となす名勝志云く明曆丁酉の歳田禄を
て兼應三年當社を貝塚より今の地へ
遷り置るとありて兼應ハ明曆より先の年号ありて云々
此説證とす 畫棟朱簷ハ地は映せり名勝志云く此地ハ元松平
主殿及弟宅の地ありとあり 已降
和光同塵の利益淺く内中圓宗の教法を守り外あり
鎮國利氏の徳を施しより殊更 御當家の御産土神とて
御崇敬最厚く天下泰平國家安鎮の御祈禱永世は怠
るるなり

成田下總守長泰旧地 永田馬場山王の隣丹羽家の地なりと
し古へ武州忍の城主なり

第六天祠 同所兼松家の地あり 太田左金吾道灌の勸請あり
といひしなり

平川天満宮 御城西麴町三丁目の南平川町にあり別當八天台

宗中長松山龍眼寺と号け東叡山に屬せ

傳云當社の文明十年戊戌六月廿五日太田持資當國入間郡

川越三芳野の天神を江戸城に勧請し數株の梅を栽ると云云

今の御城内平川の梅林と唱ふ其梅林の跡なり新安子簡は文明中太田

道灌築くれり江戸城平河口の中菅神の社上棟の文は文明十年戊戌六月

廿五日其後天正十八年御入國の頃彼宮を平河口の外へ移さる

有之云友山翁云江戸御入府の節平川より貝塚へ

遷り故は貝塚の天神とも云といふ又其後慶長に至り御本丸河造營

此故は今の麴町の地を平河町と改め又其後慶長に至り御本丸河造營

改めを舊社迎の町を平河町と改め又其後慶長に至り御本丸河造營

の頃竟に今の麴町を改めさせり大道寺友山翁云平河河内

自画の神影をわけ諸人小拜さむ

梅花無盡蔵云余比寓武之江戸城々有丞相祠

堂有五柳挿松不知幾數百株文明丙午仲春二十

亦有之適值上之夫徑山之傳衣迺漱茫之說而國史

亦不相之壁也夫未及之傳衣迺漱茫之說而國史

北野春遠西府有松亦應云梅亦抽君

夢中傳法定焉有松亦應云梅亦抽君

同書 問關遊江戶城菅丞相 獨居南面壯丹紅

若令丞相細分州公相 梅亦應編王者中

同書 味末江湖梅亦孤 吟香白髮老浮屠

同書 横斜月瘦一枝影 分作文公大極圖

同書 身居關左而名晚步 序者太田二十石灌公靜勝

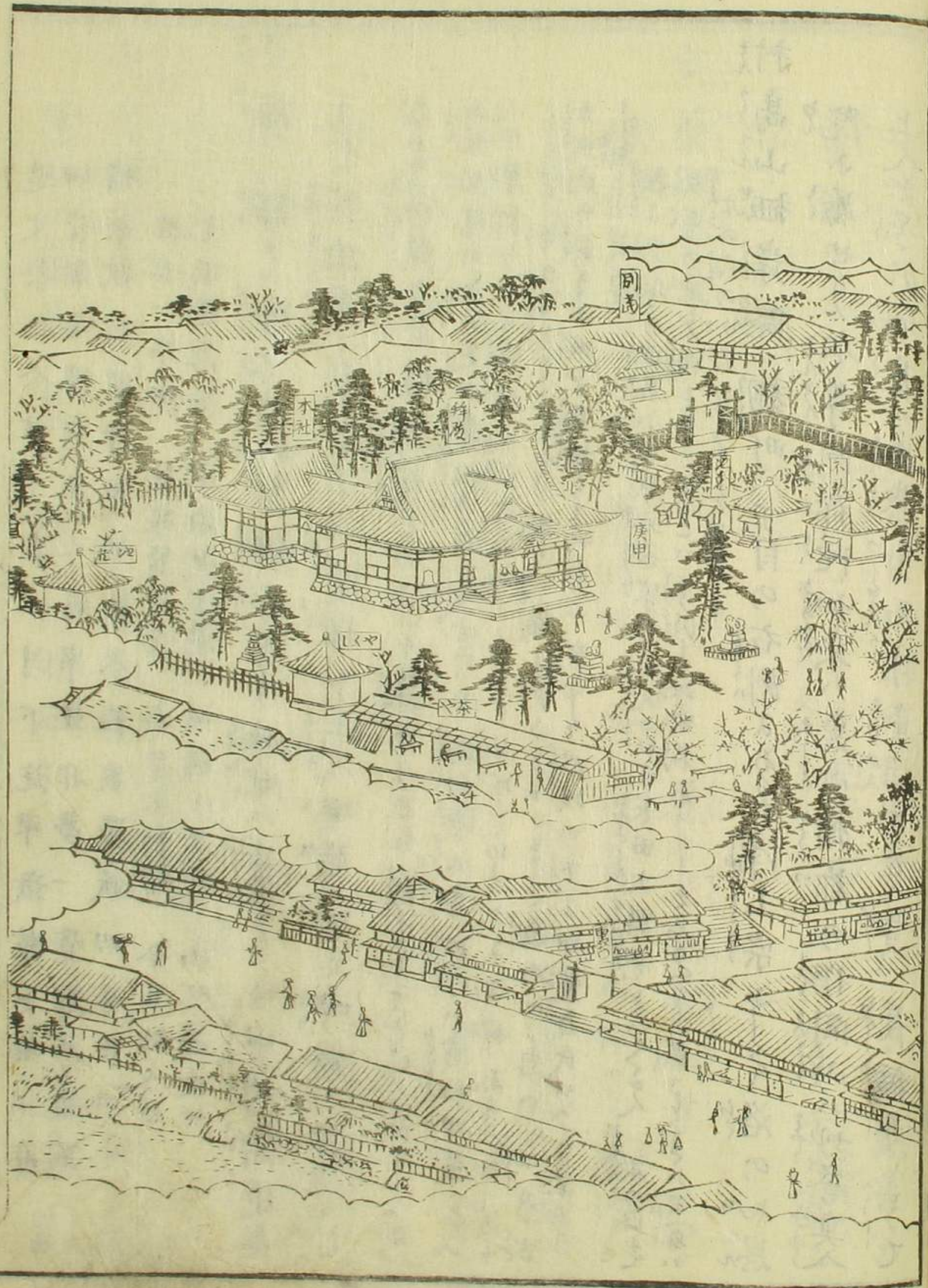
是也公曾宴坐一室夢中見接管丞相其翌早

人卒然來獻丞相所親筆之畫像可謂靈夢也

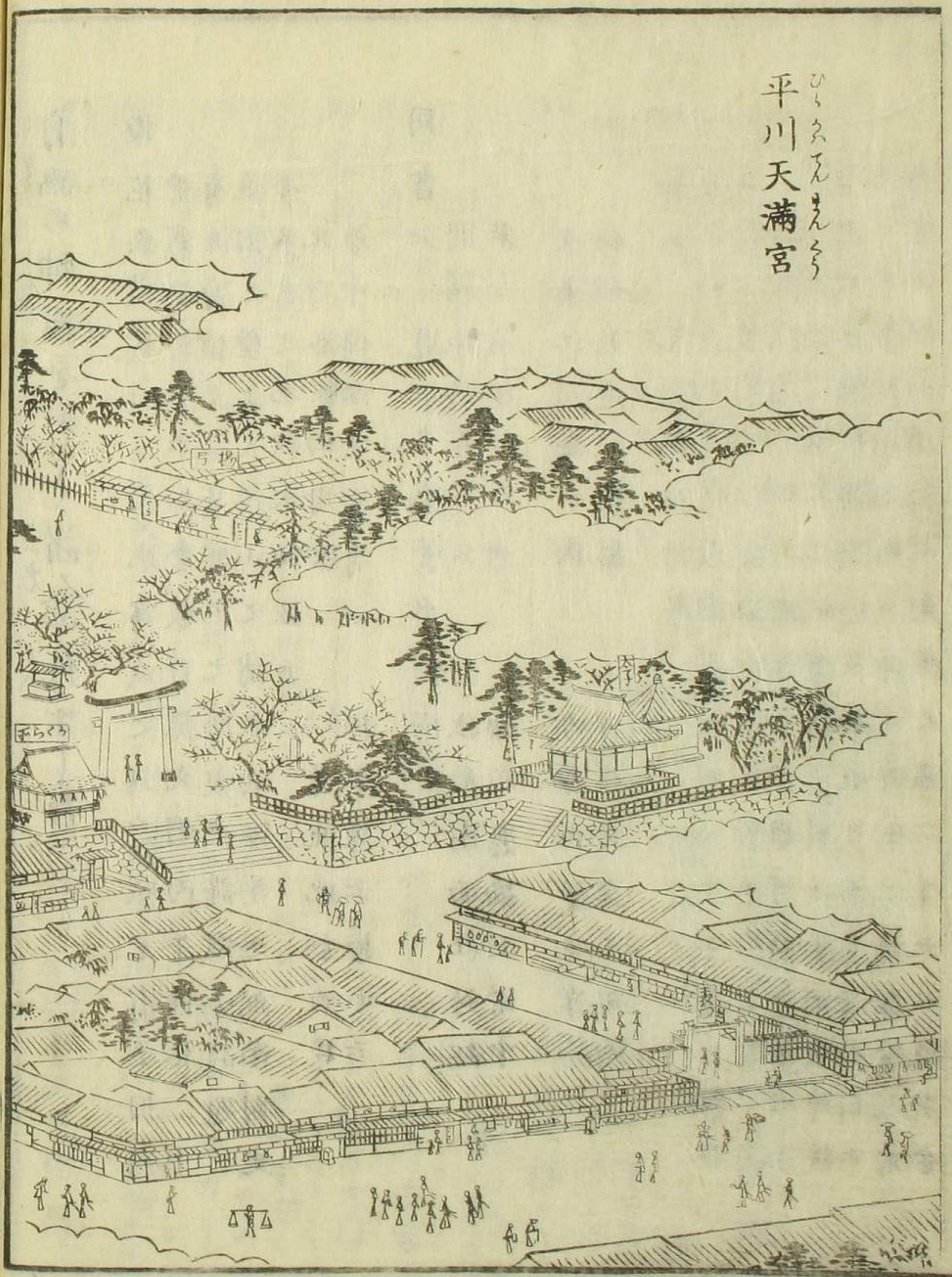
建於江戶城之北畔寄數十頃之美田歲時鼓

焉裁培梅數百株北超於錦城之梅花也前年

丙午洛社之著英也同秋之孟二公逝矣余



ひらかわらんま
平川天満宮



造文祭之。今茲丁未正月下浣率數輩之緇侶非
細管笛追憶前年之遊事豈非夢一覺邪感際無
措余欲鼓飯掉飯岐陽未能果漫賦四十言云

移步一節瘦 餘寒驚度稀 去年丞相席 今日故人非
老眼看花落 舉頭疑雪飛 岐陽千里外 山可笑遲飯

貝塚

都々廻町の辺に總名なり此地ハ昔よりの甲州街道ハ

一と其路傍あり一里塚を土人甲斐塚と呼ありせしと

なり或宛ハ貝塚法印といつる墓ありともいひくさくわつて

此地馬場の南ハ芝の青松寺の舊地なり南向亭云青松寺ハ青松甲斐とのみ

人の草創や當時玉虫氏の邸ありと云く上ハ古碑あり月

玉虫氏の前なる塚と見塚とより一説中々此地の下ハ甲斐庄氏なる宅あり

一ハ其の地を領せしとありハ此地名ありしと云く然るに貝塚ハ

村高山

細岸院 廻町ハ丁目の右側ありと云く浄土宗ありと云く洛の知恩

院ハ属せり本尊阿彌陀如来ハ惠心僧都の作閑山ハ妙譽真入

上人と号し開基ハ安藤對馬守重信なり昔ハ長福寺と号て

三州ありと云く當寺ハ頼朝の念持佛と稱せし聖觀音ハ

靈像を安置す 龜前ハ安置せし觀音の像ハ 七月十日ハ千日泰と

唱し泰指頗多し

寅藥師

如来 同北の横小路坂より上道の左側常仙寺といふ

禪刹ハ安置せり此藥師佛の像ハ行基大士の作なり相傳ふ

此靈像永祿の頃迄ハ參州鳳來寺の山麓ニ立せしむる往古

當寺閑山祥若存吉禪師參州新城よりありと云く九俗と云

一頃 俗姓ハ安田 此靈像虎ニ化現しハ狼の難を遁れし

依りて後法恩の爲ニ出家し江戸ハ來りて四谷監町の明雲山

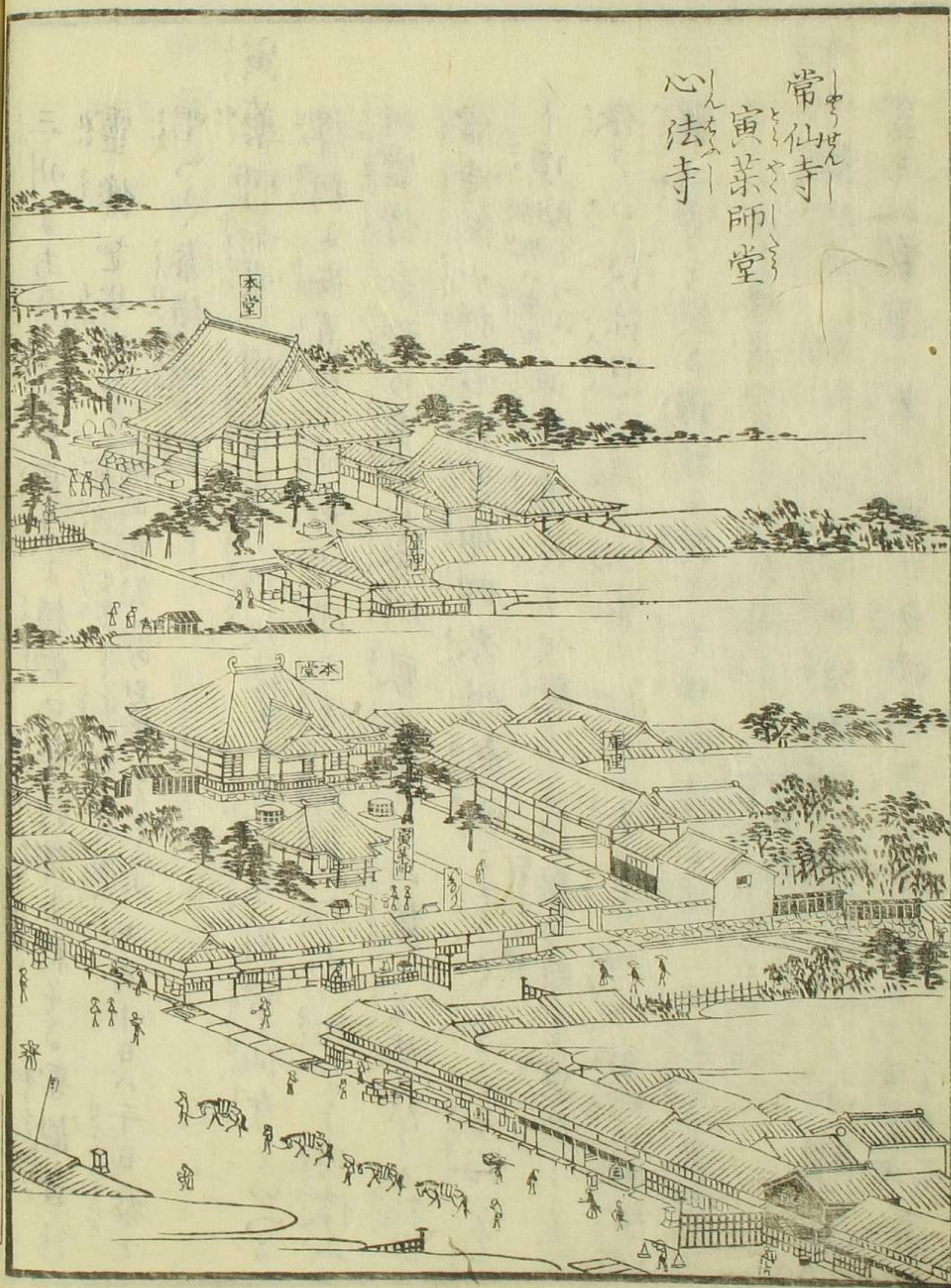
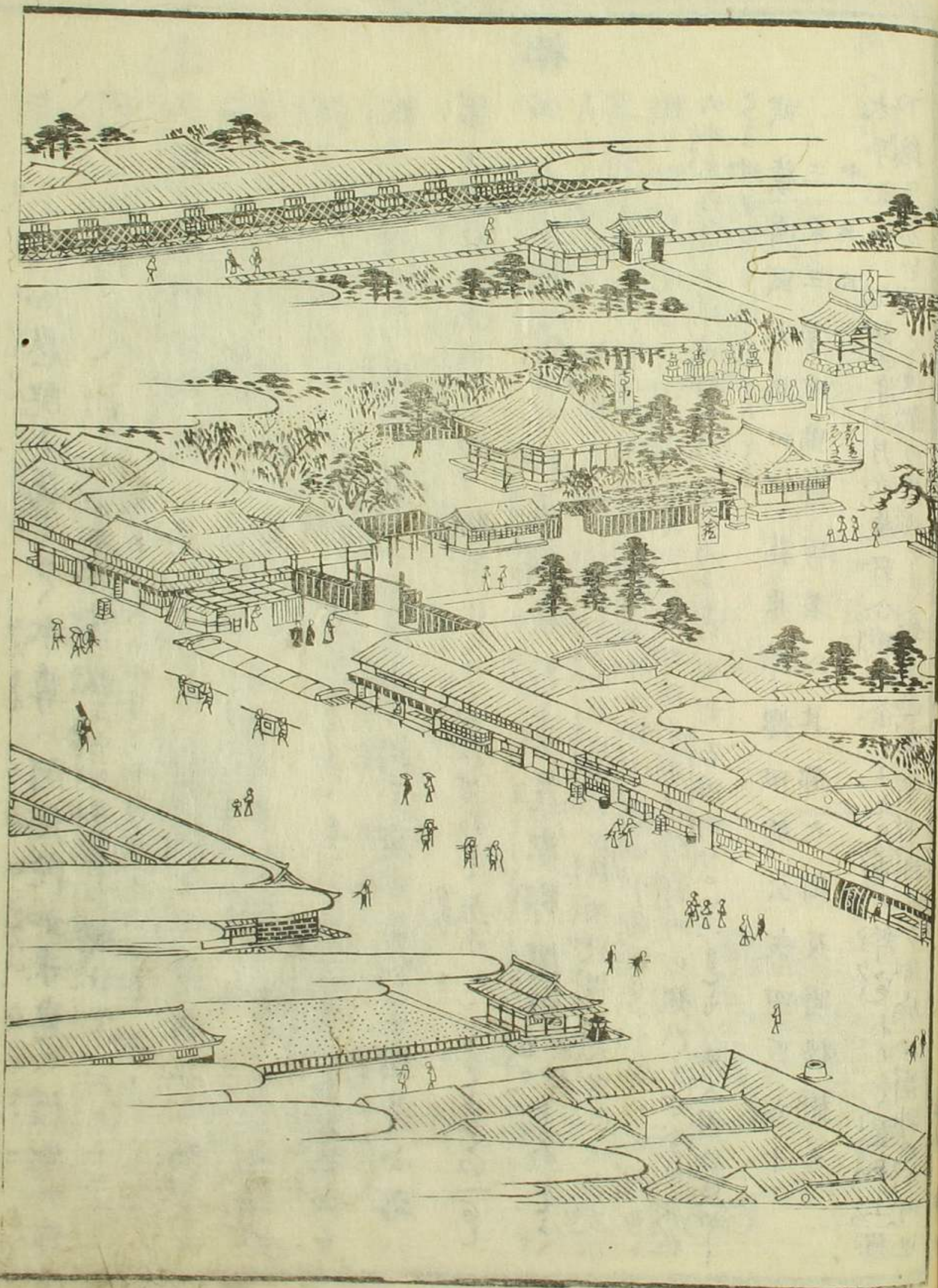
龍昌寺といふ禪林ニ住し其頃當寺を闢く此本寺を安置

せしとあり毎月八日十二日泰指多し 此本寺ハ此小路と

千手觀世音 同九丁目の右側常樂山心法寺といふ淨刹ハ安

置し此靈像ハ泰川勝の念持佛ありといふ 間浮檀金立像 當

一寸八分ありと云



常仙寺
寅菜師堂
心法寺

本堂

本堂

柳の井

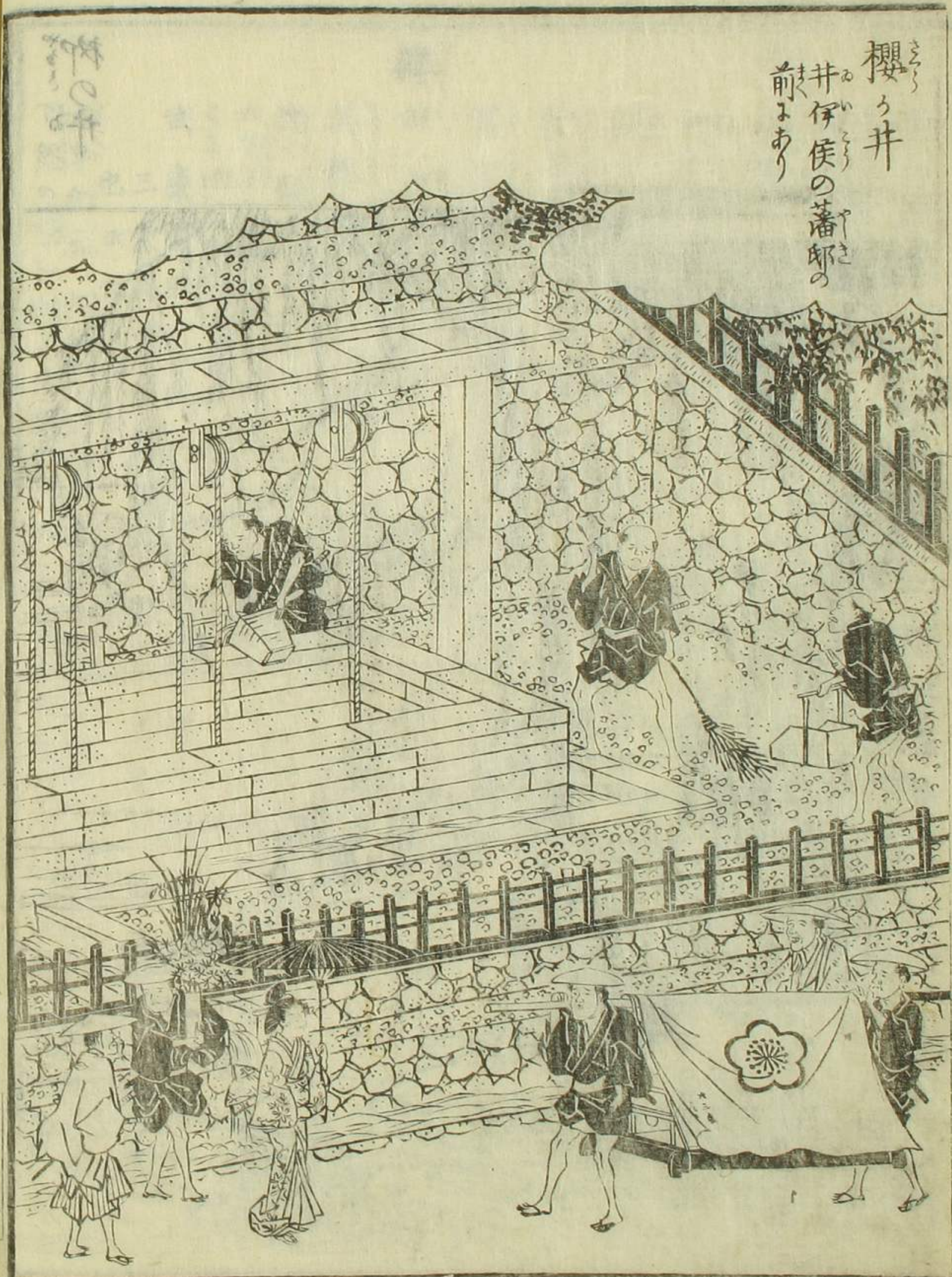


寺ハ京師知恩院ニ属ス本尊ハ阿弥陀如来惠心僧都の作
 岡山ハ然翁上人と号シ當寺洪鐘の銘ニ市谷庄とあり觀音堂ニ阿王十五の
 像あり尾州公御館と井伊家の間の坂を云清水谷と唱カサ
 此辺の柳蔭と云古歌の意をとりてあるなり富士見坂を
 流カサ松平出羽侯の前を以玉川の滝ハ同一庭中ありと駒井小路ハ
 富士見坂の上の方あり駒井氏カサ住せらるる所号と云と云

櫻田 古の郷名なり和名類聚抄カサ荏原郡櫻田佐久とあり

其称尤久カサ今ハ豊島郡ニ属セリ小田原北条家の所領役帳ハ太田源七郎及ハ
 往々櫻田の地名と注シカサ加賀守會田中務丞等ノ領ノ不領ハ
 六本木の南ハ橋田町と唱カサ同所百姓町等の類ハ今ノ麻布
 武蔵國風土記曰 荏原郡櫻田郷公穀四百六十
 三東三字田號櫻田者以其郷之岡及野櫻樹多
 也云云
 大平記云 元弘三年五月武蔵野合戦の条下ニ九日軍の鋒カサ翌日上總
 下怒の勢と討つ後敵の後攻と云金澤武蔵守守將五万余騎と差副て下河辺

櫻う井
井伊侯の藩邸の
前あり



河下は一方へ櫻田治部大輔貞國を大將中長崎二郎高重同孫四郎左衛門
加治二郎左衛門入道は武蔵上野兩國の勢六万余騎と相率く上路より入陣
河へ向らんとあり新著聞集は櫻田ハ虎の市門より愛宕の迎道地にて畔
中を櫻の樹幾千本も植あり田中の流れと櫻川とをいひ今ハ源助橋を印
とすのこころと云々又求涼亭云く櫻田の櫻ハ市入國の後今の吹上り
市庭中へうつりしと云々

櫻う井

井伊侯藩邸表門の前石垣のまやふあり直九尺

そかり石あき置置大井なり釣瓶の車三川かけおとく

たりと或云事臨合考ハ井伊家中屋敷四ツ谷喰違の屋敷

ともあり若葉井ハ同所也堀端番屋の裏にあり柳の本を

うあふ小柳の水ともいへる清冷なる甘泉なり

霞

霞関舊蹟 櫻田御門の南黒田家と浅野家との間の坂を

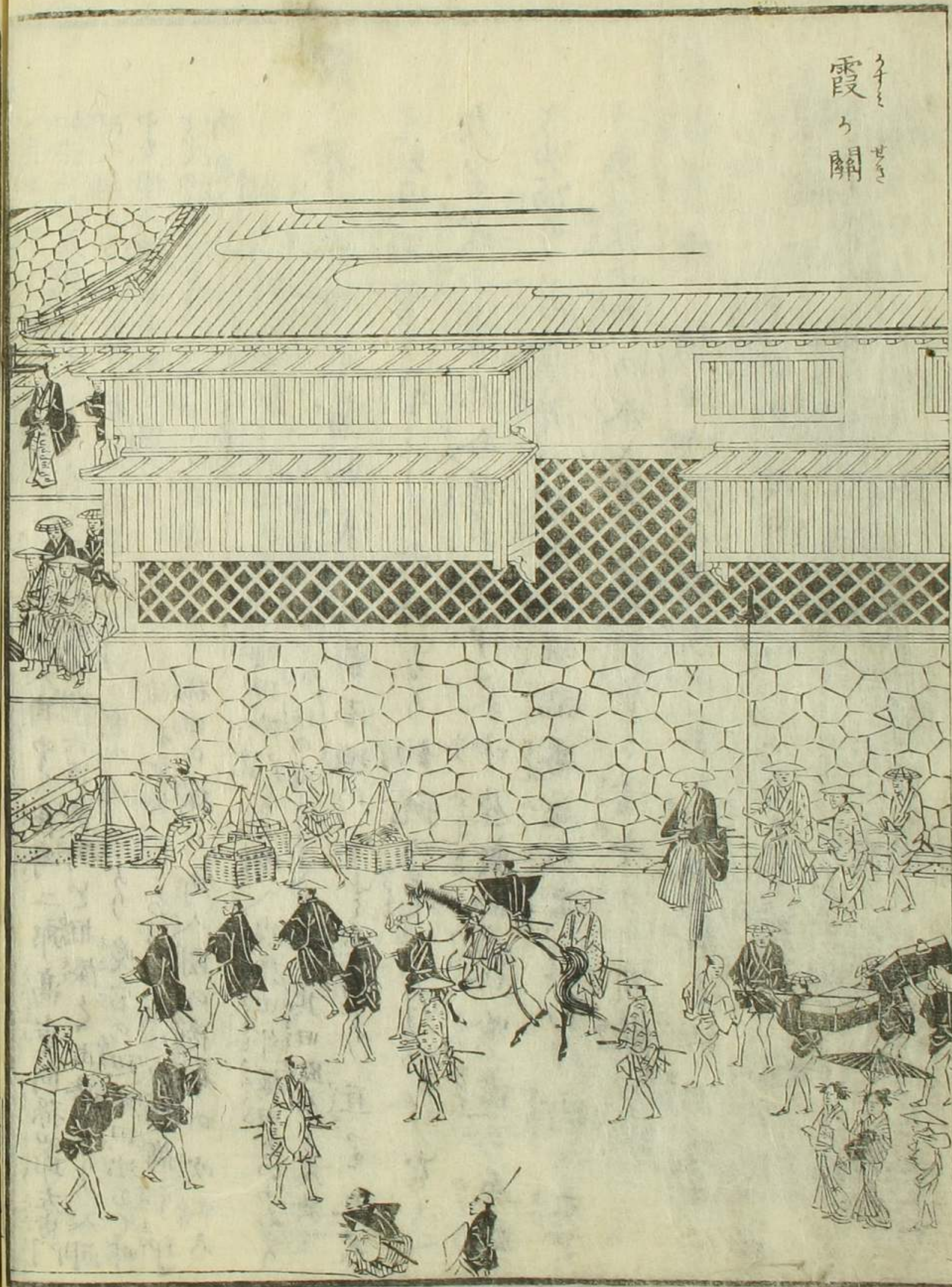
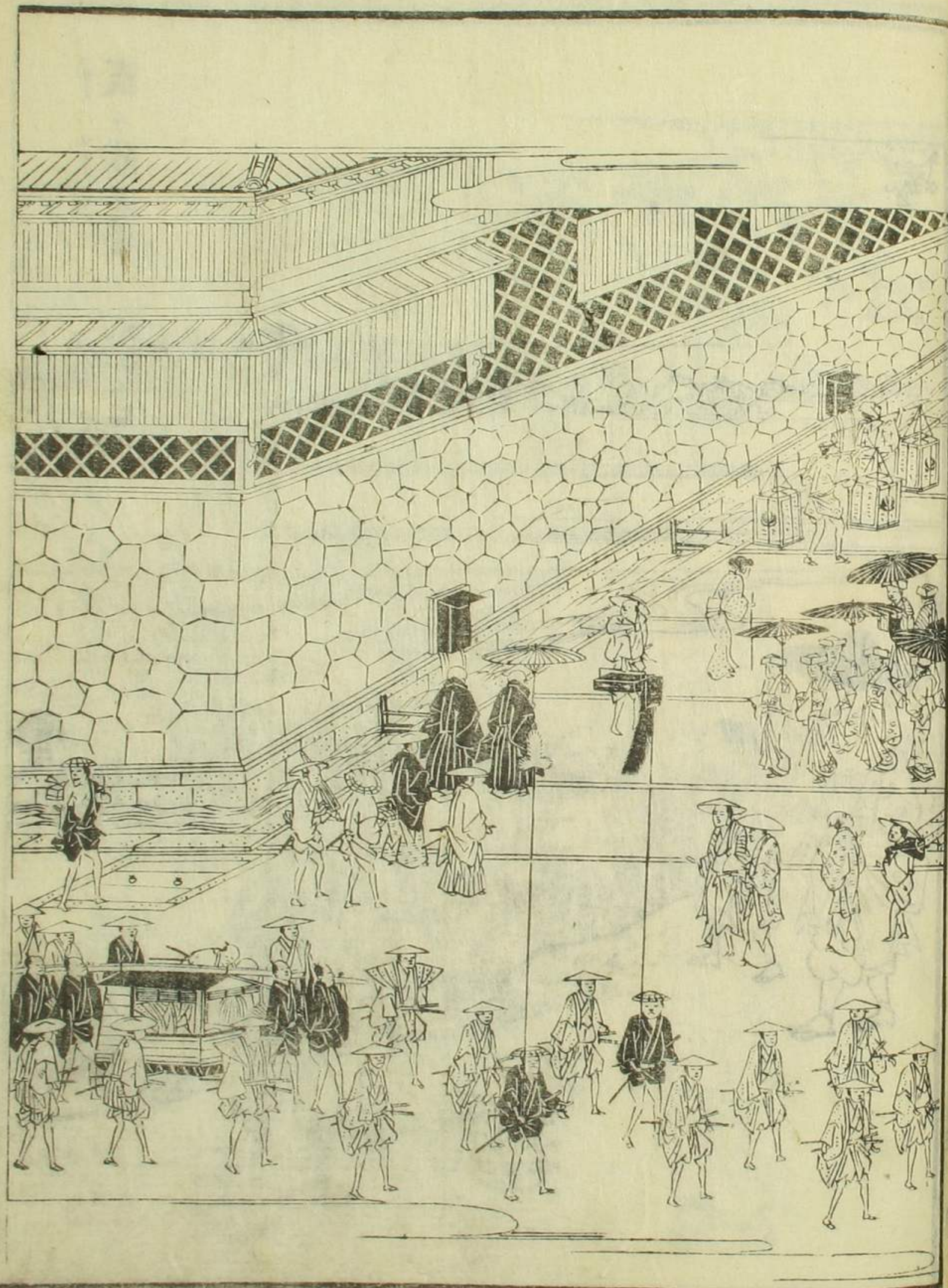
云往古の奥州街道中々關門のありし地なり

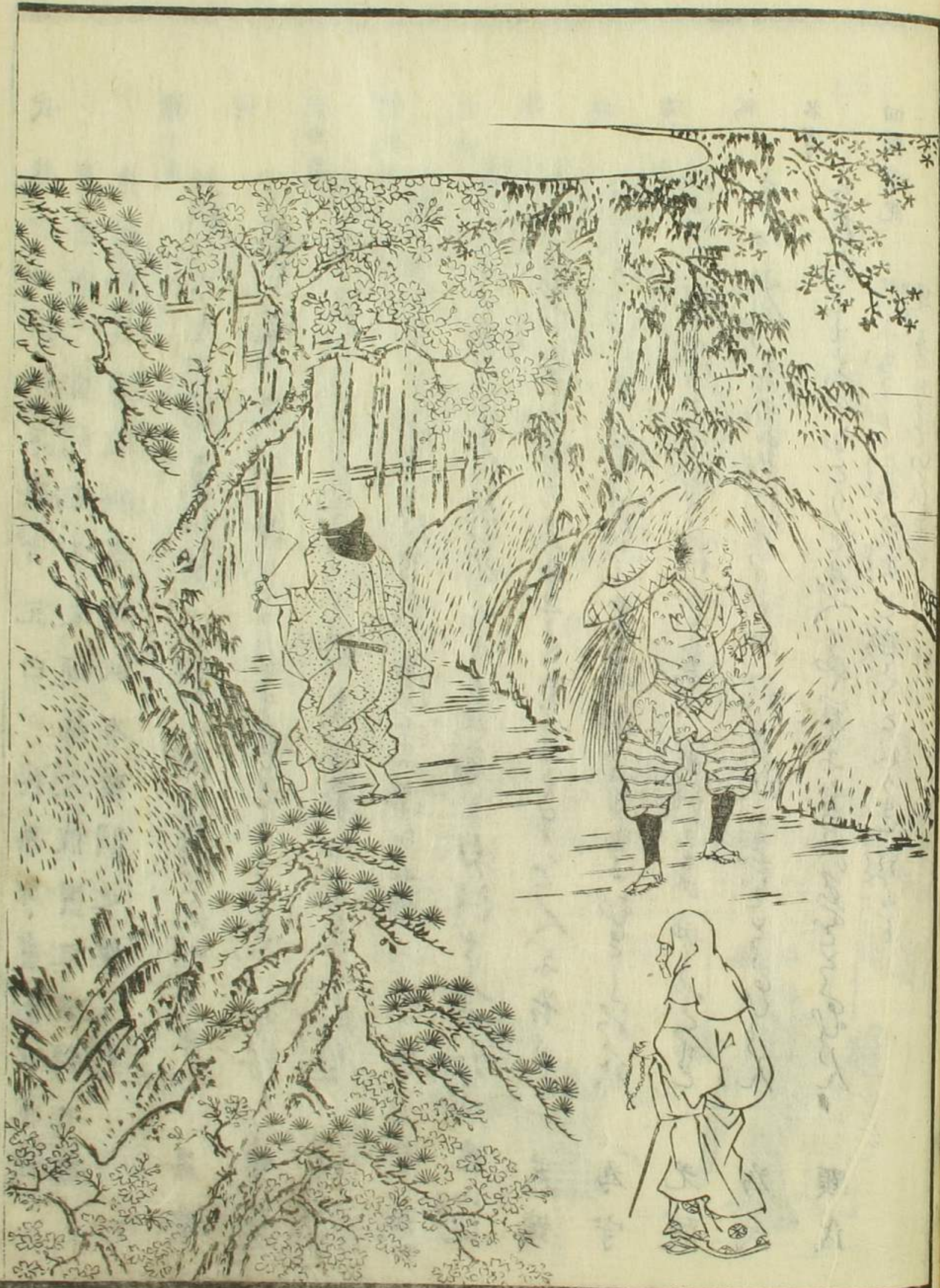
霞う關ハ西よき岳あり東向のありハやハミエキ西より河ありと

あり武蔵風土記ハ荏原郡東ハ霞う關ハ限りあり此地今ハ豊島郡に

旧村李吟翁云浮橋をすきく霞村との名霞う關の旧地ありといふと云々

地名





霞
う
關
古
圖



溜池白山祠



武蔵野地名考云或古記曰 荏原郡霞關日本武
尊蝦夷之儲關也尔来連綿大被置之奉國之勝
景而然其远眺隔雲霞故有霞關之稱云云

續千載

此祠之在石室也其祠之在石室也

為世

同

此祠之在石室也其祠之在石室也

宣子

新拾遺

此祠之在石室也其祠之在石室也

仙洞

新明題

此祠之在石室也其祠之在石室也

龜山院

夫木

此祠之在石室也其祠之在石室也

慈鎮

同

此祠之在石室也其祠之在石室也

為守

同

此祠之在石室也其祠之在石室也

光隨

同

此祠之在石室也其祠之在石室也

為氏

名寄

此祠之在石室也其祠之在石室也

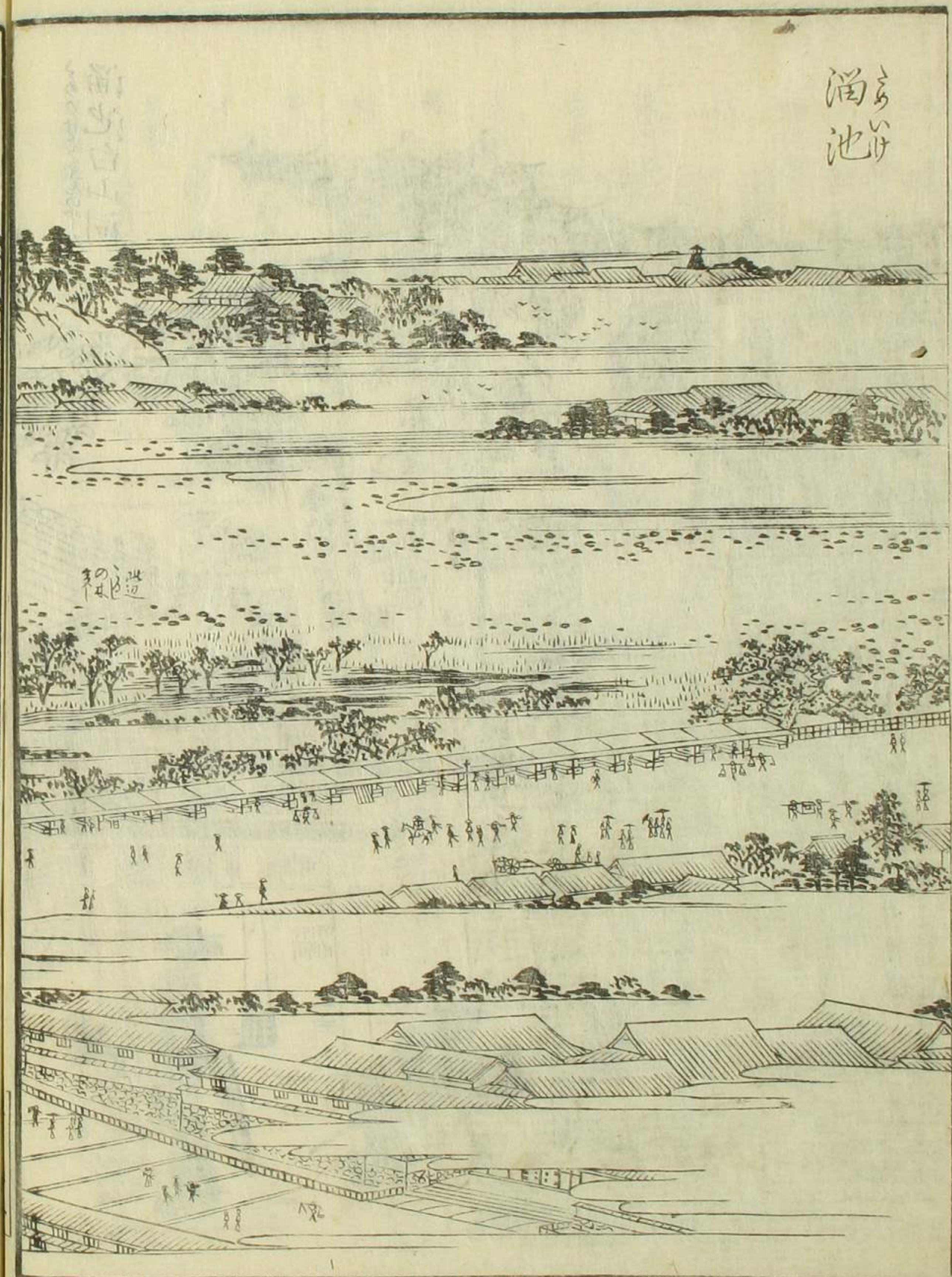
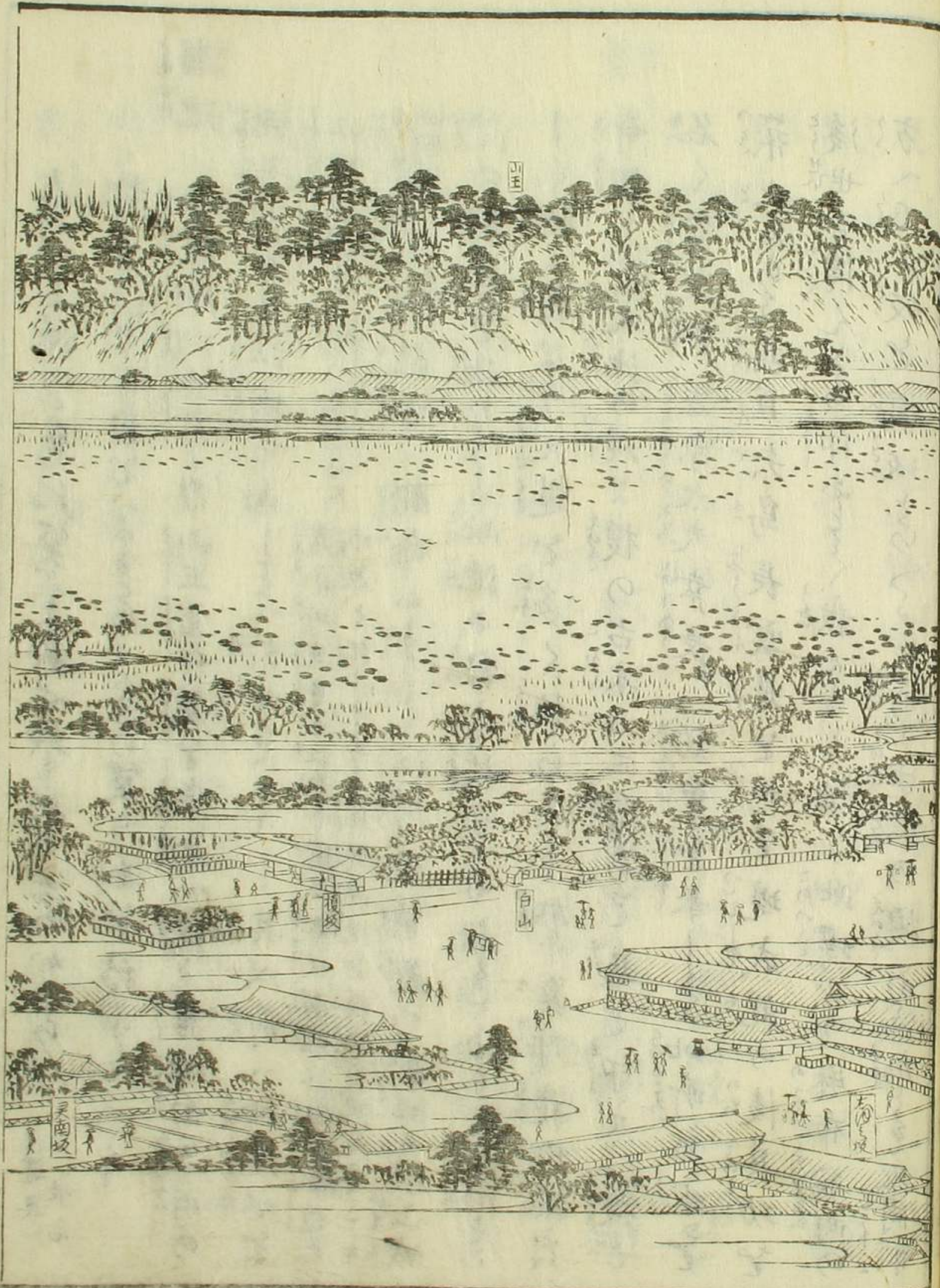
頭氏

田國雜記

此祠之在石室也其祠之在石室也

頭氏

此祠之在石室也其祠之在石室也



あひま踏のあはた実小幸越て我もたふまをかへらん 道典 准后

都のつとくを承せよとめ一處の冥も去を待らん 同

溜池 赤坂御門の外より山王宮の麓を東南へ繞る昔神田玉川の

西上水のまゝ江城の御まへへ引せらるり其以前ハ此池水を

上水に用られしとある 寛永明曆等の江戸の圖ハ赤坂溜池に江戸水道の

大なる誤りあり 往古 釣命より江州琵琶湖の麴地ハ山城

淀の輕等を活ならし此池小移し故よりめりしとありしと云ふ

一々他は異なり又蓮を多く植らしし一故ハ夏月花の盛なり

奇觀とす又池の堤は榎の古本二三株あり是を印乃榎と

名く昔浅野左京大夫幸長 釣命を奉し此所の水を

築止めり其臣矢島長雲是を司り堤成就の後其功を

後世に傳んとめ印やしく栽りしとあり此堤より麻布谷町の

方へ下る坂を榎坂といふ前ハ述所の榎ありたそ又同所

堤の北の方辻番所の脇堤の傍に葵を植る地あり土俗

葵の岡と云ふハせりこのあり東へ向ひく下る坂を葵

坂と号く 榎ハ小田原北条家の古文書太田新次郎所領ハ江戸櫻田池分と云ふ地名を

靈南坂 溜池の上より麻布へ登る坂といふ慶長の頃高輪の東禪

寺此地にあり 寛永九年の江戸圖より此ハ 彼寺の閑山を靈南和尚と

稱せ道光を慕ひく坂の号ハ呼ぶと云ふ潮見坂ハ同所松平

大和侯の表門前より傍めく溜池の上より東へ下る坂をいふ

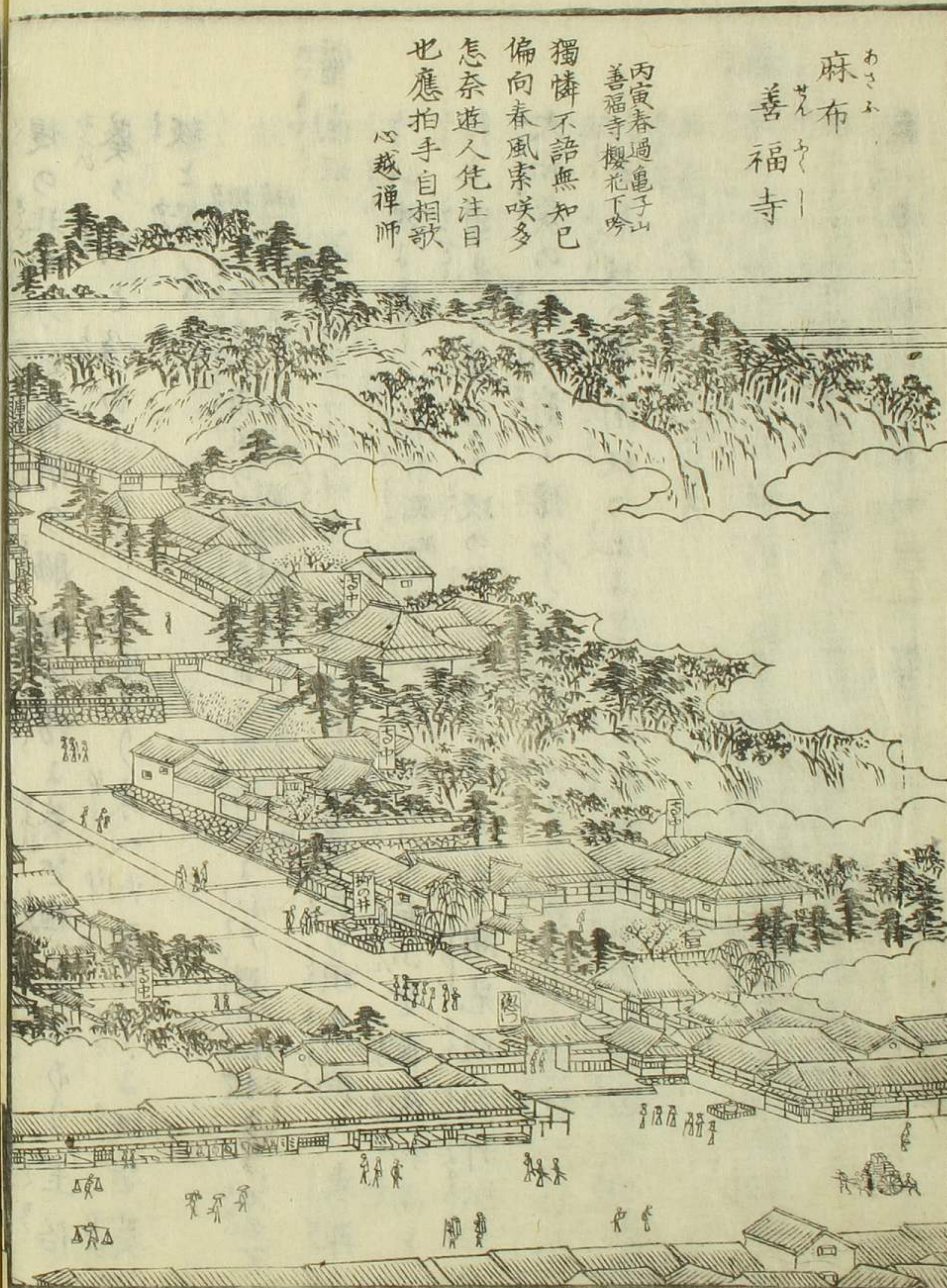
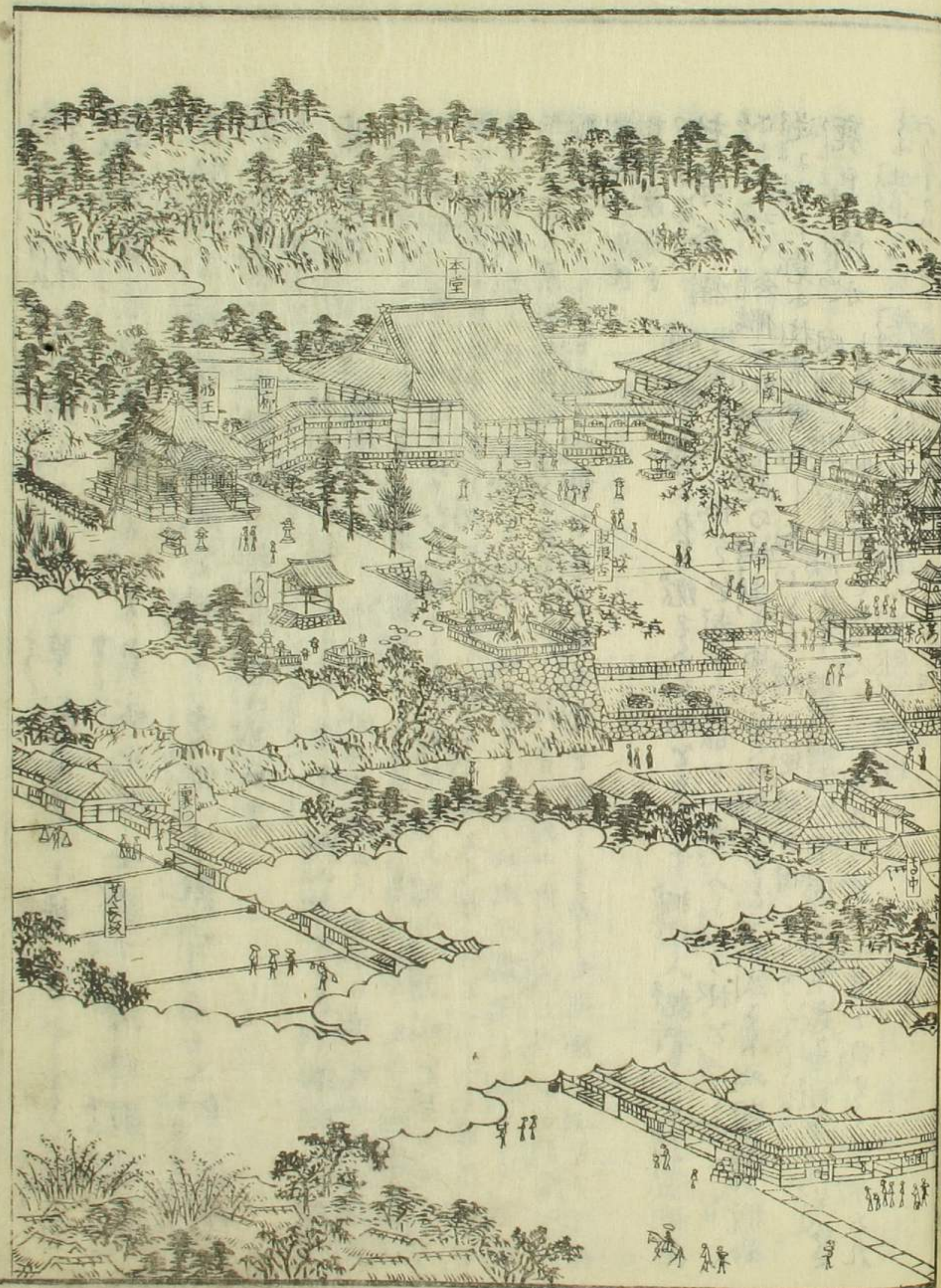
江戸見坂ハ靈南坂の上より土岐牧野両家の北の股を曲りて

西窪の方へ下る坂なり

麻布山善福寺 麻布雑色にあり 昔ハ龜子山と 親鸞上人弘法乃

地や當宗開東七箇の大寺の一員了海上人閑山たり

龜山帝の勅額本尊阿彌陀如来の像ハ惠心僧都の作なり



麻布あさふ
善福寺ぜんぷくじ

丙寅春過龜子山
善福寺櫻花下吟
獨憐不語無知己
偏向春風索咲多
怎奈遊人凭注目
也應拍手自相歌
心越禪師

往古ハ南紀の野山ニ象テ草創あり一梵宇中ニ初メ
真言密乘の勝區たり一貞永元年壬辰了海師親寫上
の弘法ニ歸化一宗風を結テ支院十餘宇あり

藏王權現堂 本堂の南岳の上ニあり當寺の開山堂中ニ了海堂ニ麻布
權現とも稱す徳へい開山佛海上人在世の頃藏王權現老翁
の形ニ現し上人のまゝ法義を聴聞し又當時若くは
造り其神告ニ任せし假面を胎中ニ収めしあり依りて海上人自齊と下ニ自の像と
七月十五日草角カ與佛形ありまて十月三日ハ開山師身持と唱ふも行つたり
則開山忌日此日新水盤を造り彼木像を浴しまわらせ平座ニ安んず間僧
徒等阿彌陀
佛を讀誦す

杖銀杏樹 開山堂の前ニあり石垣をめぐりす相傳へ親寫上人了海師に
附法あり後去りぬの頃の携へた杖と此地ニ指す
逆ニて云く念佛の弘法允夫の往生も尚く杖の携へた杖と云く然る小此樹忽ニ根芽
鹿島清水 怒門と中門との間にあり往古弘法大師常陸國鹿島明神に
とも其中一ツハ空水ありと一ツは昔ハ其剛小柳樹
あり一ハ一名を楊柳水とも唱へ候と云く

寺記云中興開山了海上人ハ鳥羽院の苗裔左大臣藤原信實
公の息男なり信實公故あり當國ニ放れ品川の近邑にあり

請しむひこれ其室白布を吞と夢見く懐肚一建仁元年辛酉
林鐘十五日一男子を誕生も了海上人其時後園松樹の下に忽
然と清泉涌出せり 此故小海上人の幼名を松君と号けり理の名を大井と
唱へり大井私福寺の系下ニ詳かり

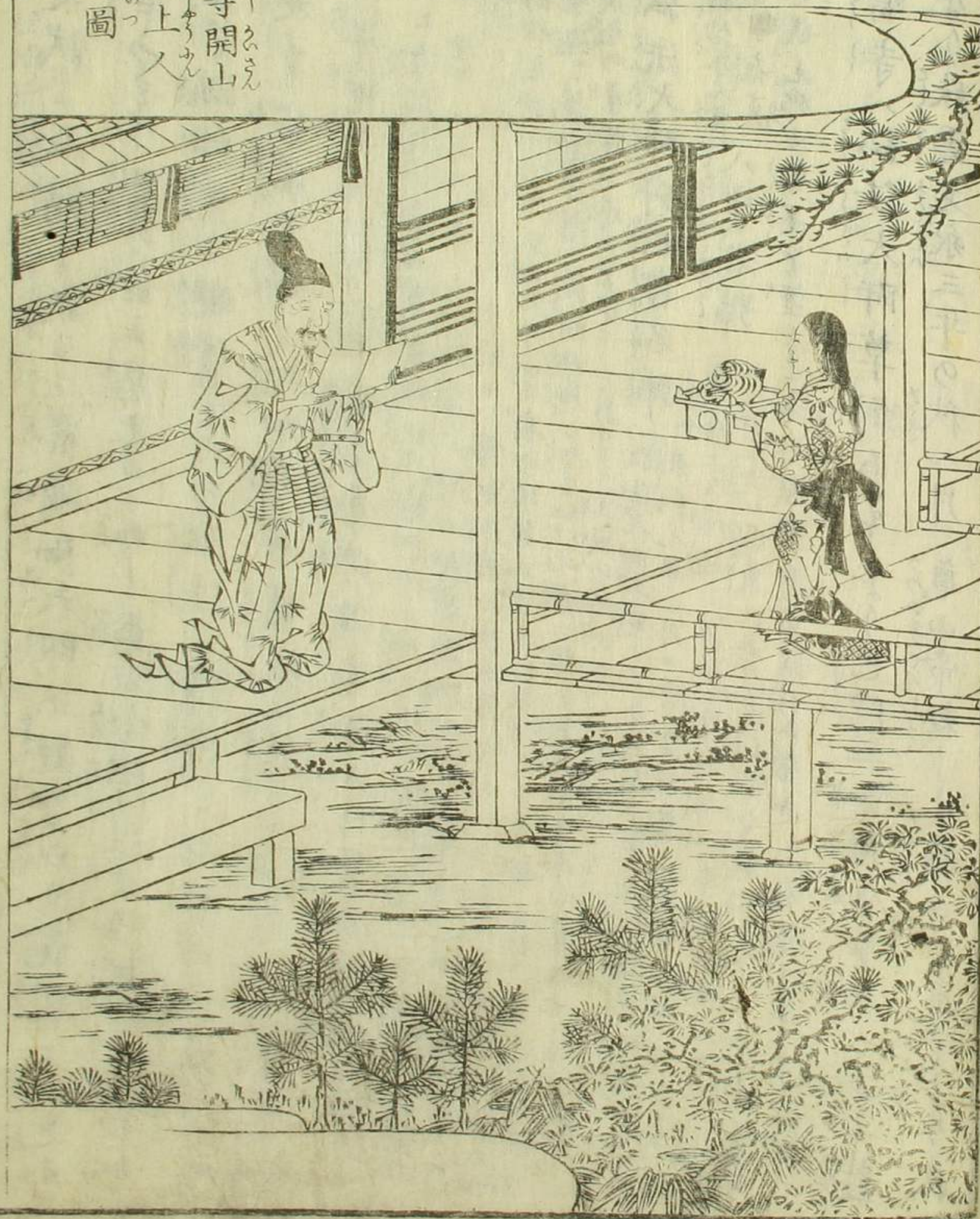
依人皆奇異とす此兒七歳の春父告く出離の志ありを頭ハ
せり故小實相寺の範賢律師ニ投し鬚髮を剃除し了海と号く

一書ニ歳山ニ登り静榮僧伽 是より後數字窓ニ身を委ね諸宗を濟せ
竟古郷小歸る本願弘興の基趾を求めんと則藏王權現の
叢祠ニ詣し是を祈り靈瑞小あり此地小至る一精舎あり

今善福 神の教ありしを知らずく止住一年を歴り然貞永
元年壬辰親寫上人東國経回の時適當寺入るひ一ハ海師其

元年壬辰親寫上人東國経回の時適當寺入るひ一ハ海師其

善福寺開山
了海上人
誕生圖



夜試は屈請に談は三蜜論伽六即止觀を以て親鸞上人是の
答ふより響の音に應ずるにめ、竟は念佛往生の理を論するに
至り海師直は親鸞上人の弘法は帰降し師資の約嚴中て
是より宗風を授け化を布り遠近に普く
二年甲午十一月六日前念命終後念即生の素懐を遂げられり
以上寺記及び二十四輩靈場記の意を採り佛光寺の實録に云く了海上人元應二
年庚申正月廿八日八十二歳中く寂す武蔵國阿佐布善福寺と号し延應元年
誕生廿四歳の時祖師圓寂云傳燈系圖元應二年十一月六日寂又大谷遺跡録に云
高祖滅後十六年弘安元年四十歳の項與正寺に入弟四世の寺務となり永仁五年願念
誓海は寺務を譲り武州麻布に下る元應二年の春正月化縁の薪及く廿八日即生
後念の素懐を遂げられり
弘法大師刷毛書名跡 弘法大師入定し三月十五日空海書と帝勅ありあり今
猶存す當り八字名跡 親鸞上人歸洛ありあり後海師一年都へ登り上人の諱を
寺に存す 八字名跡 上人云く彼ハ關東にありあり門徒を教化ししと南无不可
思議光佛と翰墨を瀝く是を海師にたまふなる當寺の什宝とす
當寺ハ弘法大師草創ありより已降一千餘歳を経く古藍
なり殊更文永三年の秋八月 龜山帝勅し願寺とありあり

薦神一貞誥聖及び俸田を賜ふ境内は古墳多く最古跡あり
明けし今一向専修の宗風盛中く化導遠近に普く

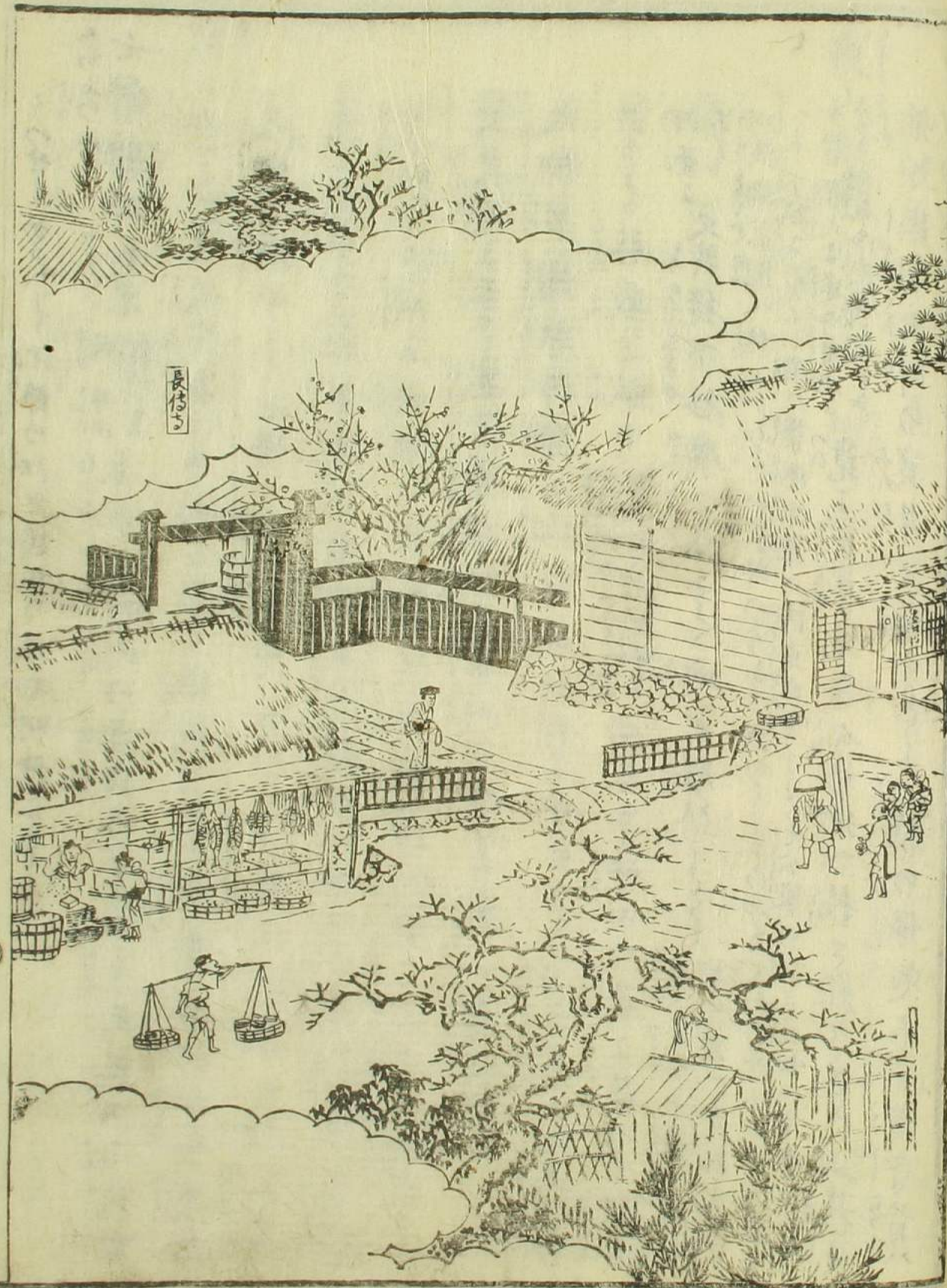
一本松 同所北の裏通り一本松町道の傍にあり一株の松は注連を
懸其下小垣を廻らせり里諺に云く六孫王経基此地を過る頃此
松は衣冠を懸ありと冠松の名ありとも其餘の松の説ありとも
分明ありす今此辺を一本松と号し地名とあり或云小野
篁の植る所ありとも

氷川明神社 同通り南の方上野町道より左側よりあり麻布の惣鎮
守中々祭礼ハ八月十七日あり相傳へ文明年間太田道灌當國
一宮氷川明神を勧請する所中々旧地ハ同所宮村の切通坂に

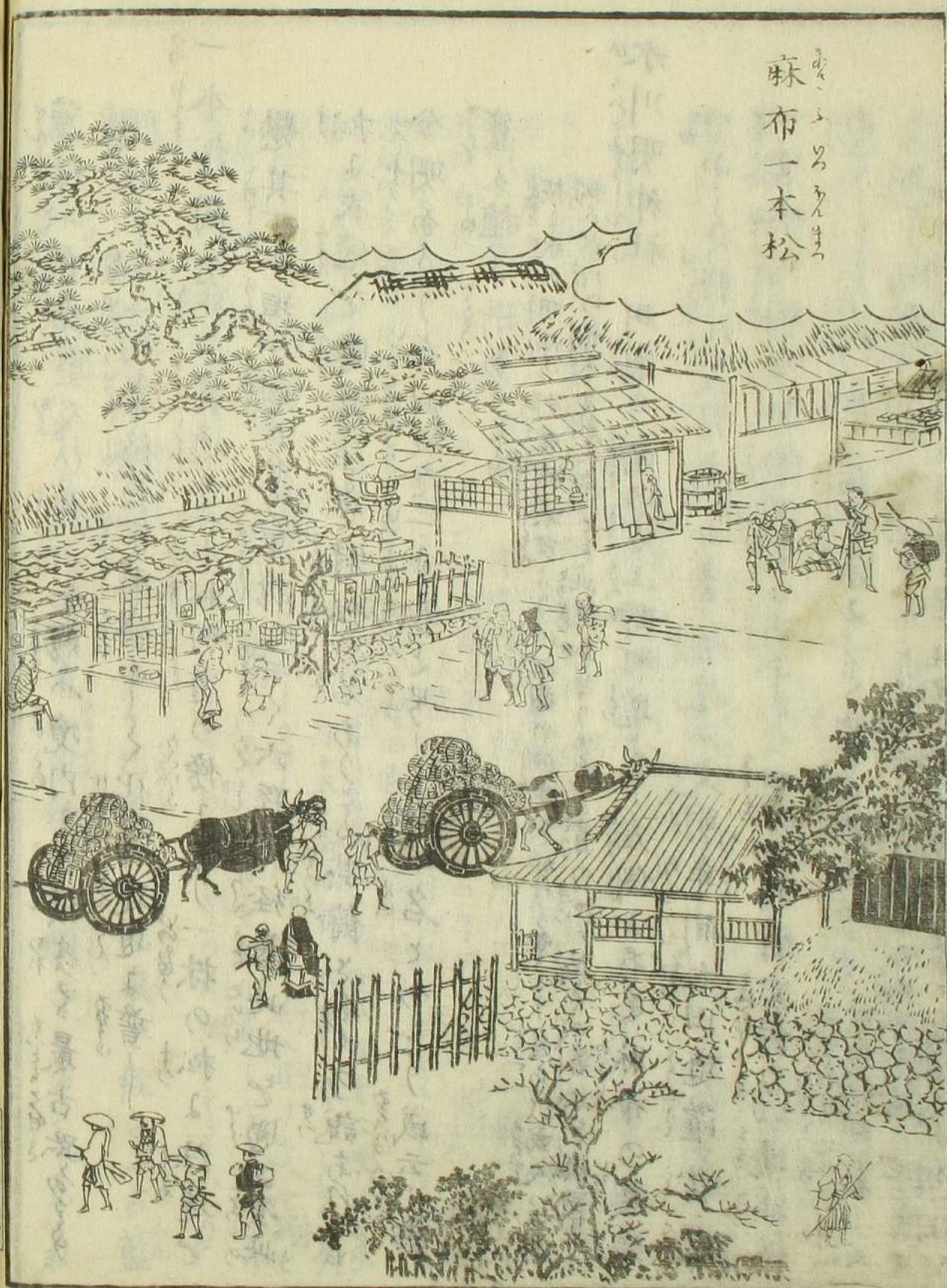
ありとも別當ハ真言宗中々徳衆寺と号す 同所長坂あり又
三の鳥井ハ今所彌鳥井坂の地ありとも其旧地今ハ象山の住持退隱の地とあり
露白和尚實文二年の九月にゆき此地に隱栖ありとも其傳今の所ハ社と

按て氷川明神の別當徳衆院より此松樹の注連をかけりゆき急り或人のいふ此
樹ハ氷川の神木とありと此説是なりされ背の松ハ樹々今善本と推置り

古老云昔の二鳥井ハ



麻布一本松



うつせゝかゝり元禄の江戸岡を麻布明神とあり

七佛薬師如来或ハ神田麻布本村町の南坂の下り口左側医王山東福

寺といふ天台宗の寺内はあり録起云々本尊薬師如来傳教

大師の作ゆゑ七佛の其一員ありその六孫王経基の持念佛

たりゆゑ永業年間頼義朝臣鎌倉へ移され後代々の官領

崇敬あり然る長禄の頃太田道真當國河越の城中に安置し

又文明に至り其子道灌江戸平川に移せり然る慶長五年

大神君關原沙陣の初慈眼大師を命せしむ此本尊の所祈念

ありと巻敷を献せ今此例ゆゑ同九年神田の臺に移さる其地

河臺又其後下谷廣小路あり地を賜ひしと紫の一本は廣小路の

以後南菜園へ移るとあり此菜師のゆゑあり成の天和二年壬戌のゆゑあり

八日下谷は逢甲用地的な崇源院慶の所建立ありしと公家の記は天和二年十二月

起と慈眼大師の眞筆と添らるし一軸の録起あり當寺昔ハ

仙波喜多院に属せり慈眼大師の時より上野に属せり

霞山稻荷明神祠 櫻田町道より右にあり往古ハ櫻田霞に屬しあり

とと所廓定より頃今の地へ移さるしと別當ハ天台宗あり

霞山櫻田寺観明院と号く本尊陀拈尼天像ハ足利義國の守

神中て行基大士の作秩父重康安置せりと云相傳ハ當社ハ淡谷

莊司重國勸請し文明中道灌再興せり又往古右大将頼朝卿

櫻田村あり美田五百七十石を寄附あり供田の印ハ櫻樹を植

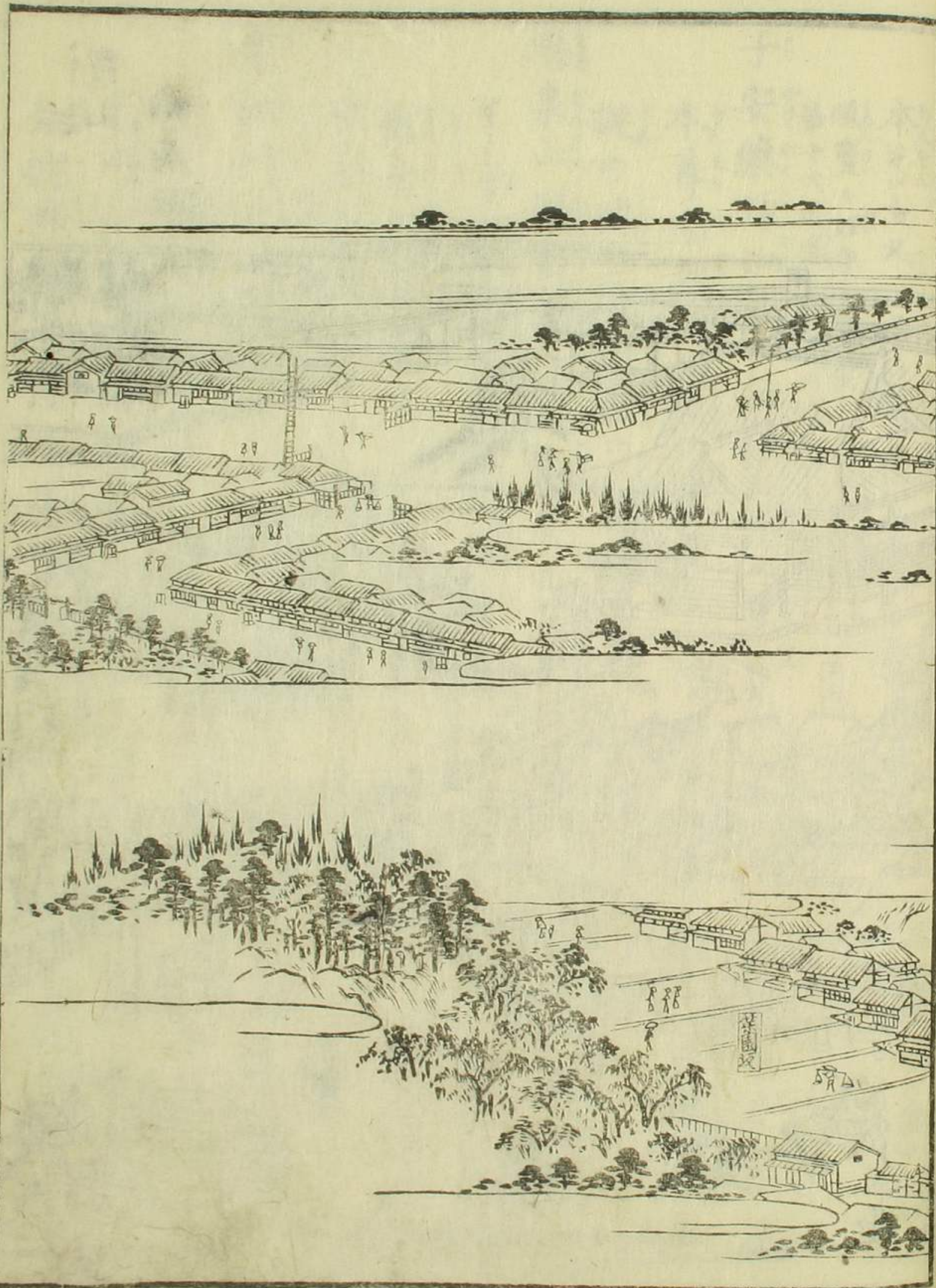
要害を構へ江戸太郎重長を往來を故やむ其後遙小年

月を歴る此地と共に社を麻布へ移されしとあり今麻布櫻田町百姓町杯

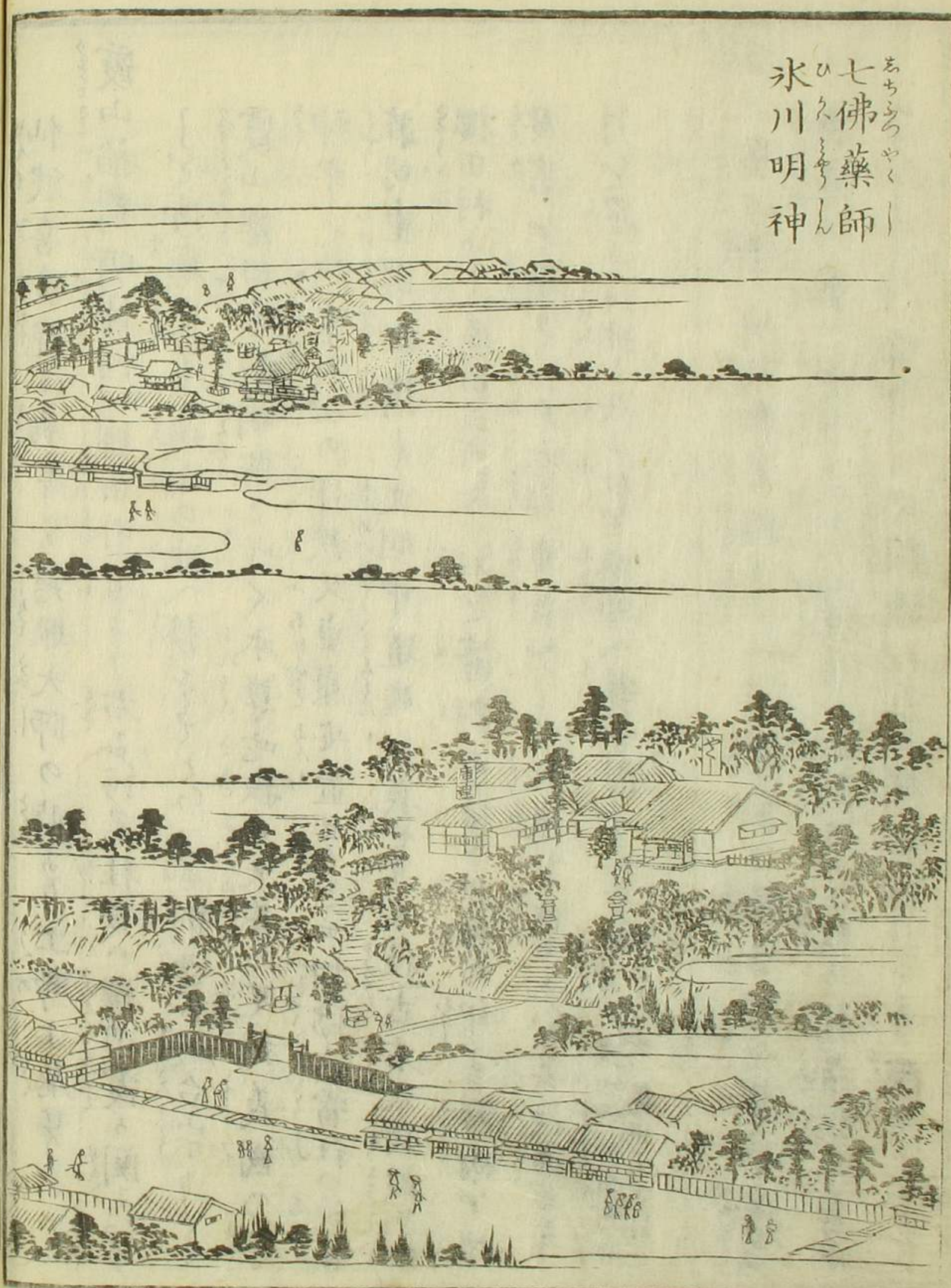
朝日觀世音 同向側專稱寺といふ浄家の精舎に安置し本尊

觀音の像ハ長者丸の叢より出現あり故に作者何人か

るをあるに當寺ハ三光院清心尼の開創あり寺院あり



あちあちやくし
七佛薬師
氷川明神



霞山
稻荷社



本尊も又此尼の信ありて靈佛ありといふ
清心尼の御田信長公の侍女中より筒井の

子安薬師如来 同南に並み真言宗正光院といふに安置す

本尊瑠璃光如来の像ハ惠心僧都の作中より一條帝御降

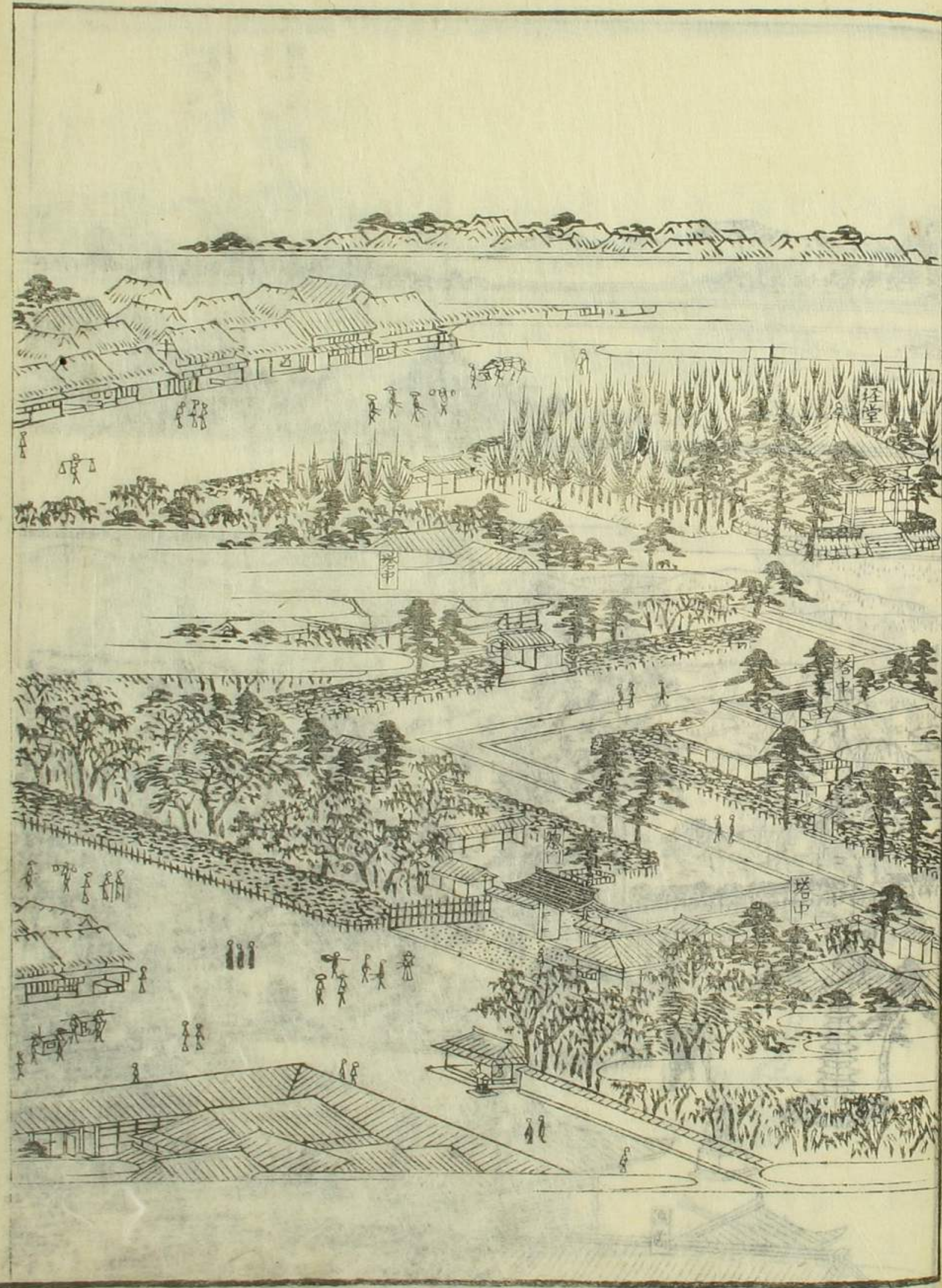
瑞泉山祥雲禪寺 廣尾町にあり
北条家西領領帳に真津加賀守櫻田の内平尾の地を領すとありて櫻田は

龍岳大和尚開基ハ松平筑前守長政なり
祥雲ハ則ち支院ハ宇治其法影也

毘沙門天 同所四丁斗巽の方渋谷川の北岸多門山天現寺と

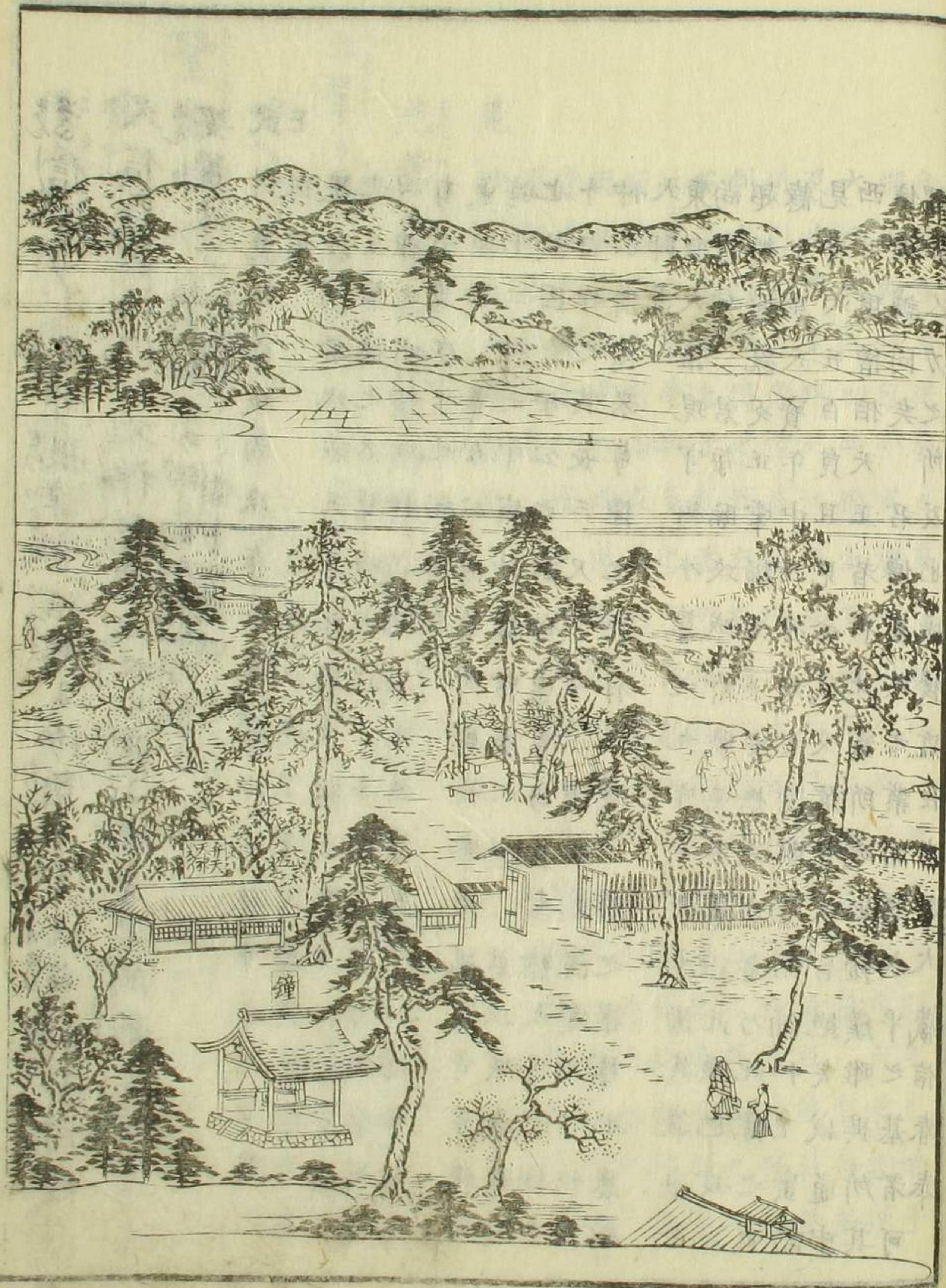
いづる禪刹に安置せり本尊毘沙門天の靈像ハ樟の丸木作

念持佛中より源家累代守護の靈像といふ
其丈三相傳人多田満仲の尺一寸 傳通院殿深く

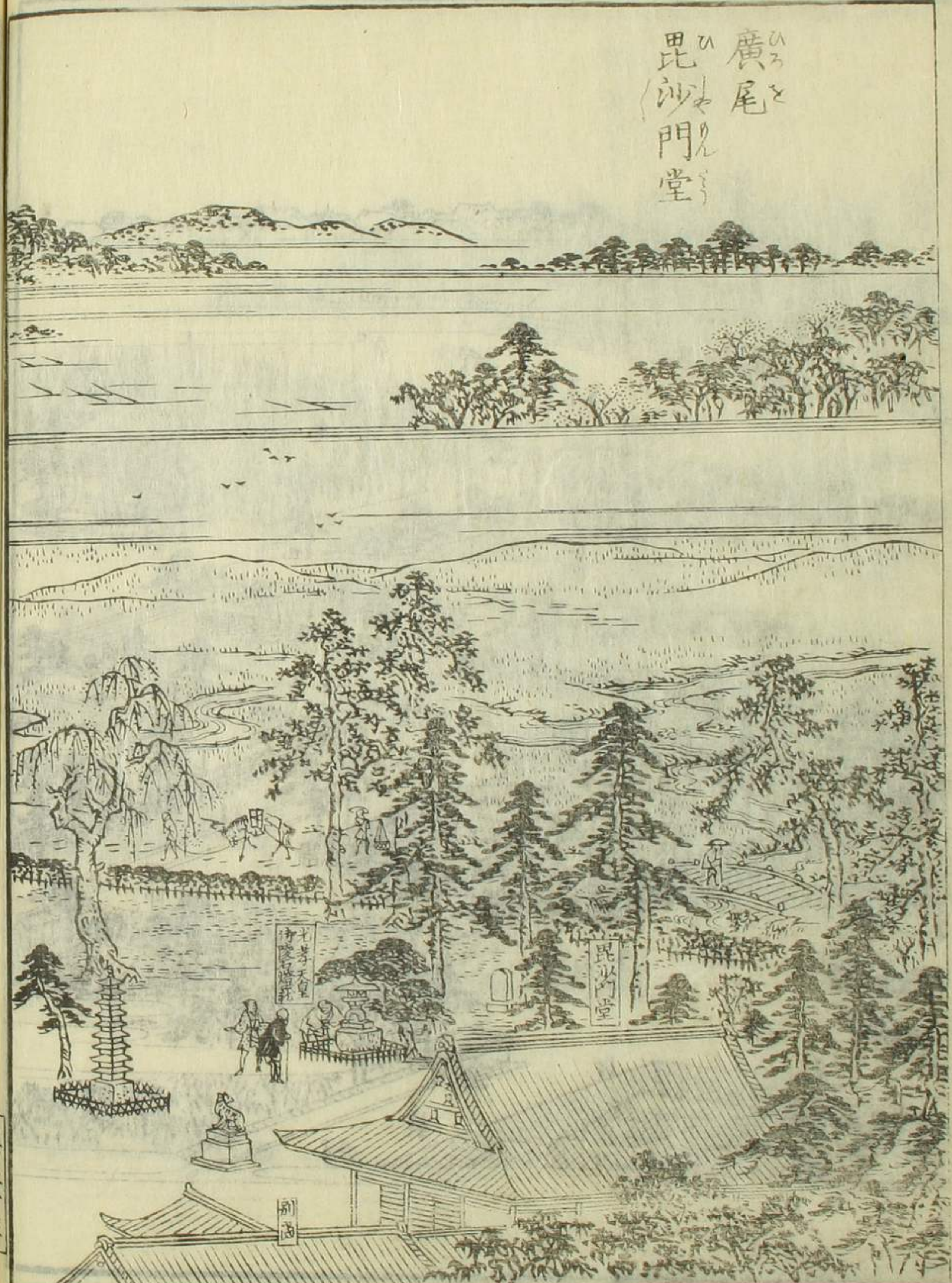


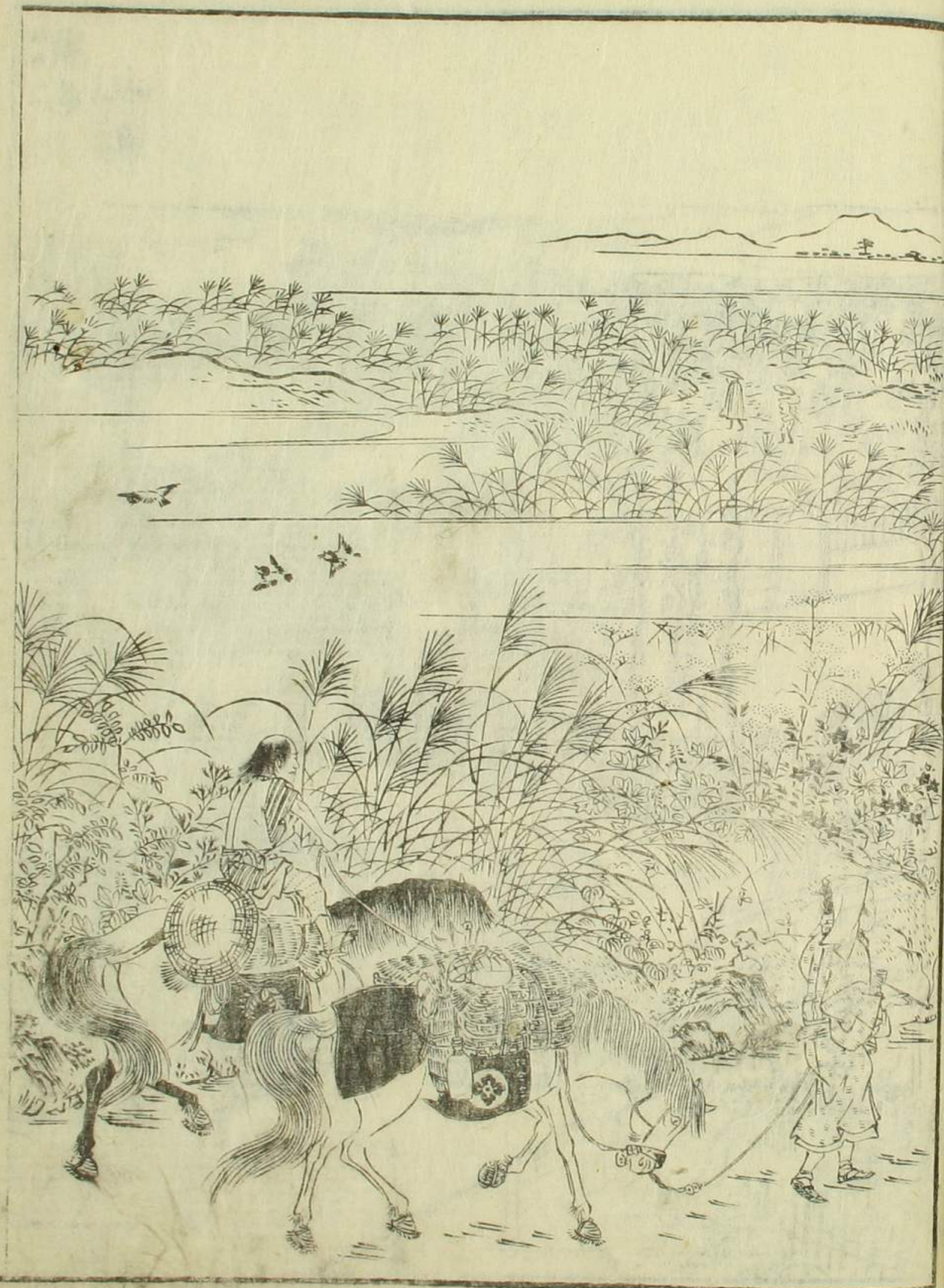
廣尾
祥雲寺



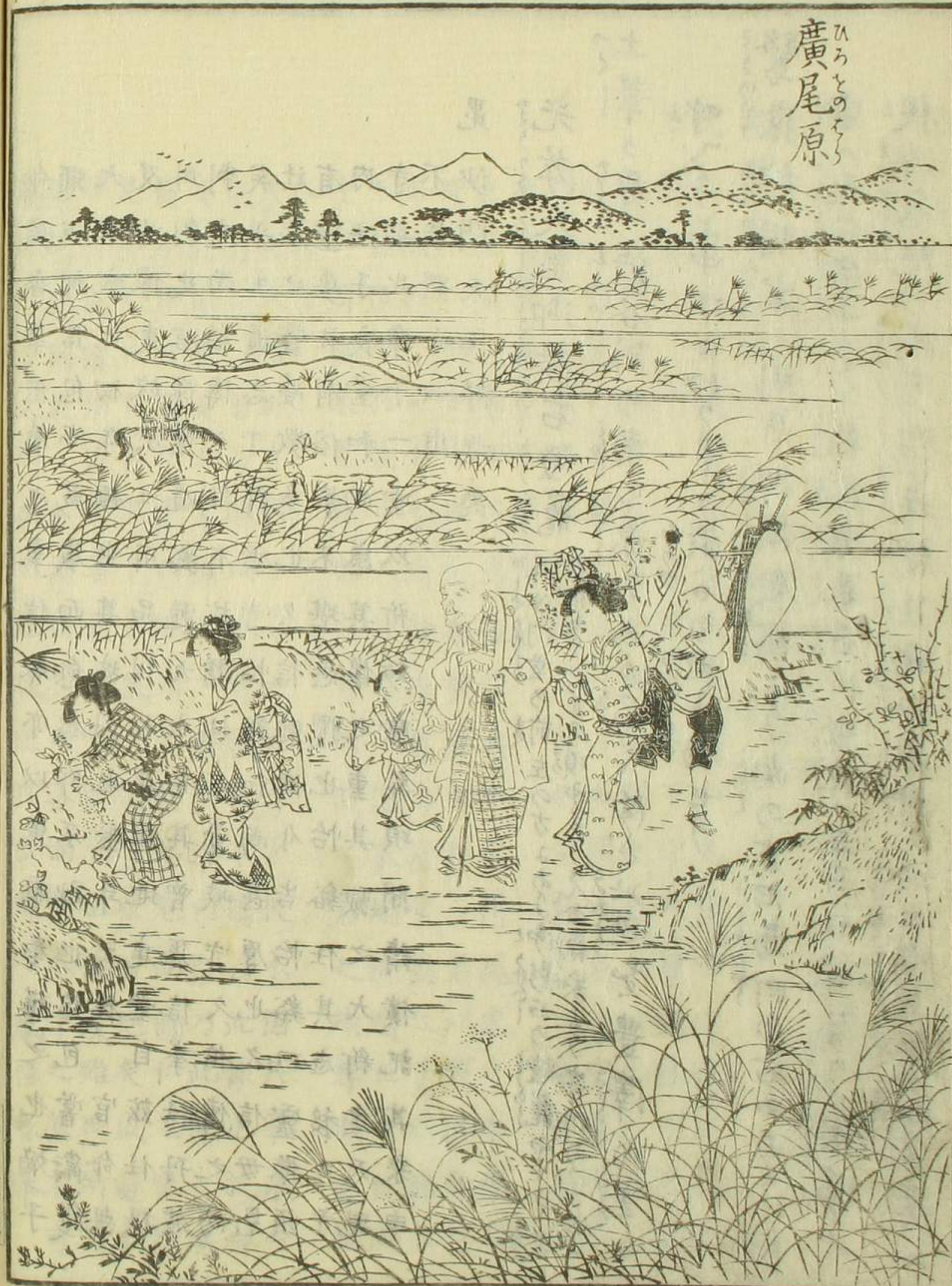


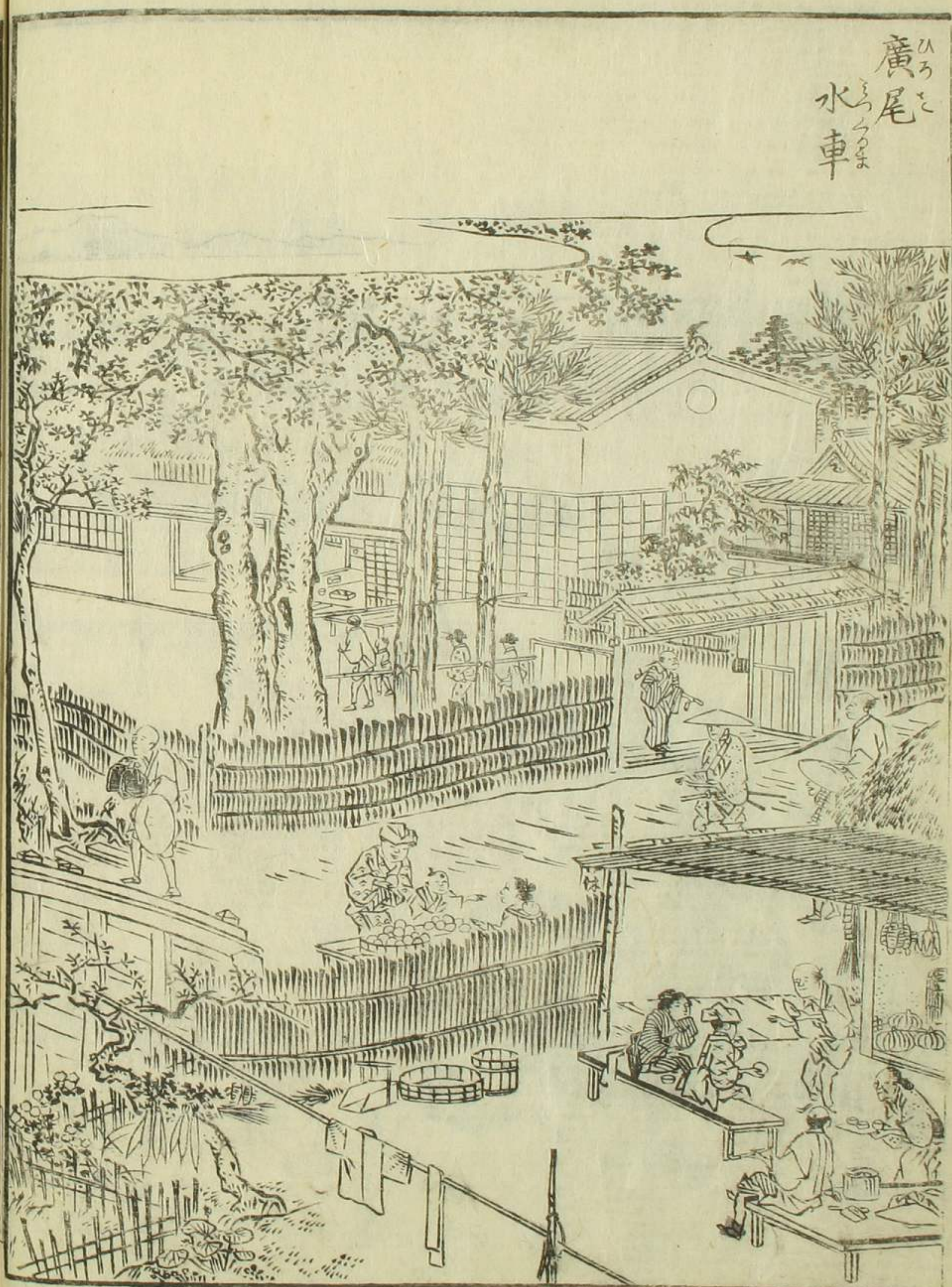
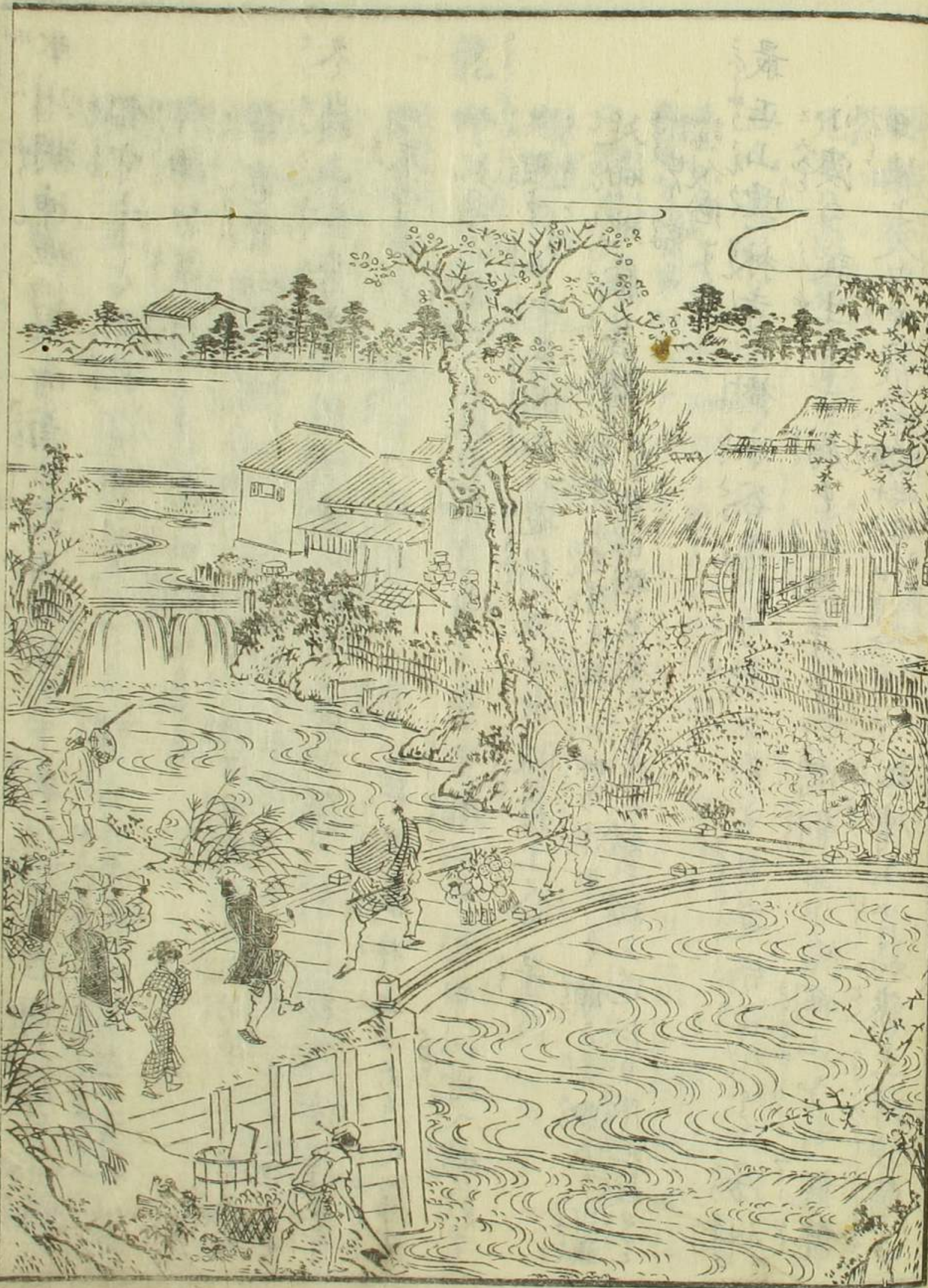
廣尾
毘沙門堂





ひろとの
廣尾原





ひろ
こ
廣尾
水車
ま

氷川明神社 同所南の方三鉢坂の下東の通り右側より白銀の

鎮守中々祭礼ハ九月十九日なり傳へ云日本武尊當國一宮氷川の

御神と遙拜一あり旧跡なりとを

雷電宮 同社地北より相傳ふ白河院の御宇當國疫疾流行す氷川明神の

冬嶺山松秀寺 同所東の方一丁斗を隔つ相州藤澤清浄光寺

の末寺中々時宗の道場なり昔ハ武州高井土よりあり常光

寺とのひ遊行上人の宿寺なりと宝曆二年壬申此地へ移れと

其時より松中興開山ハ遊行五十世快存上人と号し

延命地藏菩薩 當寺ハ安置を徳一大師の作中々頗る靈驗あり祈願

最正山覺林寺 樹木谷道より右ゆありと日蓮宗中々房州

小湊の誕生寺ハ屬を元禄年中の開創中々開山を可觀院

日延上人と号し 相傳ふ昔加藤主計頭清心

朝鮮征伐の時彼國の王子連枝二人を日本へ連れ沙門とあり

兄とハ高麗日遙上人と号し肥後國本妙寺の開山とを弟ハ則日延

上人是なりと當寺ハ清正の画像一幅を藏す 生前自画あり

正五九月廿四日毎ハ神前ハおのく十卷陀羅尼を讀誦す 又清正朝鮮征伐

の時兜の内ハ籠られ釋迦如来の像并朝鮮國より軍弓を

申送られ書簡も何事も開山上人當寺へ收られとあり

龍吟山與雲院 同所坂の上よりあり曹洞派の禪林中々芝二本

榎廣岳院ハ屬す

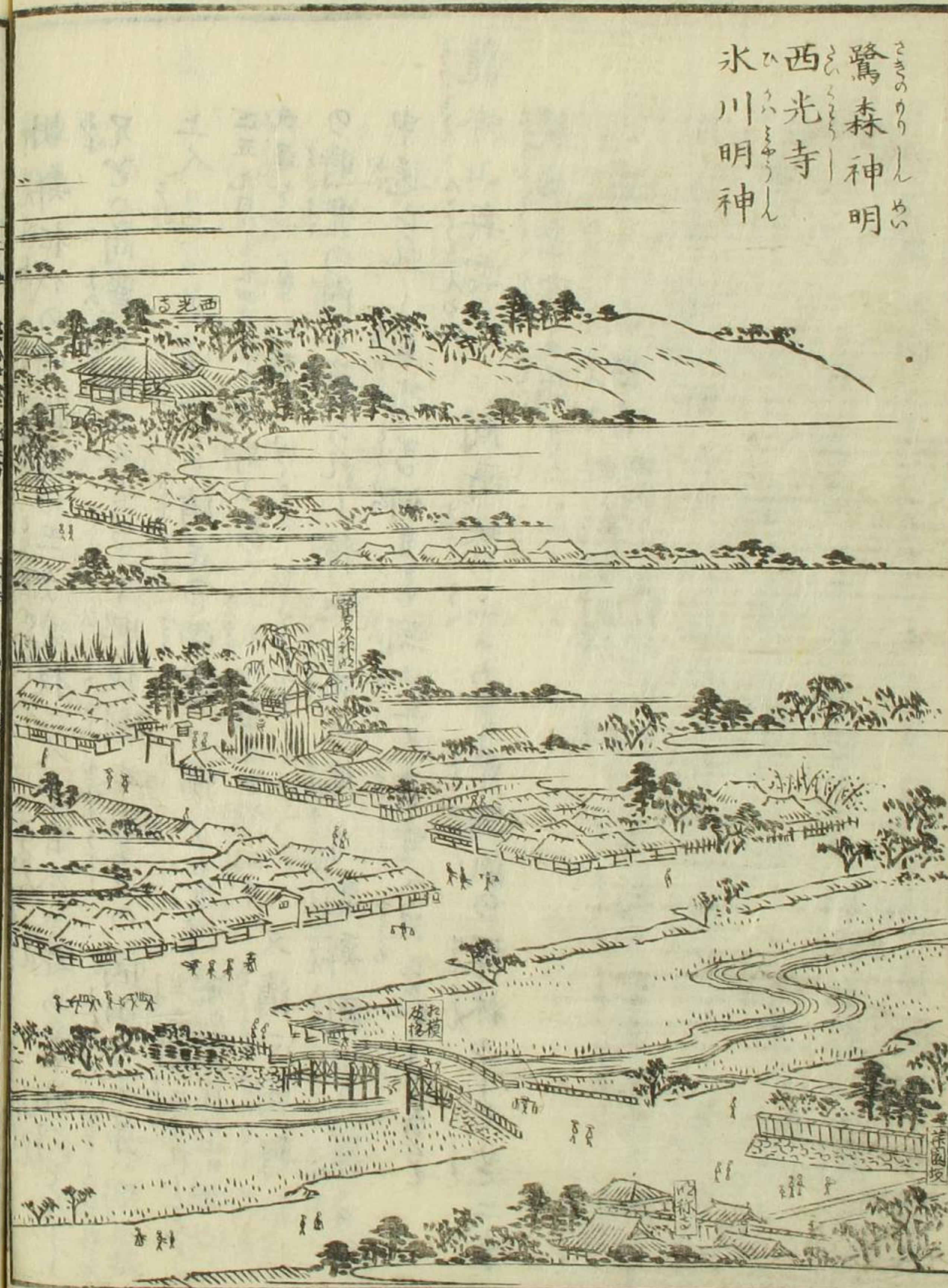
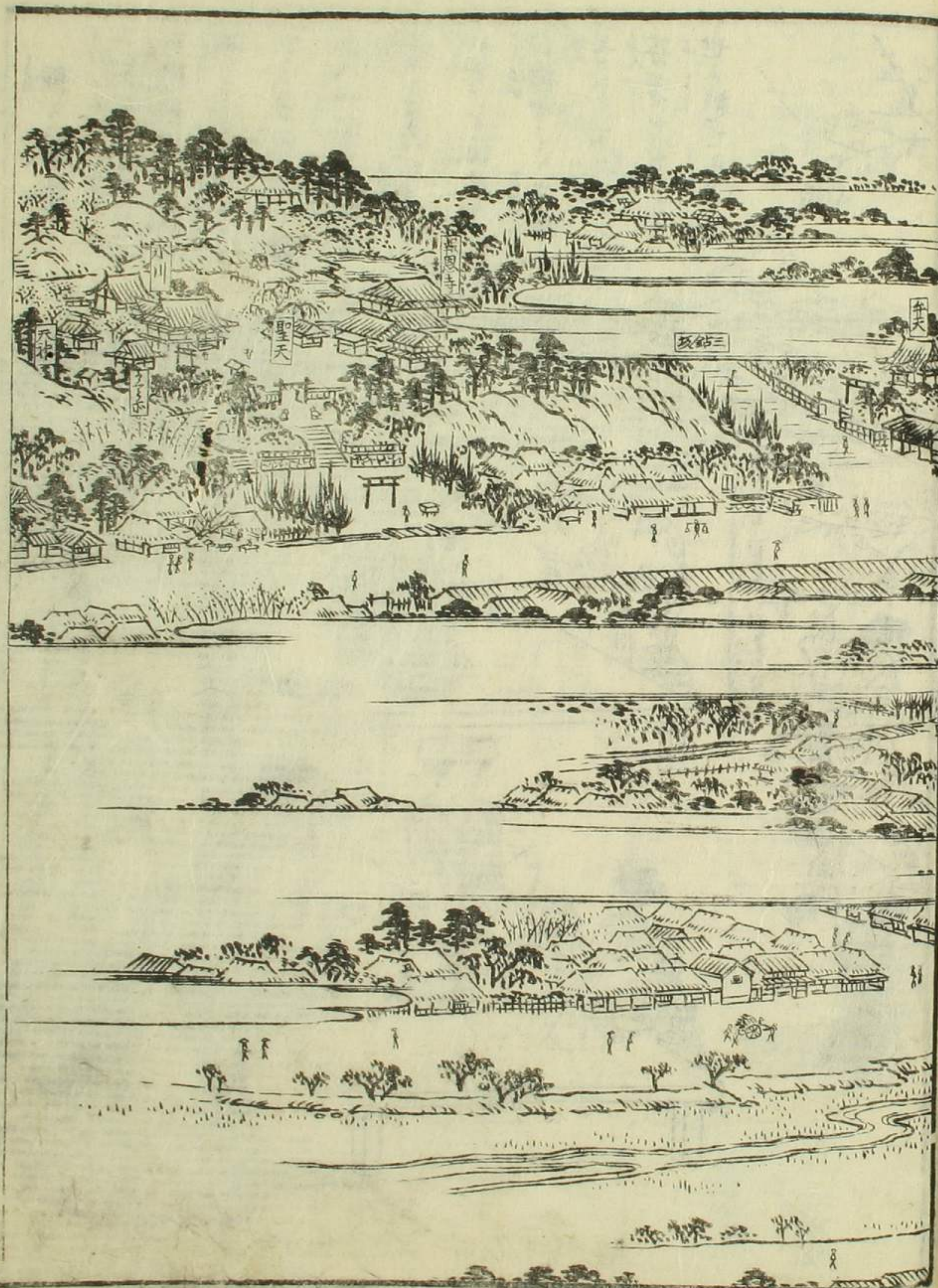
本尊十一面觀音 世ハ養食觀音とも稱す 縁起云聖武天皇の御宇

誓文會誓主勲和州長谷寺の觀音を彫刻なりとあり

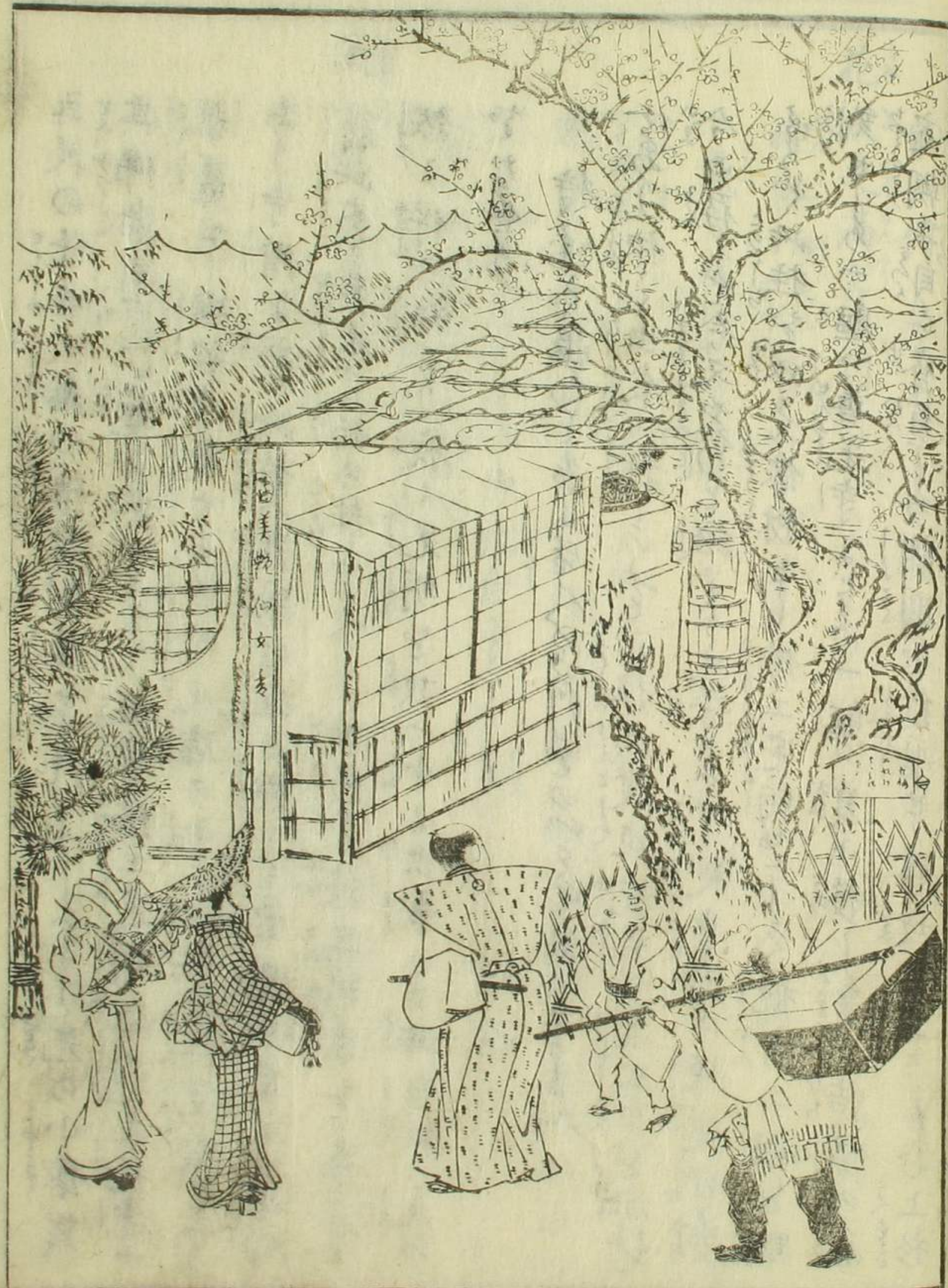
其餘材を以觀音の像七軀を造立し所より安置ハ當寺の中

長一十八 然上杉謙信此本尊と誓の中に収られし度ハ此

合戦ハ勝利ありとあり信大方あり又謙信旅僧あり立像



鷺森神明
西光寺
氷川明神



梅う茶屋
 三鈷坂より左の方
 白銀氷川の社に
 側あり一年遊行
 五十二世阿一海
 上人此家の梅を
 愛たりし一首の
 和奇を詠せし
 白梅やま床梅と
 号するは二月の
 芬芳まきま
 よこせ
 世よ越て高



二尺の千手大悲の像を附屬せしめしむる先の小像哉
其佛胎の中に籠られしとあり往昔佛工定朝信州善光寺に
奉篋せし頃彼寺焼亡せし其時灰燼の中は一本の柱焼残りし
あり寺僧は問は此柱ハ喪喰の柱と稱し當時初建立の時老
翁此木を負来り西の柱とせしと云終る後其形方をあらず
然る件の柱より夜々光明を放つ中は虫食する跡自然文字
をあらせり

待倦く眼むとあま暗人のつらさを急うとらん

とあり依り虫食の柱とを此柱三度追焼亡の其火災を除れ
今も存し今又妙と語る然るも夜寺内の僧徒皆夢
々々此柱を以て像材と佛工定朝を以て觀音二軀を彫
刻せし一軀ハ善光寺と一軀ハ笈小移し結縁の爲
定朝より自ら脊負し諸國を往歴せむ故やありとむ上杉

花

家傳りありと後當寺に遷し置る
城天満宮 同所南の方あり松久寺との禪林に安置し

神幹 菅公の清作ありと相傳ふ仁和二年菅公四十

二歳よりなせし春除厄の爲は自彫刻しあり

又云此像ハ延喜元年大宰帥に左

遷せし彼地に至る頃河内國土師里に在る所叔母君の

方へ立寄らせし所記念とせし肖像なりと傳

文祿の頃加藤家の臣山田氏

英

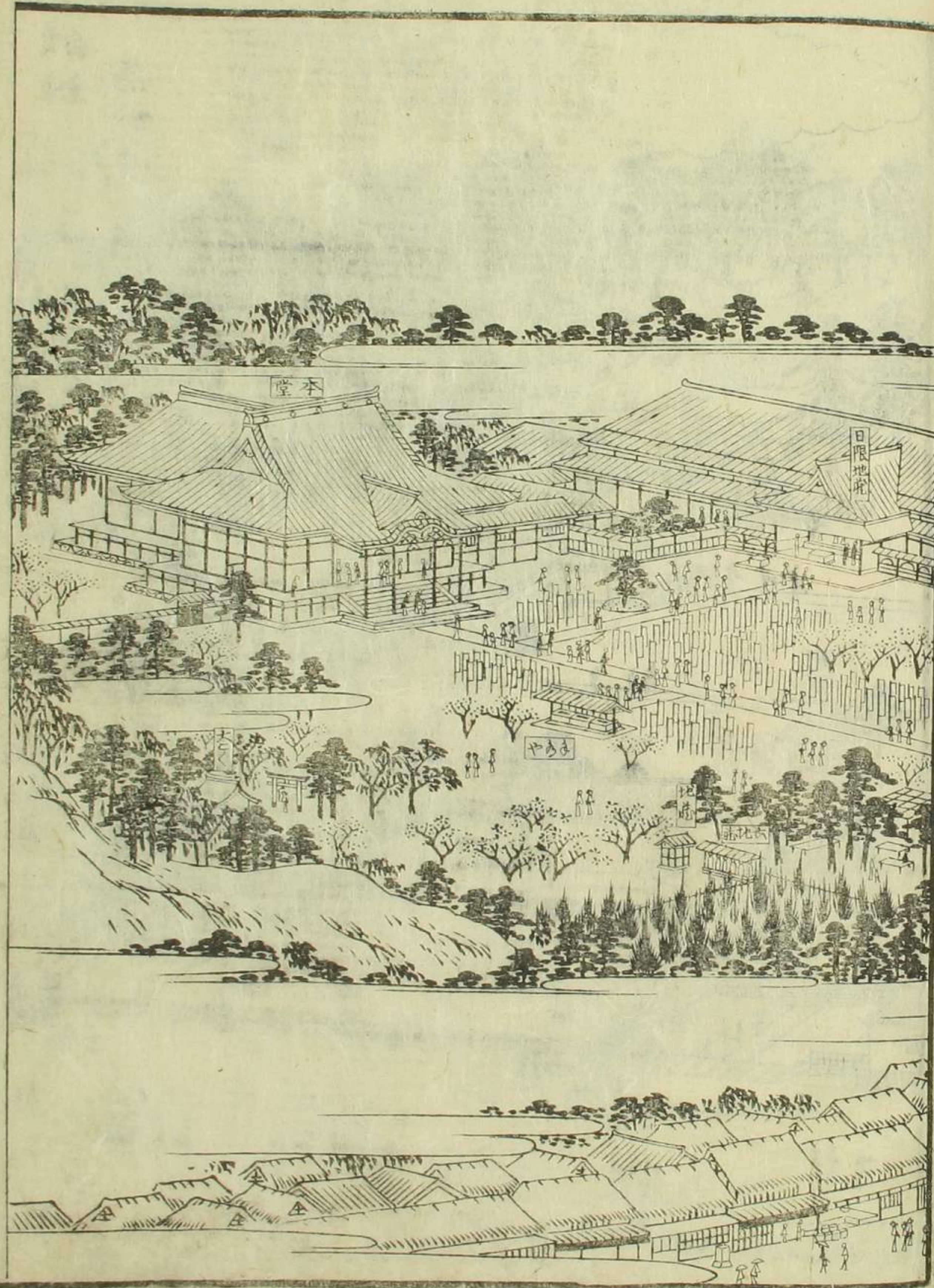
一蝶翁墓 同所より二町ちうと南の方二本榎の通り左側兼教

寺あり一蝶翁姓ハ多賀氏諱ハ信香一名を朝湖とて曉雲

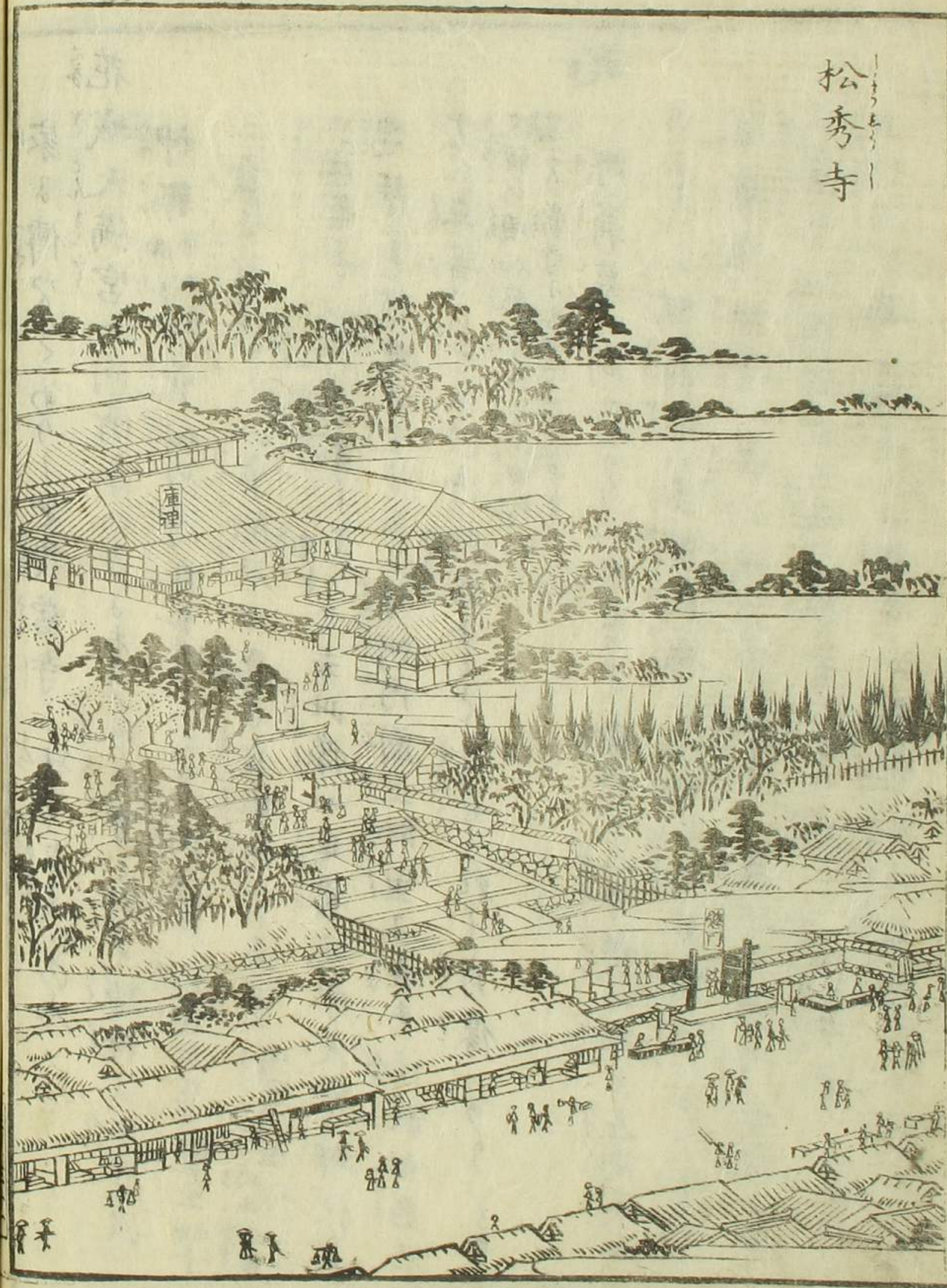
翠菴隣樵等ハ其別號なり幼より畫法を狩野安信に受

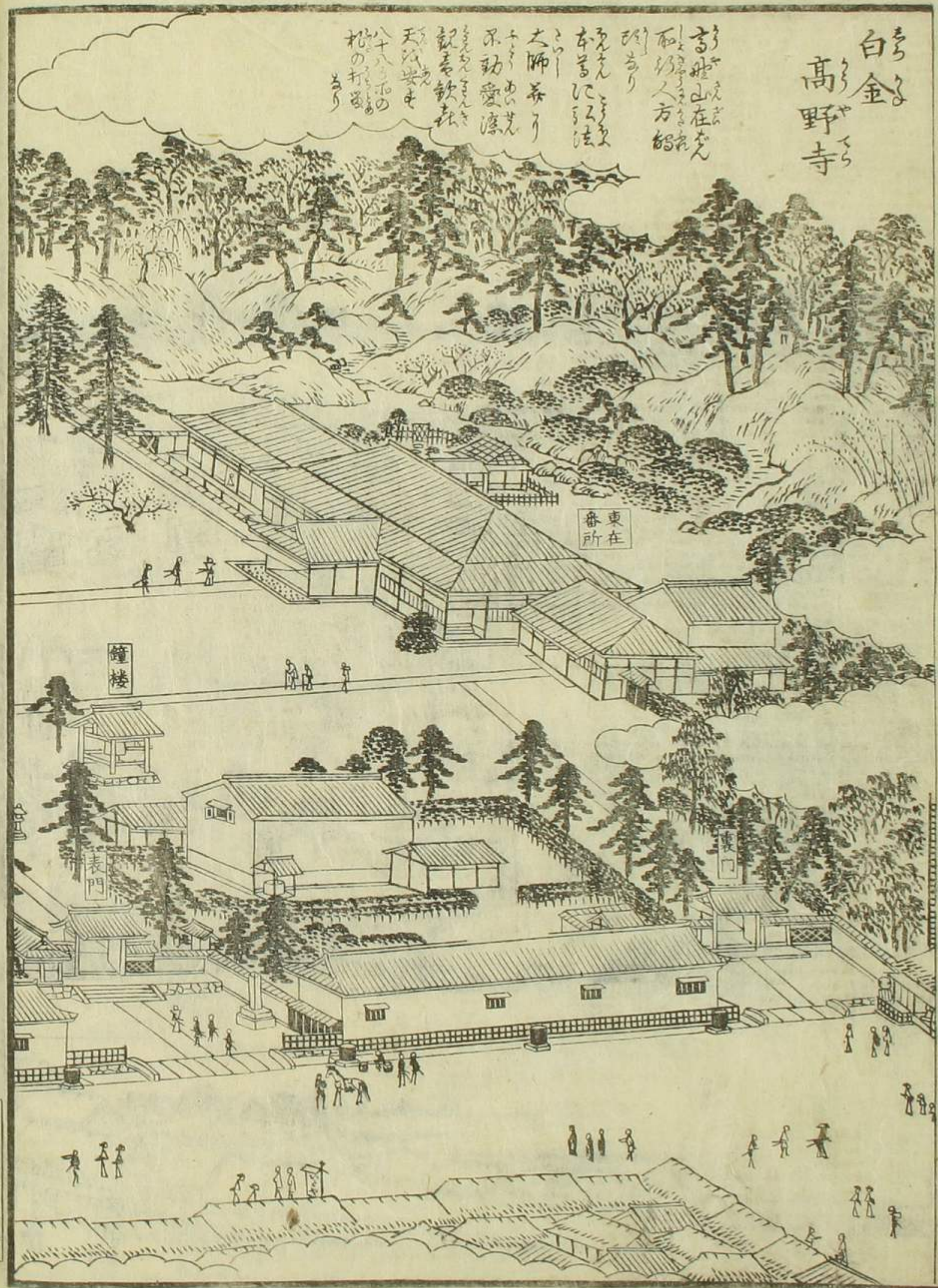
尤新意洒落なり後一家をなせり然る元禄中事し坐す

豆州三宅島に謫せし居り十餘年其技益進む室永己丑赦



松秀寺



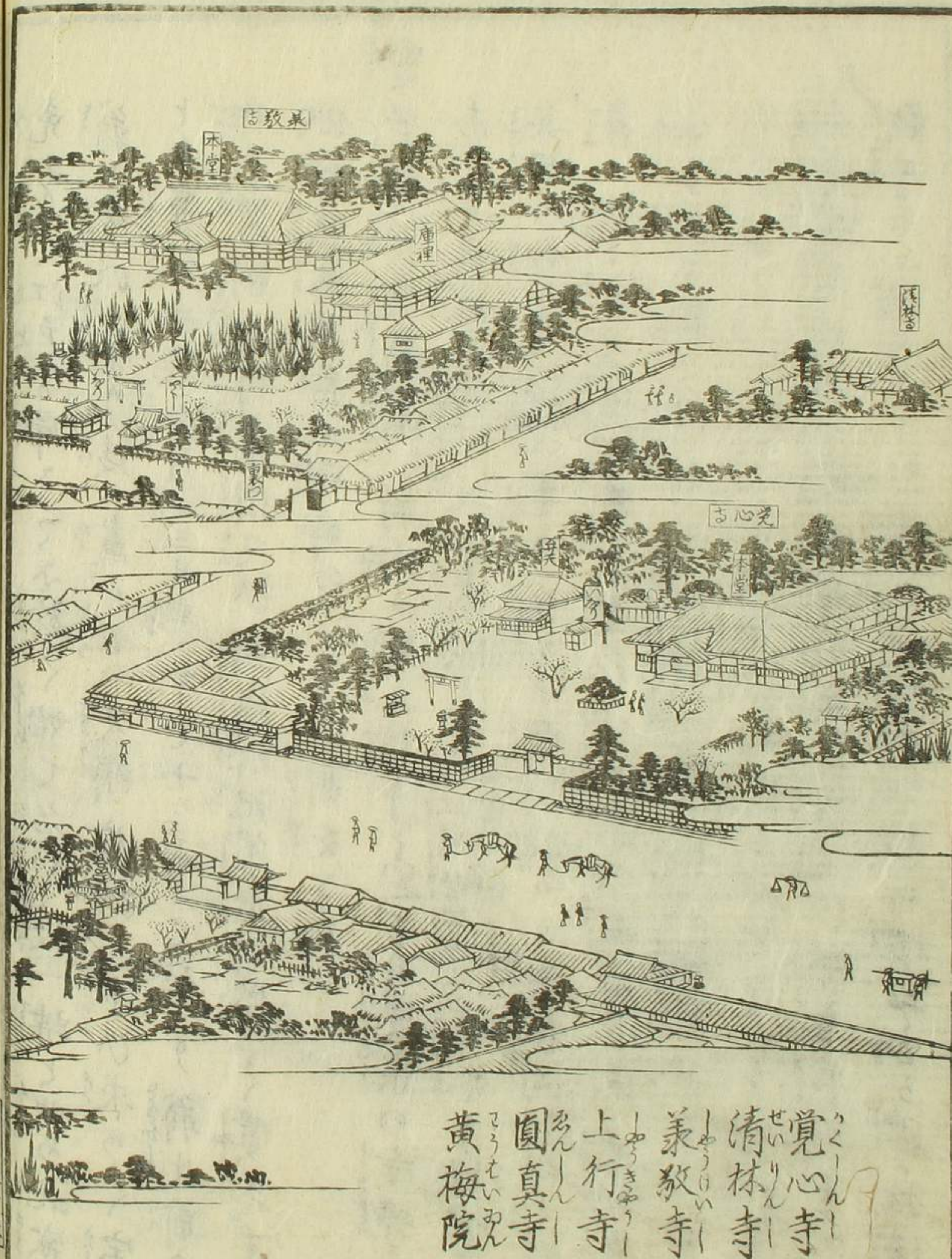
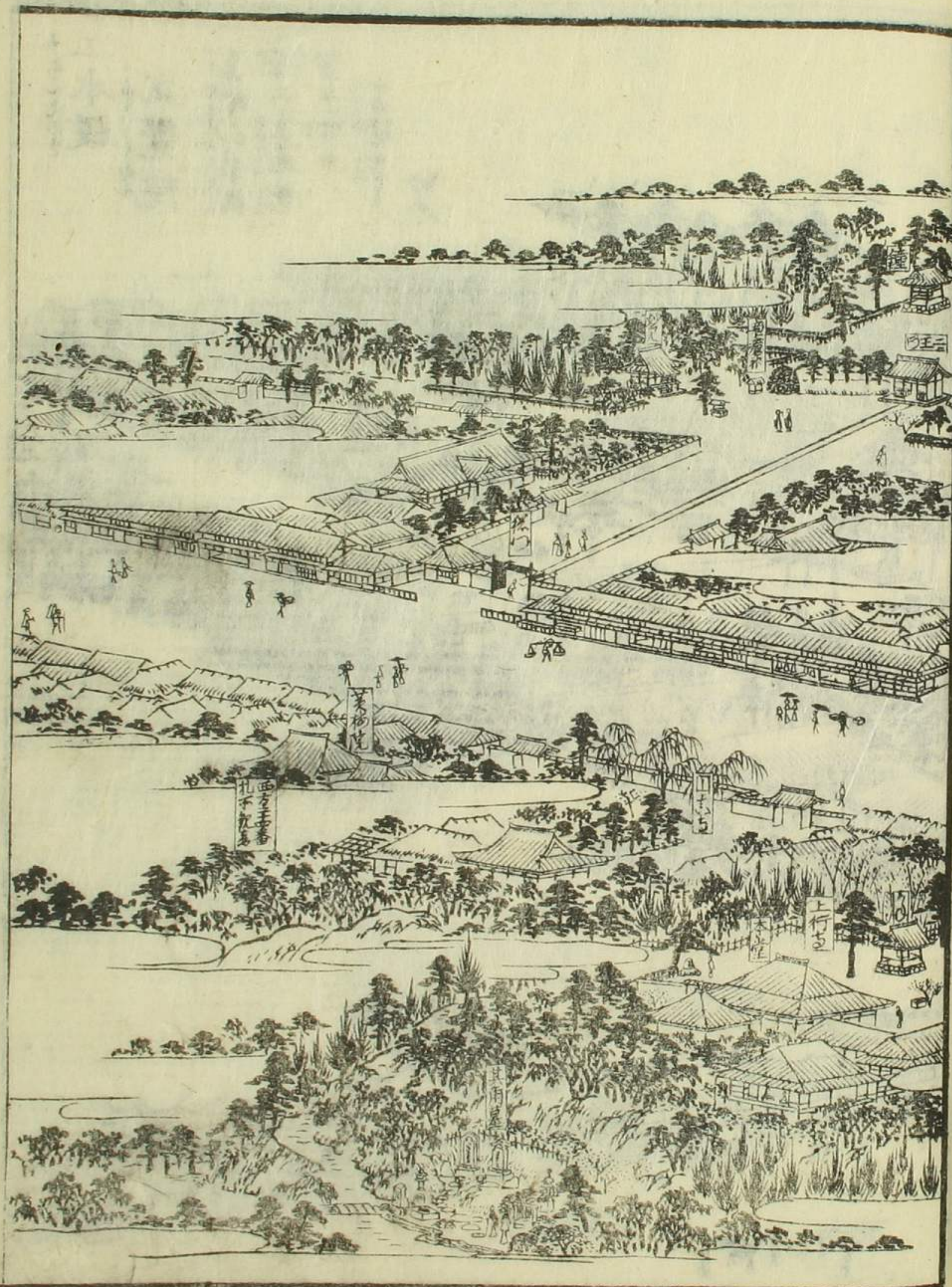


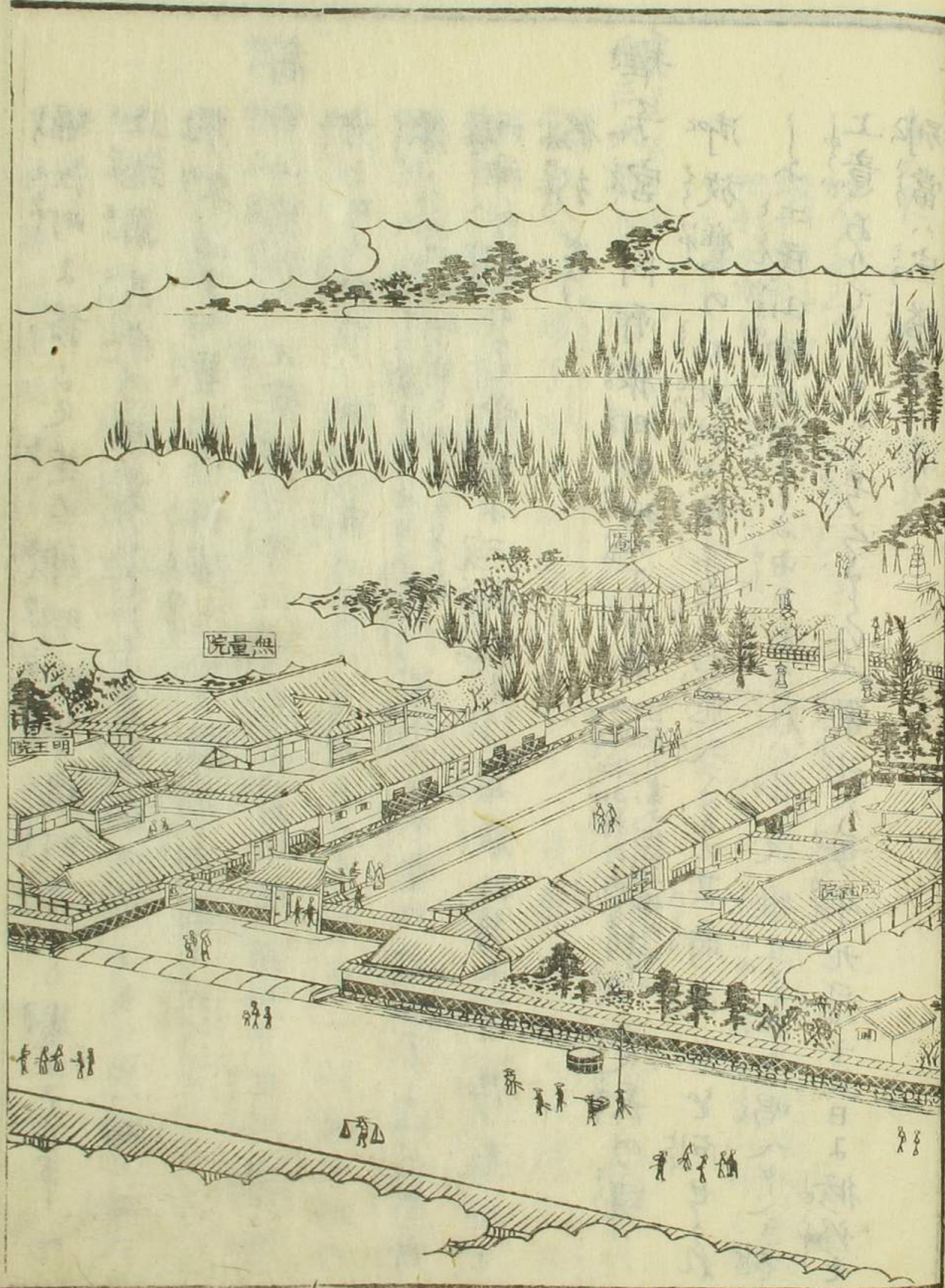
花城天満宮



免ありて江戸へ帰るこふ於て始めて名を英一蝶と改め北窓翁と号し夫あり後ハ畫く所の尺絹片紙人争ひ求めく宝と申享保甲辰正月十三日享年七十三やて卒す翁生前小作所の朝妻舟畫續及び朝清水記等世に傳へく賞美す
 俳師芭蕉其角と同時の人やとく朋友とくも

寶晋齋其角翁墓 同向小側上行寺とある日蓮宗の寺境あり其角姓ハ竹下父を東順とのみ江州堅田の人 櫻本とのみ其母の姓なり 儒ハ寛齋先生小学ひ詩ハ大巖和尚を師とに書ハ佐々木玄龍の教を受く自一家の風あり 医ハ草川氏某に就て術を得画ハ朋友英一蝶に倣ふ延宝に於て芭蕉翁の門に入り 俳諧を学ひ竟る名となせり 雷柱子狂雷堂有竹居六蔵庵善哉庵文庵及び螺舎涉川等の教号あり 晋子とハ其戯号あり 幼稚の頃母が池に住後





二木榎
 正覺院
 高野山學侶
 派の在處所
 勿り世々
 高野山と
 高野山と

堀江町は後より又芝の神明町茅場町等も庵せり事一を
五元集其餘の俳書ふんそくを宝永四年丁亥二月晦日卒
享年四十七著所の俳書凡二十餘部各世に傳る

高野山宿寺

正覚院と号し真言古義の觸頭あり世俗高野
寺とのと稱せり同所南の方一丁斗あり本堂の右の方丹生高野
像なり四十二歳ありせり山門を入る本堂の右の方丹生高野
兩神の祠あり堂前小三銘松あり毎歳三月廿一日佛影供と
修せり

雉子宮

同所猿町の坂口よあり此辺谷山村の内あり或官家の事當川鎮大崎慶長の頃
御放鷹の時此社へ雉子一羽飛入り其時神名を問せられ
し土民山神の祠ある由上りれば已後雉子宮と唱へしる
上意ありてか号するものみ祭礼ハ毎年九月十五日は修り
別當ハ宝塔寺なり

鳥の夜

雉子の宮あり

かりふる人も名あはせきりの霞里を夜を宿するもの
按當社ハ武蔵國風王記ハ所謂荏原神社あり同書ハ荏原神社ハ祭神
天神カ雄倉ハ天智天皇六年始祭神ありと記せり當社を山神と稱
するハ旧より信州戸隠の神神と祭る所ありとあり

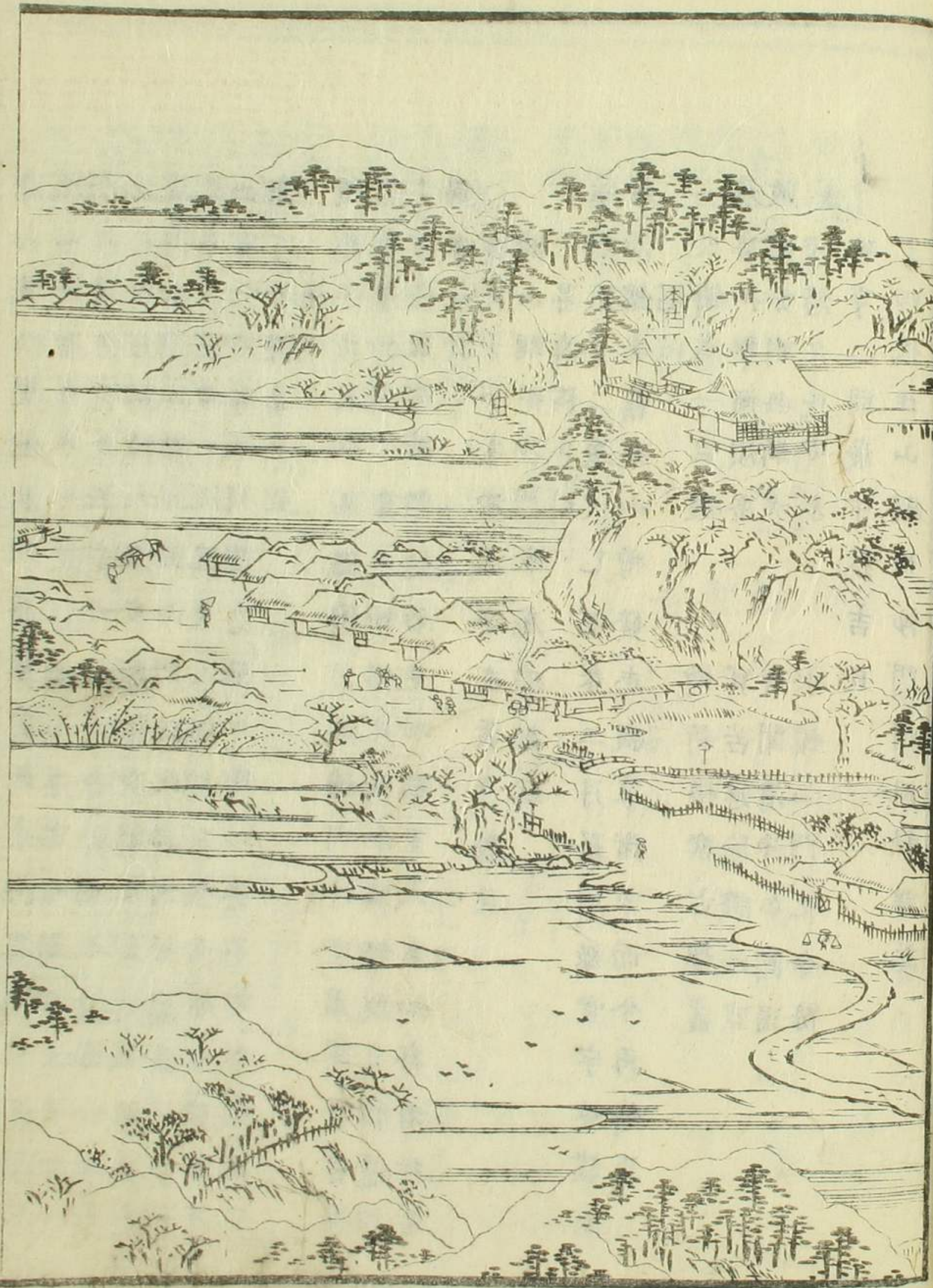
元三大師堂

同所白雉山宝塔寺といふ天台宗の寺院ハ安置に
當寺ハ則雉子宮の別當たり本堂ハ東巖山の元三大師絵画
像と同筆の真影あり靈威照く例月三日開帳あり此
辺と大崎と云古ハ海濱あり此地より東の方品川迄の間袖の
形は似たりと袖崎とも呼ぶ

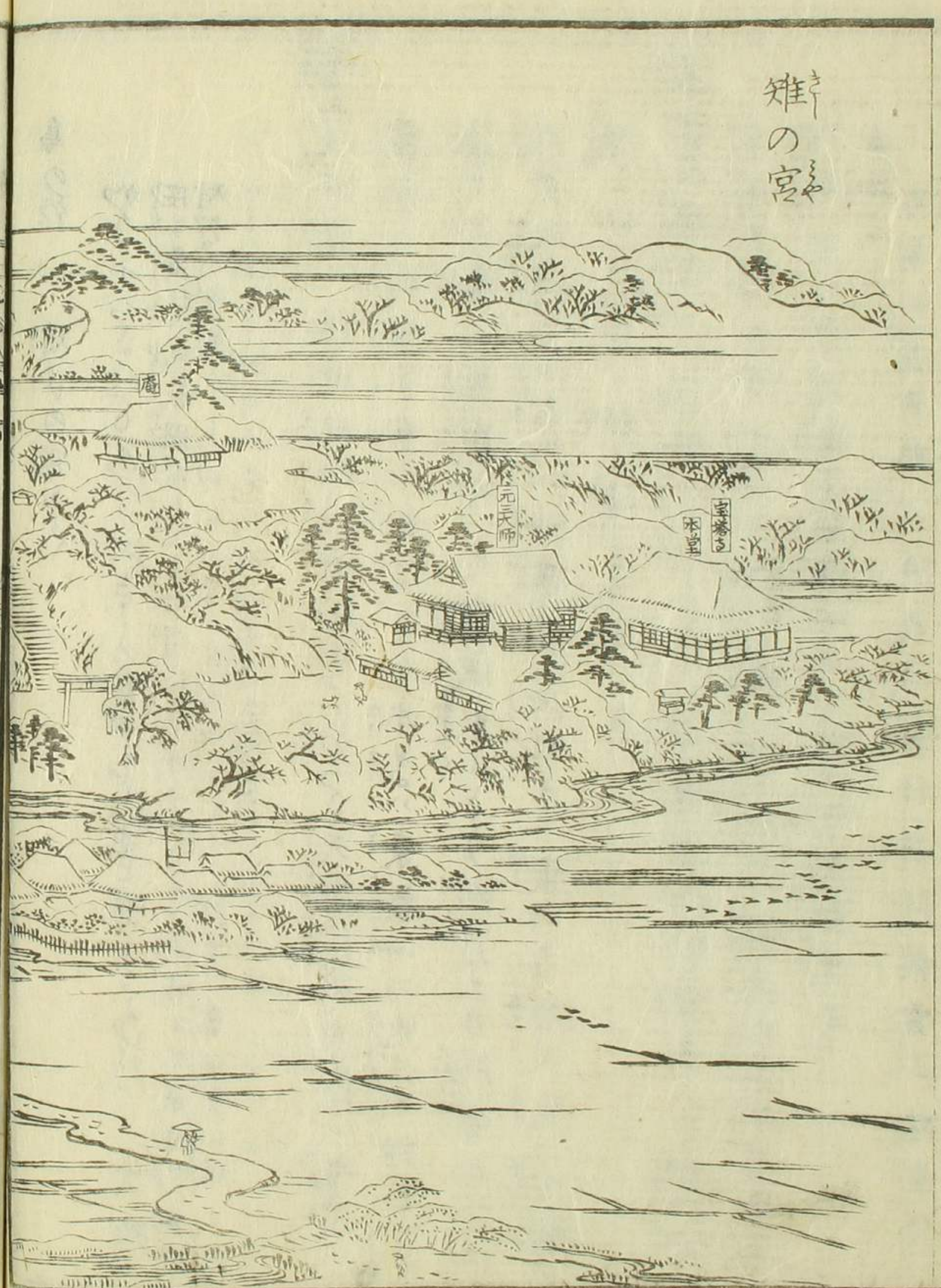
紫雲山瑞聖寺

白銀臺町あり黄檗派の禪林中寛文
年間本庵和尚開基鐵牛和尚佛殿ハ釋迦如来脇士ハ迦葉
阿難等の像と置を毎歳七月十五日大施餓鬼あり
前銘并引

武蔵州荏原郡三田庄白金村新開紫雲山瑞聖禪



雉の宮



寺去城二里餘其地廣莫前朝東海後接目至然其
 所唱始者青木甲斐守端山居士之竭力矣而於山
 門大然方丈左右大安能捨身財之追若嚴義長所
 立金鑄洪鐘以託此勝因而不超妙樂并印
 院居士慈母心光鎮山門助冥福而可思議即不
 老居野等其特請為銘斯功德大矣如存者往者
 幽靈村謹為銘請為銘斯功德大矣如存者往者
 辭才拙野等其特請為銘請為銘斯功德大矣如存者往者
 須彌炭大為鑄出洪鐘內外空虛圓音普徧
 扣擊舒聞之地餘省若悟功德大矣如存者往者
 十方界同證無餘若悟功德大矣如存者往者
 福寧於同證無餘若悟功德大矣如存者往者
 鐘鑄再鑄并引僧發志願募諸方而今再鑄焉
 鐘鑄再鑄并引僧發志願募諸方而今再鑄焉
 一火鑄成巨鐘斬新禮樂古禪叢
 晨昏擊解煩夢音聞息除證法通
 長分無漸次真苦清淨化令隆
 教體明漸次真苦清淨化令隆
 國體明漸次真苦清淨化令隆
 延亨二同歲中秋沙門明祖眼謹誌

佛殿

額

大雄寶殿

瑞聖寺

門開長見江山靜

地勢不嫌車馬喧

紫雲山

節竿旗

佛殿の前

彈聖門中輝妙相

宗聖堆象現慈容

佛殿の前

佛殿の前

佛殿の左に並入内は楞嚴の釋迦牟尼の像と安を瑞聖寺の昔の如きあり傳
 建立ちあり唐本の一切經を収む稲葉美濃守正則取寄らんとありとのみ余
 書籍を五千余卷と集め置
 勸学寮 經藏の傍にあり
 二間五間其中五局は備けく一字と建披覽
 同所並入内は山元禪師の
 佛殿の前

鐘樓 佛殿の右にあり
 堂中文字珠觀音
 佛の像と安を鐵文を
 本庵和尚撰るあり

樓鐘 關山
 木庵書

壽山の書

二重家根の額
 軒は揚く
 釋迦佛を安を
 臨濟正傳三十三世
 黃巖木庵瑄山
 僧書とあり

延宝辛酉
 吉旦關山
 木庵瑄
 書とあり

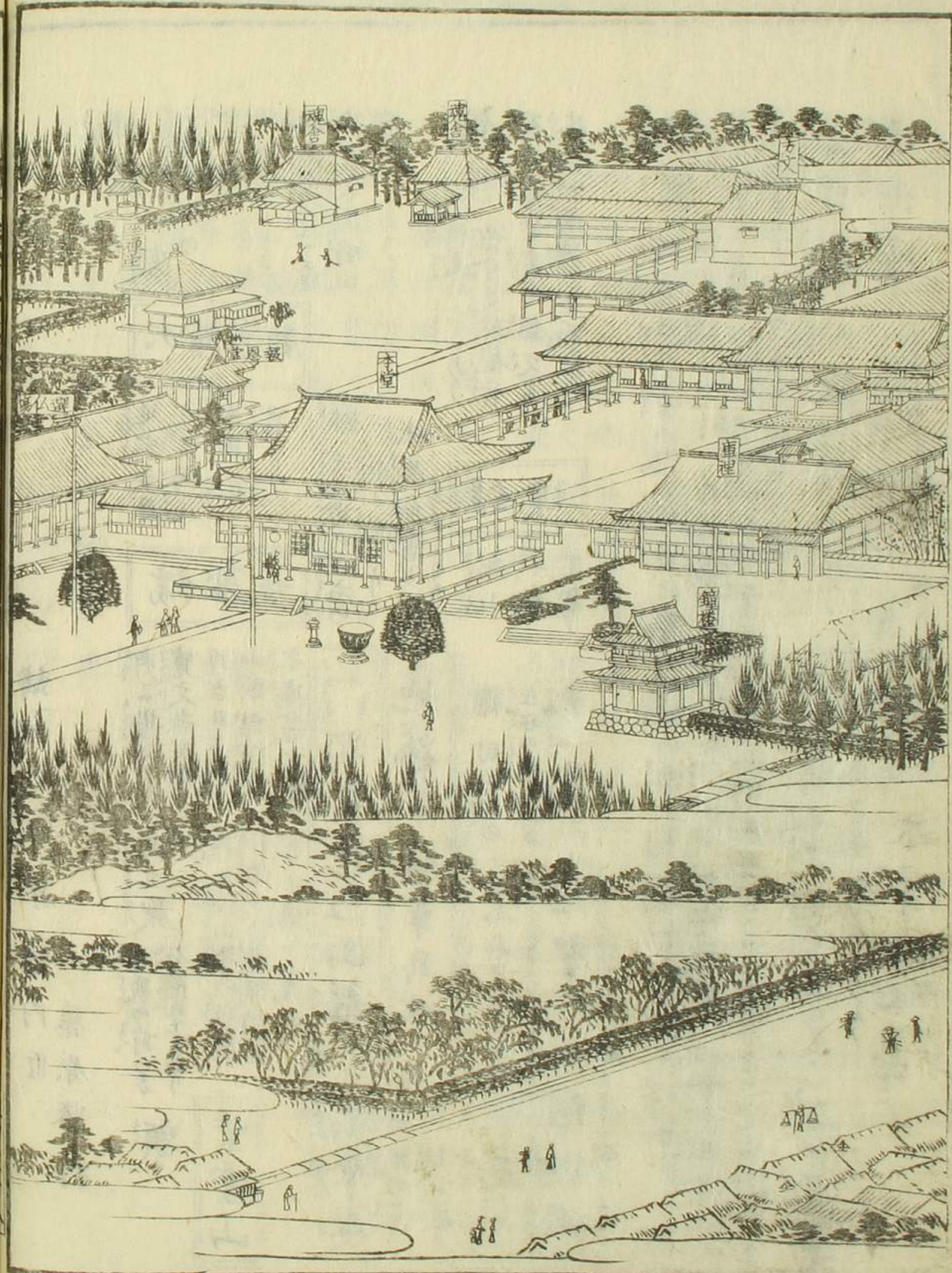
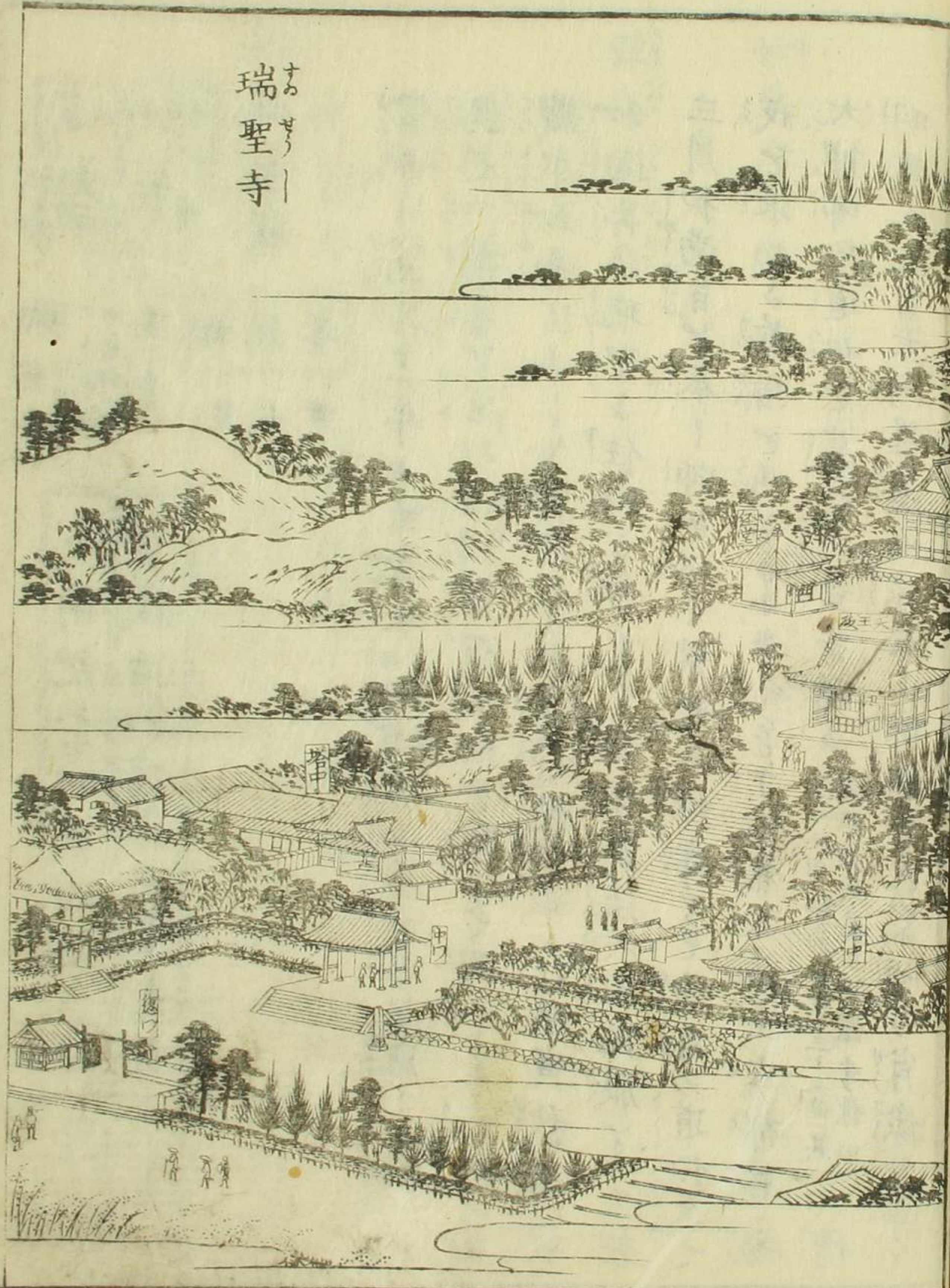
軒は揚く
 寛文辛亥正
 月吉日立開
 山關祖沙門
 木庵書とあり

天王殿 佛殿の前の方
 石階の上あり
 額

節竿旗
 佛殿の前
 左右に建

鑄工 小幡内匠 藤原勝行

瑞聖寺



蓮佛場
軒掲 黄檗 木庵 書あり
聯當寺 三十三 世春冲盈 書あり

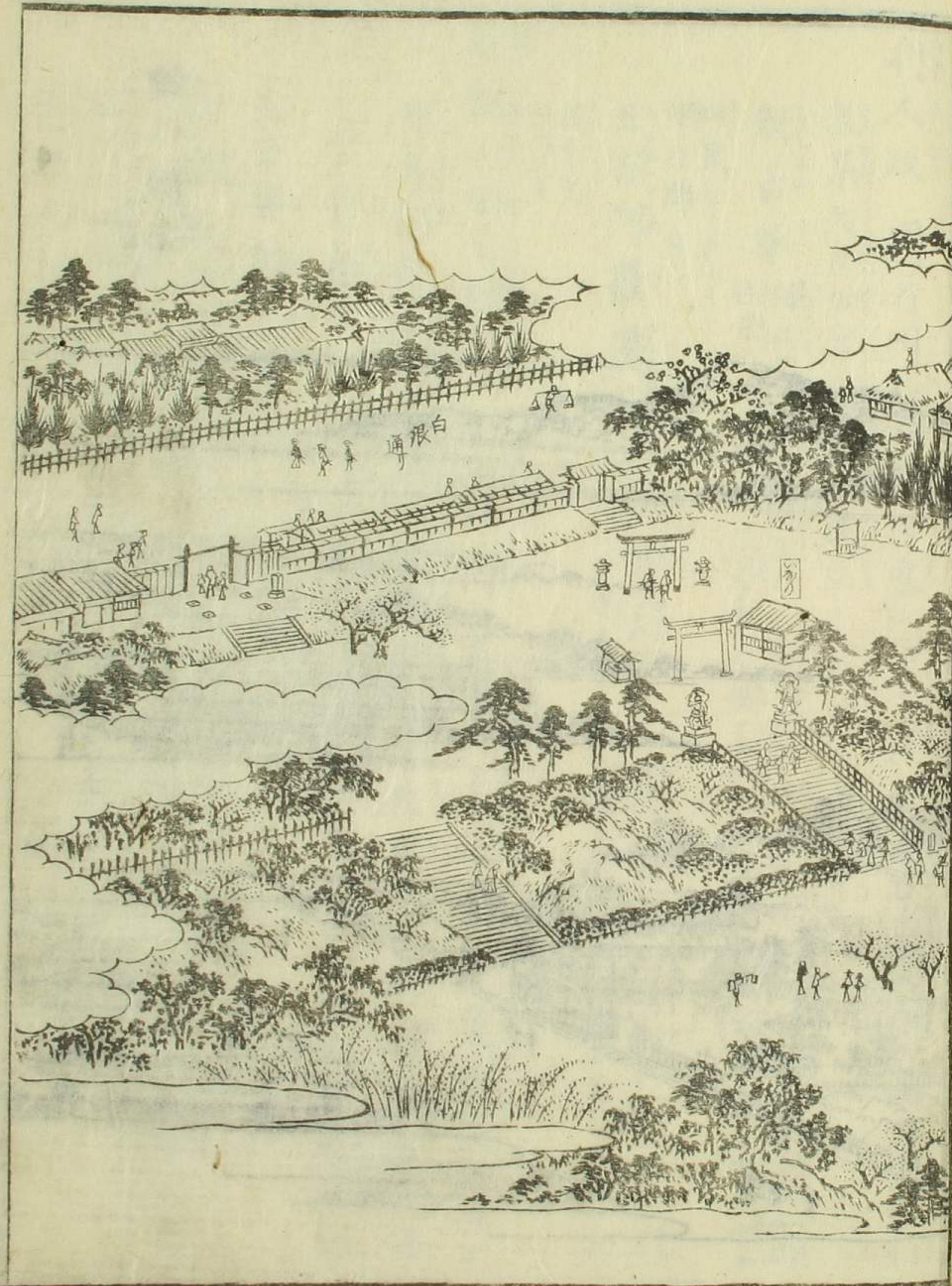
牌堂額

報恩卷
 雲宗筆

大用現お時欽山鉄壁以遠る
 全枝活安不空電光独是庭

當寺ハ寛文十一年辛亥青木甲斐守端山居士旨を奉りて此地ハ
 就一精舎を営む當寺黄檗本師を請りて岡山とて開堂の日
 鐵牛和尚一々首座と一々秉拂提唱せしむ甲寅秋黄檗
 和尚再一々瑞聖一々住師一々命一々分座一々説法人天悦服す乙卯
 三月和尚旨を奉り師を以て紫雲の継席とて遠近の道俗来て
 戒を求むる者指を屈せしむるを丁巳春大清主左都督揚
 大神師の道化と慕ひ三章を贈る其一曰臨濟正宗三十三世其二曰僧
 関法長其三曰鐵牛株甲
 明溪り五百大阿羅漢の像五十餘幅あり師の肖像を画く

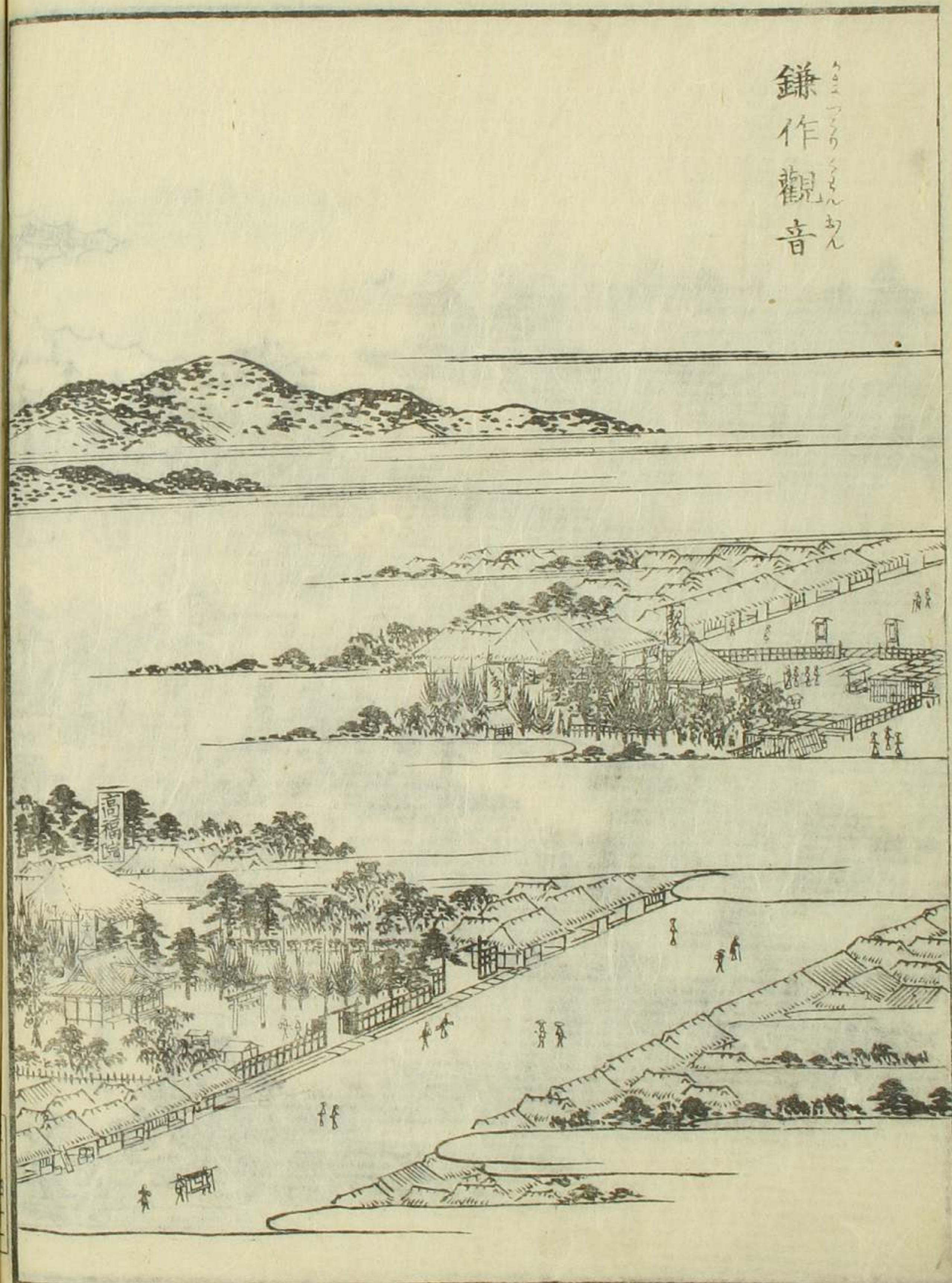
今猶鎮守の室とて當寺ハ本山の光景を摸擬せる所や
 其徑營願一々他一々異一々あり江戸黄檗宗最初創建の伽藍あり
 妙見大菩薩 同所三丁斗西の方道より左側日蓮宗妙圓寺に
 あり足利將軍尊氏公の念持佛ありととり
 鎌作觀世音 同西の方一町半斗向小側六軒茶屋町の角真言
 宗光雲寺あり相傳ふ神龜年間行基菩薩諸國遊化の
 頃信州更級小始て掛錫しあり平山と云ふの池中より此本此本
 出現あり又空中より化人あり鎌作御衣此衣を持り降臨し
 あり彼觀音の此像像と彫刻し行基此基に授けし此授
 誕生八幡宮 同所同一側一町斗を隔つて永峯町此町あり文明の
 頃筑前宇美の地より勸清を祭る所の神ハ神功皇后一座
 あり此地本地佛此佛ハ別當ハ真言宗高福院と号し八月十五日を祭
 祀の辰とす



白銀妙見堂
しろぎんみょうけんどう



鎌作觀音



行人坂 同所同西の方目黒へ下る坂と云寛永の頃湯殿山の行

者某大日如来の堂と建立し大圓寺と号し此寺今ハ

般若塚 同坂の半道の側あり延享三年保山清林院の木食心誓一道和尚

印の碑あり 街来の大地成就のみを般若心経三十巻と書写あり此地中ハ

五百阿羅漢石像 同道の左あり 明和九年壬辰三月二十八日二十九日西具

立せし 大火小焼死せ都の迷魂を弔りひるみある人見と建

松樹山明王院 同所坂の側あり天台宗中々東叡山に属す

本尊阿彌陀如来脇士觀音勢至を安置せり閑山と榮運法師

との念佛の道場中々頗る殊勝なり毎月四日報恩念佛

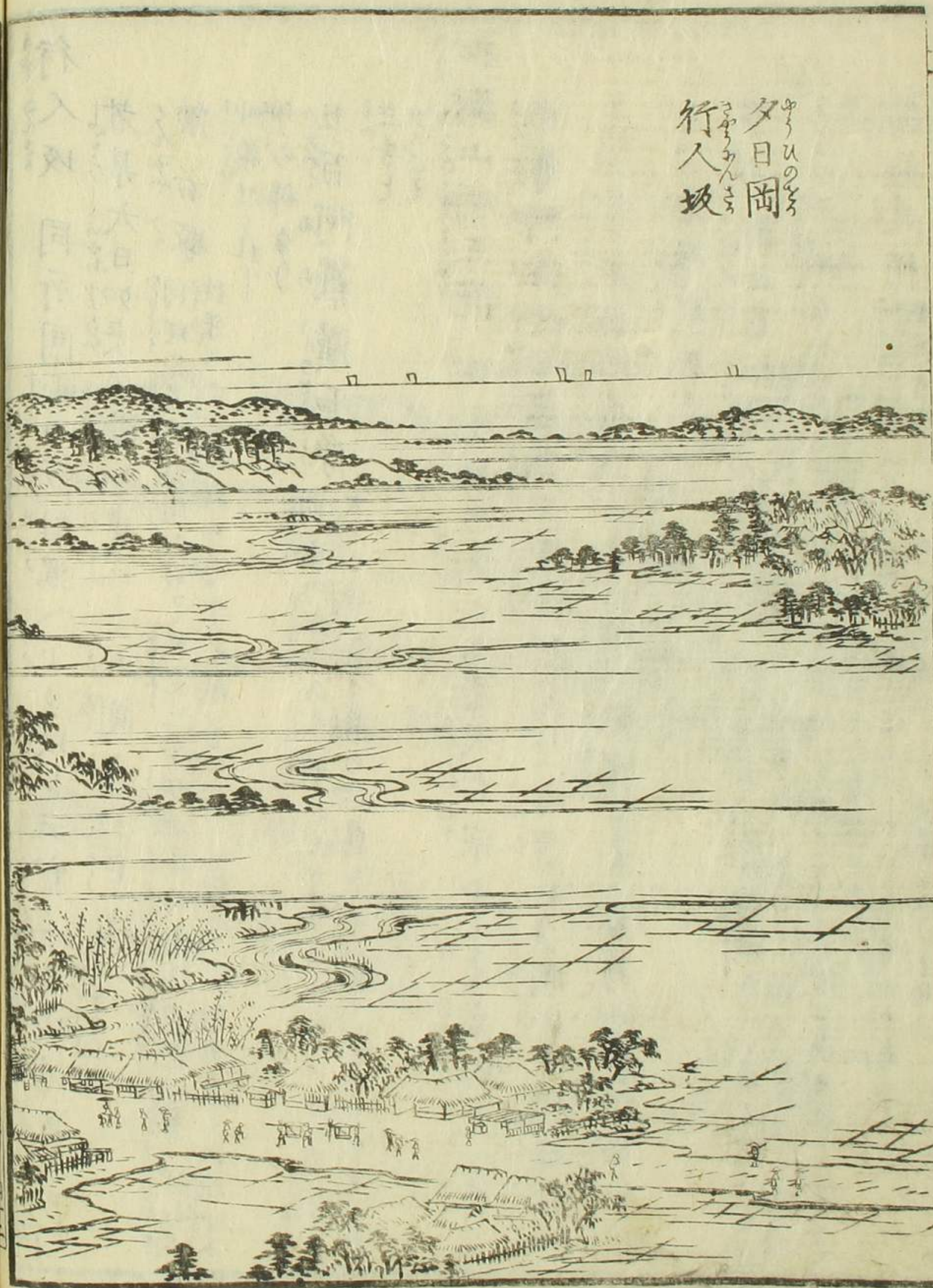
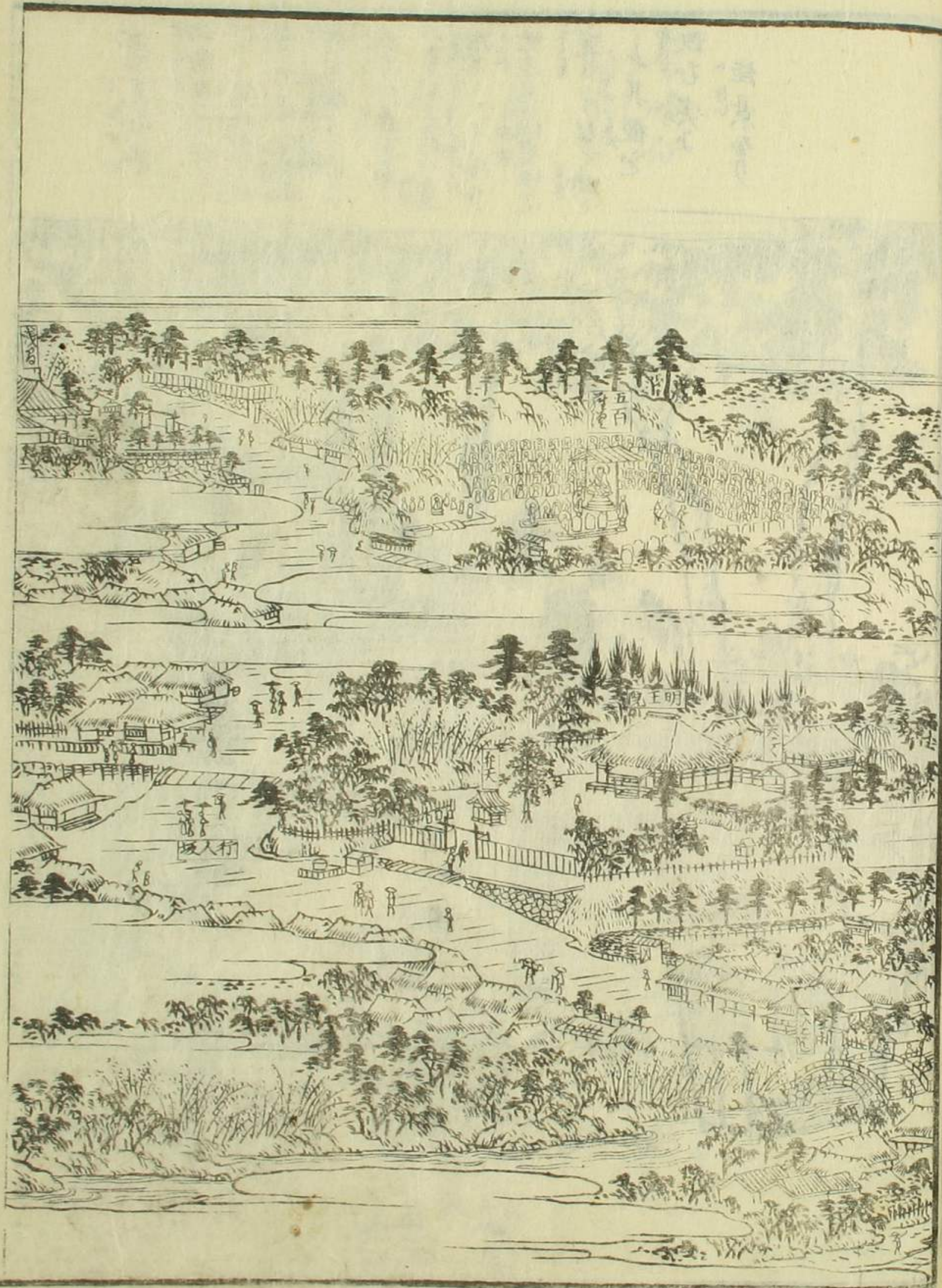
百万遍修りあり 此常念佛へ西連とす

子安觀世音 弘法大師の作なり長州檀浦出現の靈像なり元禄元年六十六郡

當寺主仙順とす弘法大師の修行者變佛とす長州檀浦出現の靈像なり元禄元年六十六郡

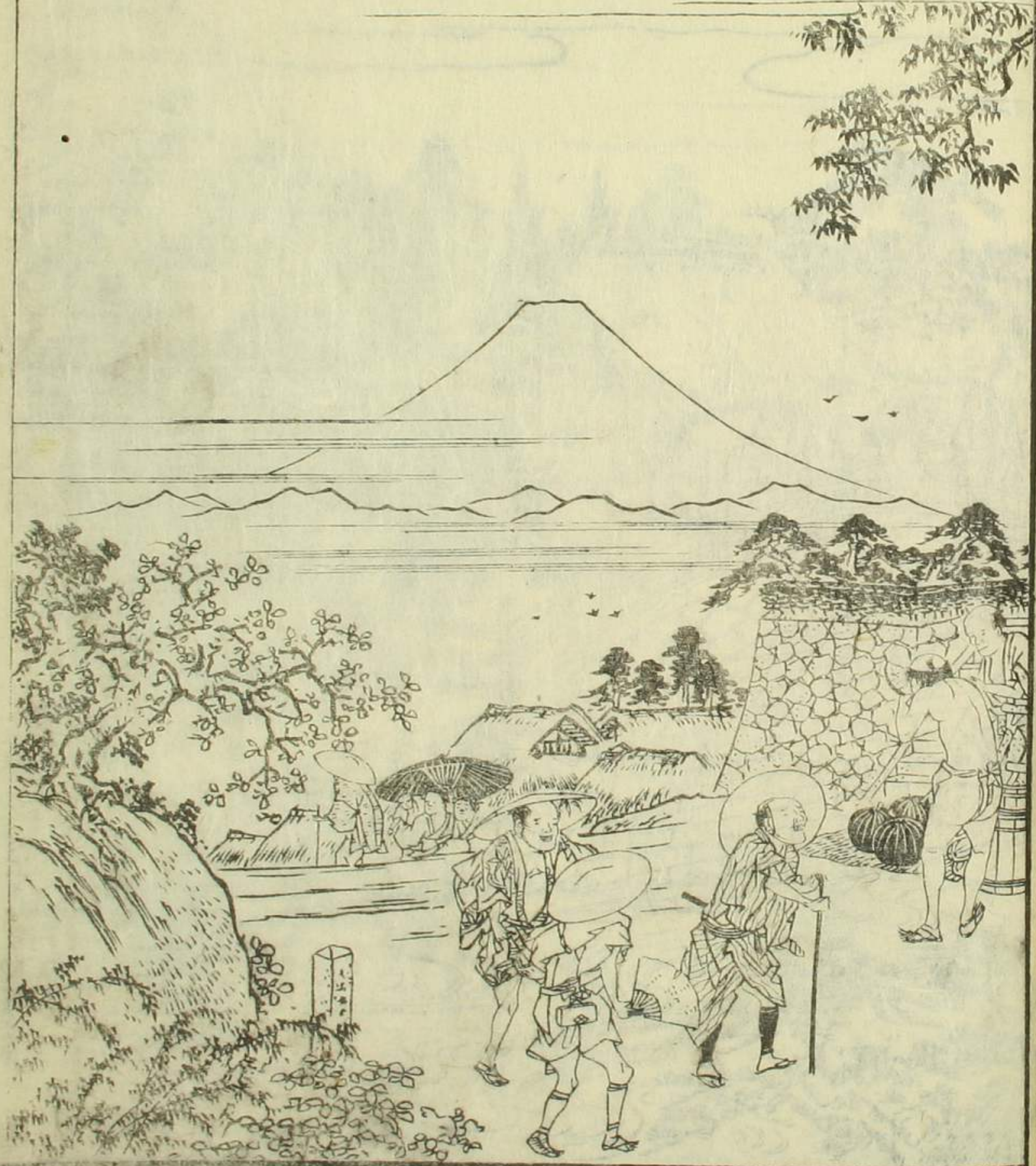
辨財天祠 同境内あり弘法大師の作なり江州竹生島

彫刻あり

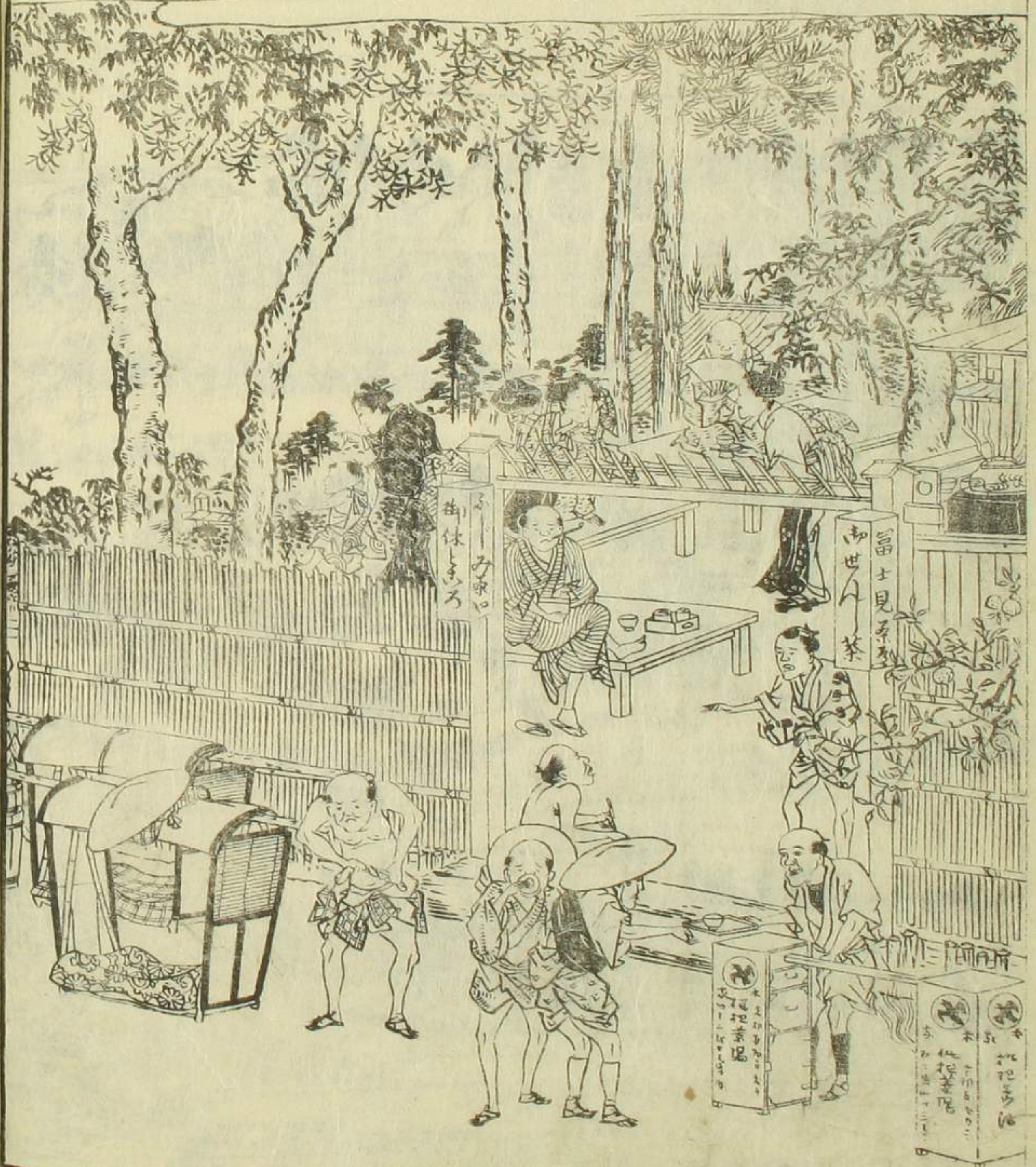


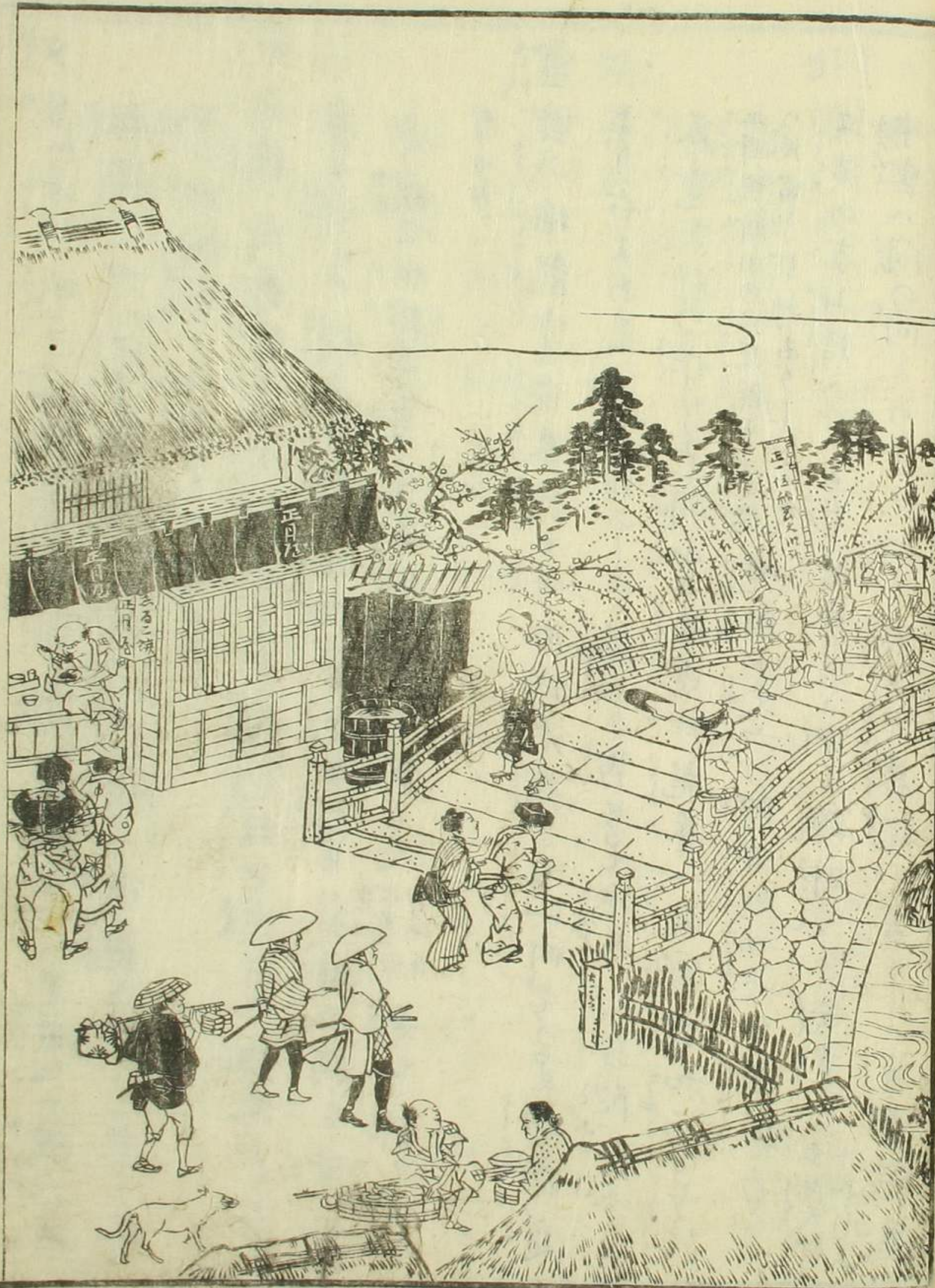
夕日岡
行人坂

旁時る
 婦を
 三奴日と
 地
 人
 枕青菴



富士見茶亭
 西南遙は初
 けく芙蓉の白
 峯を望む風
 雲を掃く心
 玄冬の色を
 然として又姿を
 失ふ頃更ほ
 定るなり時
 一々其觀を
 改む実よ
 佳景あり





太鼓橋

夕日の岡 明玉院の後の方西に向へる岡をいへる古へハ楓樹数
株梢を交へ晩秋の頃ハ紅葉夕日は映し奇観なりとありされと
今ハ楓樹少く只名のとを存せり

大鼓橋 同所坂下の小川に架せり 目黒川 柱を用ひて兩岸より石を
疊ぎ架し橋とす 故に横面より是を望めハ大鼓の胴に髻
なり故に世俗あり号く享保の末木食上人の心誓を是を制せり

靈雲山蟠龍寺 安養院と号し同所橋より一町をり西南道
より右よあり浄土律より縁山に属せり本尊阿彌陀如来を

慈覚大師の作なり 関山ハ吟蓮社龍峯一雨靈雲和尚と号し
上野國新田の大光院より退隱 境内に丈六の阿彌陀如来の銅像あり

又後の方山崖の下に岩窟あり中に辨財天を安置せり 弘法大師の
本宮ハ門の向よりあり惣門の額に安養院と書せり 黄檗獨湛

和尚の筆なり

卧龍山安養院 能仁寺と号し同所あり天台宗中々 龍泉

寺に属せり本尊涅槃釋迦像ハ空誉上人の作なり 當寺に
法華讀誦稱名念佛の道場なり

蛸薬師如来 同所町家の巽の隅にあり天台宗成就院境内に安養

本尊薬師如来ハ慈覚大師の作なり 世俗傳へ云此本尊ハ祈願
ある者ハ蛸を断る是を念むる果しと利益ありと云 僧馬の

蛸の形を畫し捧ぐ

目黒不動堂 同所の西百歩のありあり泰叡山 龍泉寺と号

す天台宗中々 東叡山に属せり 関山ハ慈覚大師中興之
慈海僧正なり

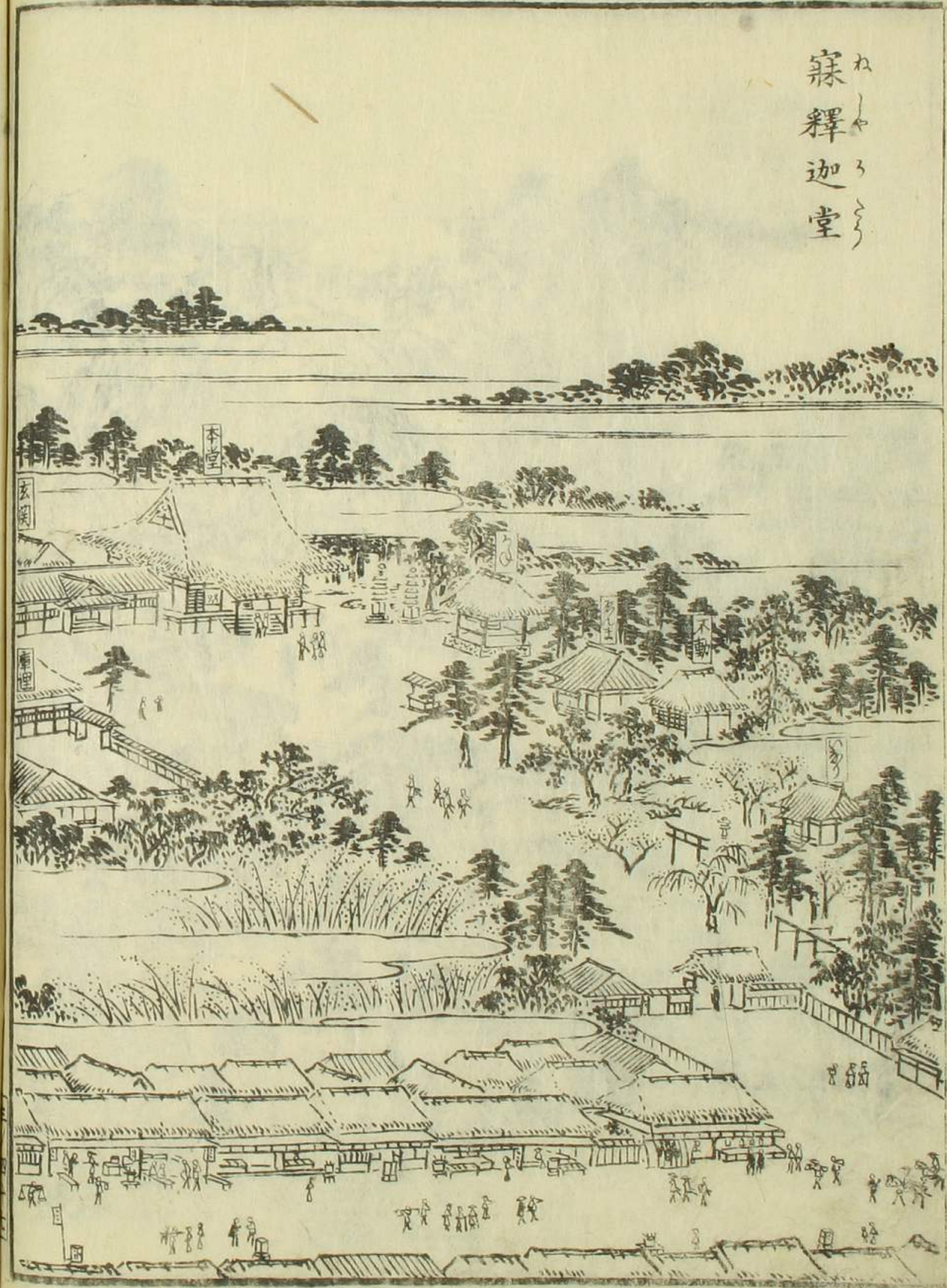
本堂不動明王慈覚大師作 脇士ハ八大童子なり

本殿額 泰叡山 後西院御筆 樓門額 泰叡山 後水尾帝御筆



蟠龍寺
窟辨天祠

寐釋迦堂



鳥井額 泰蔵山 日光御門主明王院宮御筆

經藏 一代藏經と安置せしむる八幡宮 早尾権現 祭神依田彦大神或

五月十五日あり此堂社 惠比須大黒祠 鐘樓 水神宮 愛深明王

大行事権現 此地の地主神なり 祭神高皇産靈 石不動 右にあり

稻荷祠 地藏尊 聖観音 開山堂 聖徳太子

天照太神宮 本地大日如来 城割く安置せしむる 虚空蔵堂 遮軍神祠

天満宮 鬼子母神 十羅刹女祠 虚空蔵堂 三佛堂 弥陀

結神祠 役小角 女坂の中程あり 銅像あり

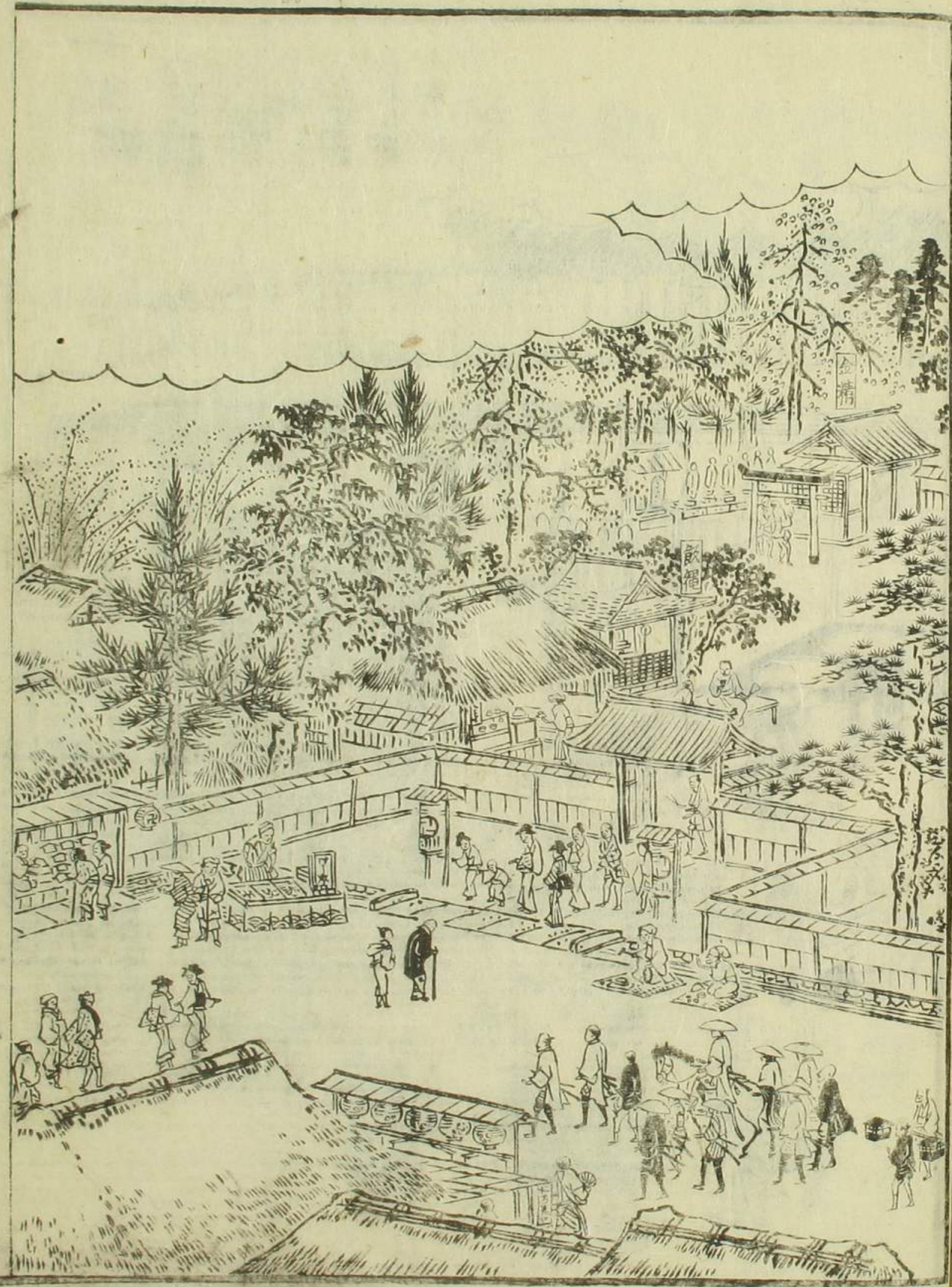
子安明神 鬼子母 疱瘡神 粟島明神 石地藏尊

秋葉権現 六所明神 荒神宮 辨財天祠 江島弁天

地藏堂 堂内柏王脱衣婆 観音堂 右の方あり 聖観音廻り西國坂東秩父

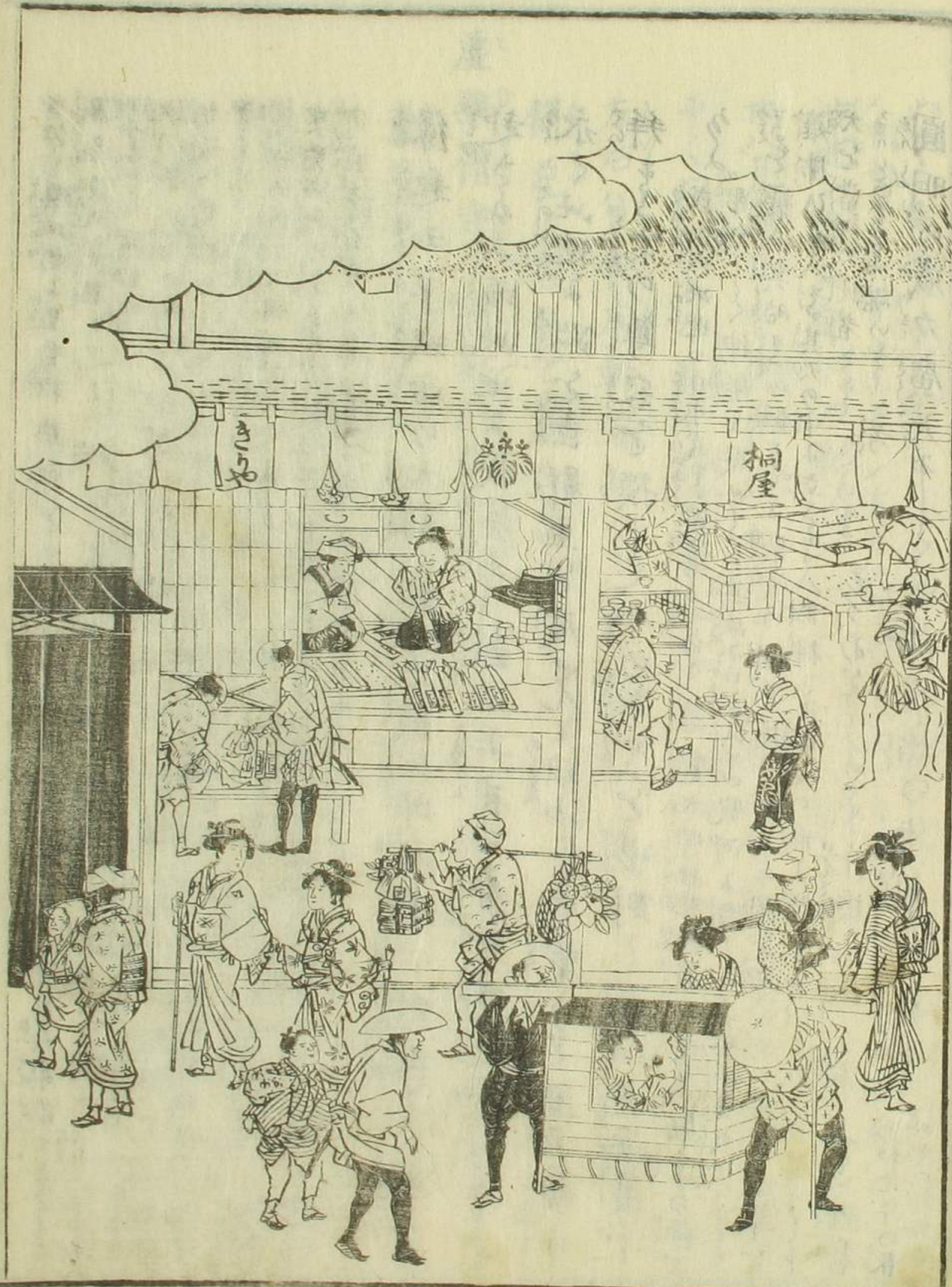
勢至堂 稻荷祠前不動 左右二十天の像を安置す 樓門 左右

使者の像を置き 獨鈷の瀧 當山の坊離場あり 柱古乘和十四年 當寺

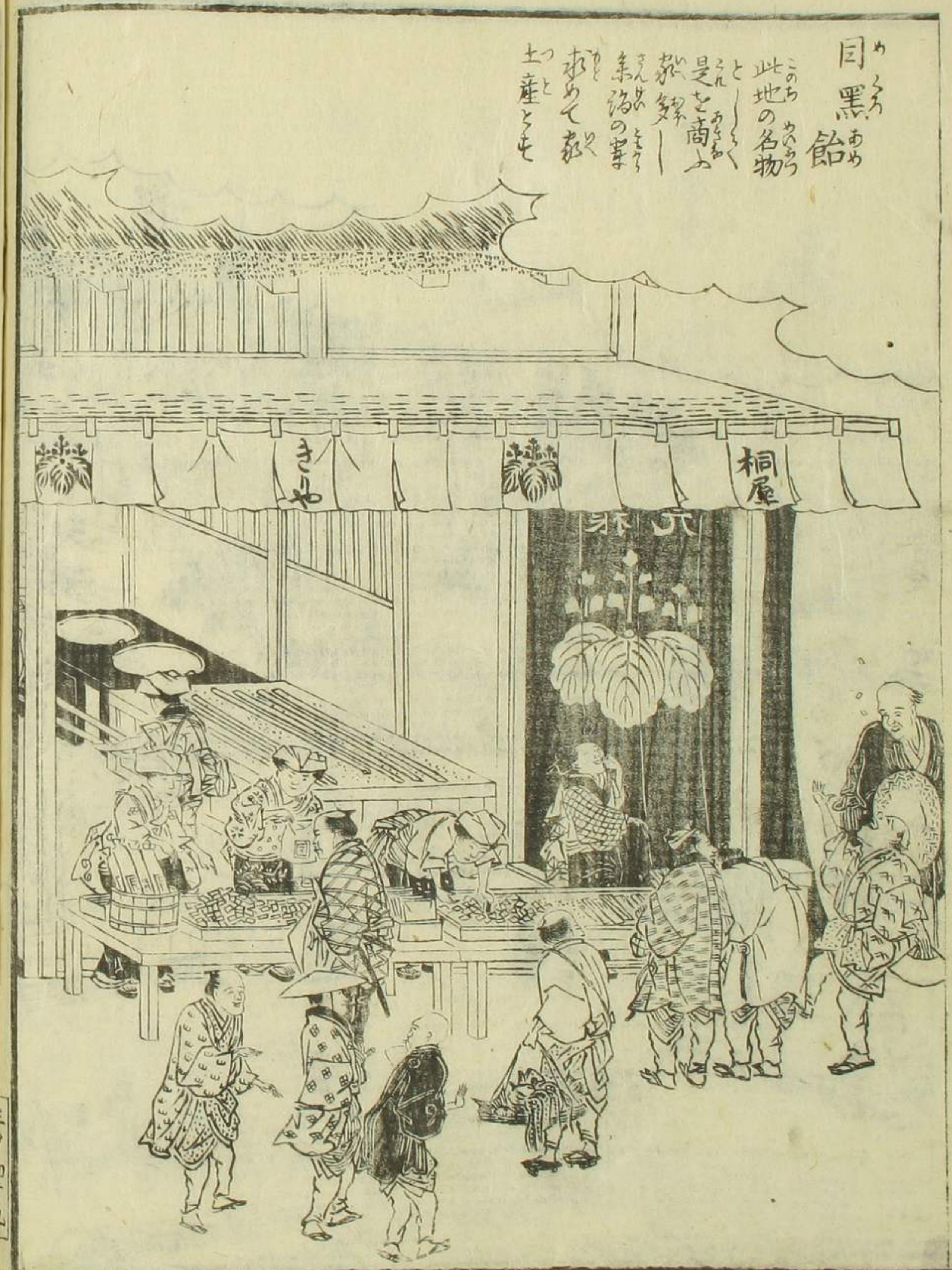


鮎薬師堂





目黒 餡
 このちのちのち
 此地の名物
 とは
 是を商
 業
 業の事
 求むる
 土産とも



多の頃此地に至り独結弁をりて此地と穿ち得る事ありと常々泉涌くとして
漲落炎天早魁とて一箇の洞ありて未だ目黒一林の水田に引用するなり昔ハ三口
以門其江島の新天子祈請し再ひ元の如く故は今年當寺あり江島の
年天へ衆僧を請ひて祈請せしむる事急慢鷹居の松石階の下ありて蒼々として
寛永の頃大樹此地に所遊獵ありて其時鷹居前に終訪をありて依りて別當
実榮小僧の旨ありて祈念せしむ然らばならん中鷹居の松石階の下ありて依りて
所感ありてなり此樹は鷹居松の名をとりてなり

縁起云平城帝の大同三年慈覺大師本國下野國より畷山へ
赴き入頂此地に投宿あり然る其夜の夢中明王靈亦ありて

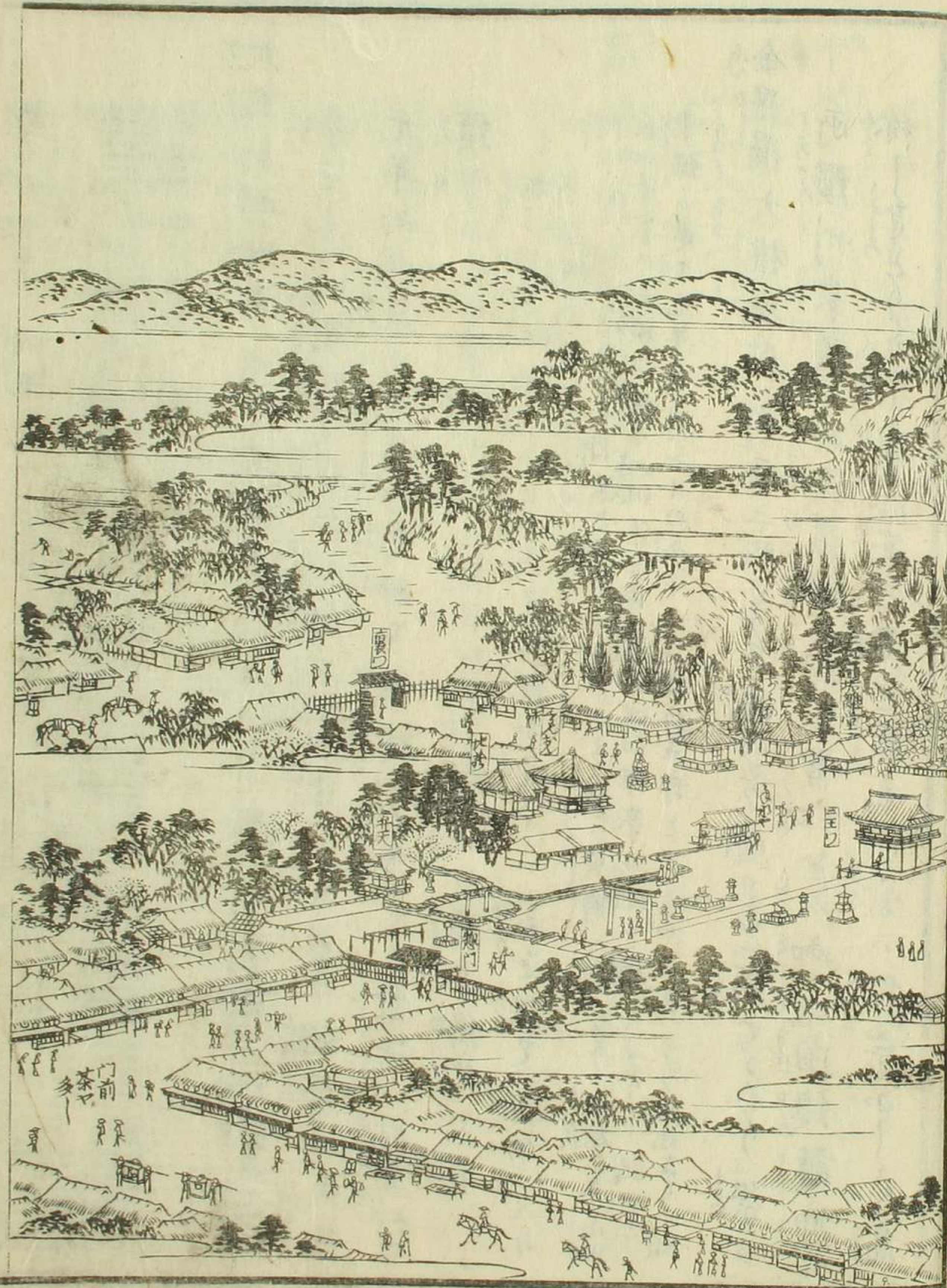
永く此地に品と虫群生を度せんといひて覺ると翌日夢中
拜する所の尊容を摸して今の本寺を彫刻し當山に安置し

或人云此地ハ日本武尊を鎮めあり慈覺大師此地経歴の頃不動の像を
彫刻し其時其の佩する聚雲の劍を授け狩犬の洞を切ち放ち燃來草を
難拂ひし其火の中より立ち上り形相も明王の形に似たりと云ふ
大に當山の使者とすも此のゆゑなり
圓明の威力廣大なり迦樓羅焰の徳用深妙なり
元和元年の春此地の松あり

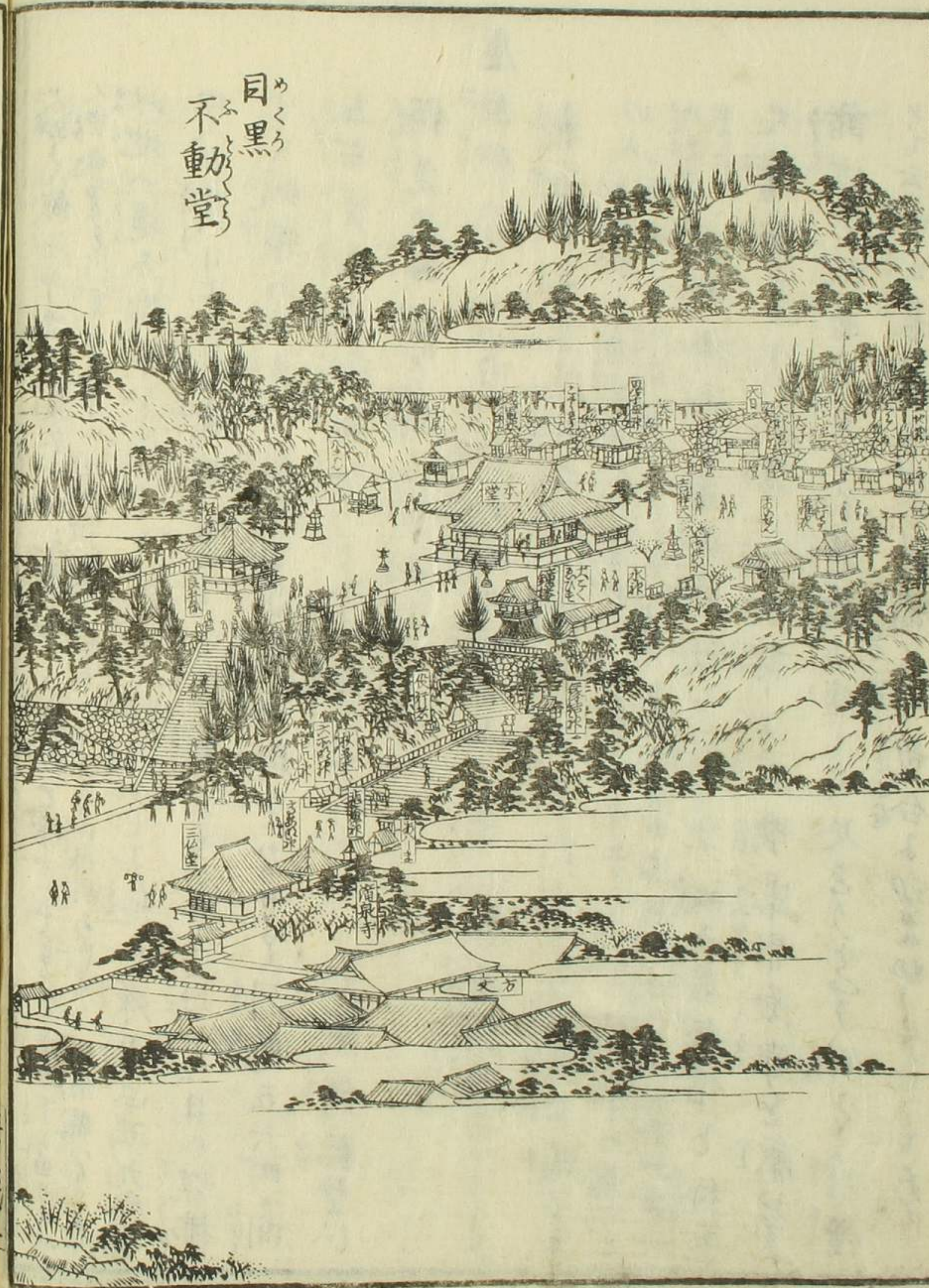
此地ハ遠小都下を離るること一里許人常々絶を殊更正五九の月
廿八日前日より終夜群参りて甚賑なり又十二月十三日ハ煤拂
ゆく開帳あり是も前夜より参詣群をなせり門前五六町の間
左右貨食店軒端をつとて詣人としてとて粟餅飴地ハ
餅花の類ひと鬻く家多し

虚無僧寺 同所門前大路の西にあり普化宗金洗派ゆりて

東昌寺と号し扣番所と称し本寺ありありて或風呂屋とも
唱し金洗派活惚派西向派安樂派水戸八箇寺あり惚本寺の番所と
西光寺 雍州府志に虚無空寂を宗とす故に虚無僧と称す
又薦僧とも書し意ハ其徒常々風喰露宿險難を厭はず
諸方を経歴し至る所延薦小座して足まりとす乃ち薦僧
とも云中世暮露と云あり職人尽奇合よむまじりてあり



目黒
不動堂



洛の如安寺は朗庵といふ異稱あり紫野の一体和尚は親常は風穴道人と稱す世に吹くたのしき風穴庵井の作略を慕ひしあり始宇治の吸江庵は普化和尚の流流といふも風穴の異と取ふたよりあり明惠上人の草袋をひき兼好法師のつもく草袋あり云々

大鳥大明神社 同所不動より北の方二町を隔つ別當ハ天台

宗小く大聖院と号し祭神日本武尊一座なり相傳ふ大同

元年丙戌泉州大鳥の御神と勸清しなること當社ハ目黒村の

鎮守あり祭礼ハ旭卯の九日を例とし此日角力興移あり

按目黒不動より日本武尊の説を交へハ此社を誤りて云あるを

附北条家の所領後帳ハ大田源七郎島津孫四郎等此地を領せり此記せり東鑑は建久元年十月七日の条下目黒弥五郎と云る名を載り此地より此

金毘羅大権現社 同所二町を隔て西の方通を隔てあり祭る

所濱州象頭山金毘羅神と同一當社を以御城南鎮護神と

稱しなり九条家深筆の額を蔵し別當ハ禪宗より高

幢寺といふ境内は難波の梅又曾根の松と稱する樹あり

千代崎 渋谷宮益町より目黒長泉律院へ引道の傍芝生の

岡をの佳景の地中々永峯に属せり絶景觀とのみ松平

主殿炭の別荘の号中々閑寂無為自然其地は應也

高峰山長泉律院 同所六町を隔て西の方あり浄土宗中々縁

山に属せ則縁山前大僧正成善大玄和尚を開創の主なり

不能律師弟二世と弟三世と徳門和尚とす 師の肖像を

惠敬彫造也 在世の弟子

本堂 山の軒腰あり文室と去り十間の田廊と 本尊ハ上品上生ハ

阿彌陀如来なり 座像四尺余慈覺大師の作泉州堺の心蓮寺より請得

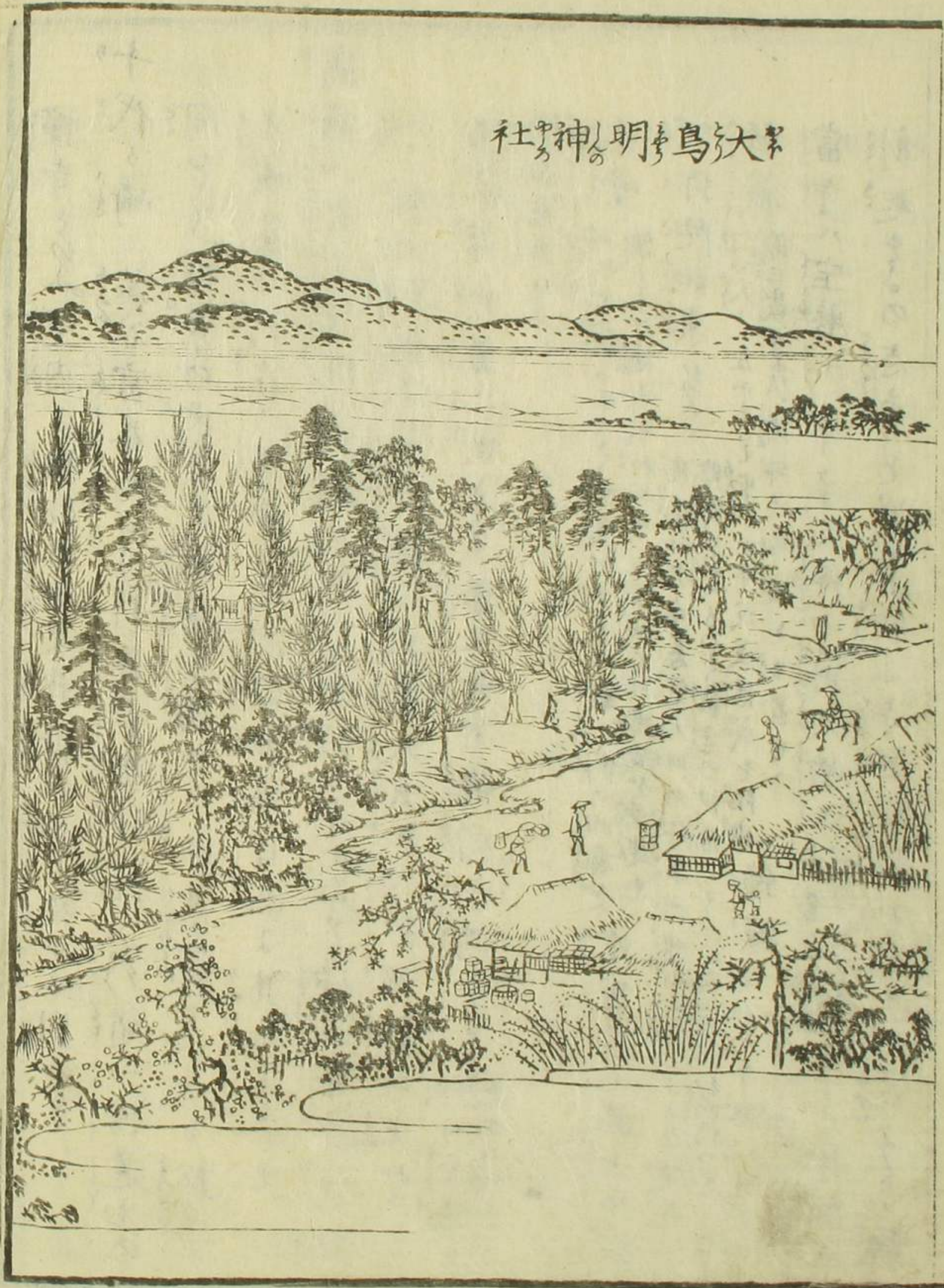
経藏 論三蔵は左小あり安永七年戊戌落成を律 鐘樓 安永元年徳門師建立

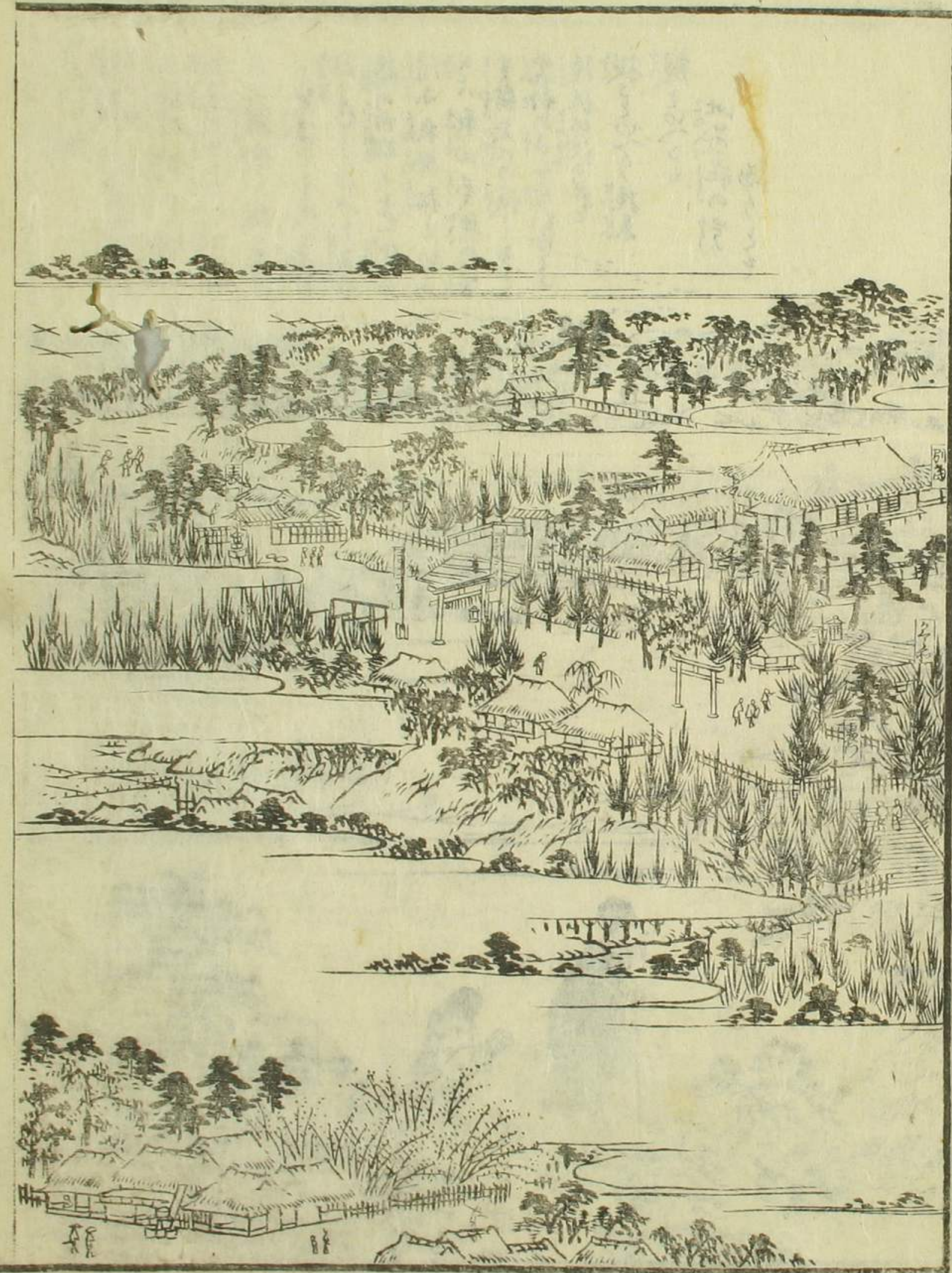
當寺ハ宝曆十一年辛巳縁山前大僧正成善上人創起し久しく律院と

創起し志ありといふ新小寺を開創しなりハ官より禁

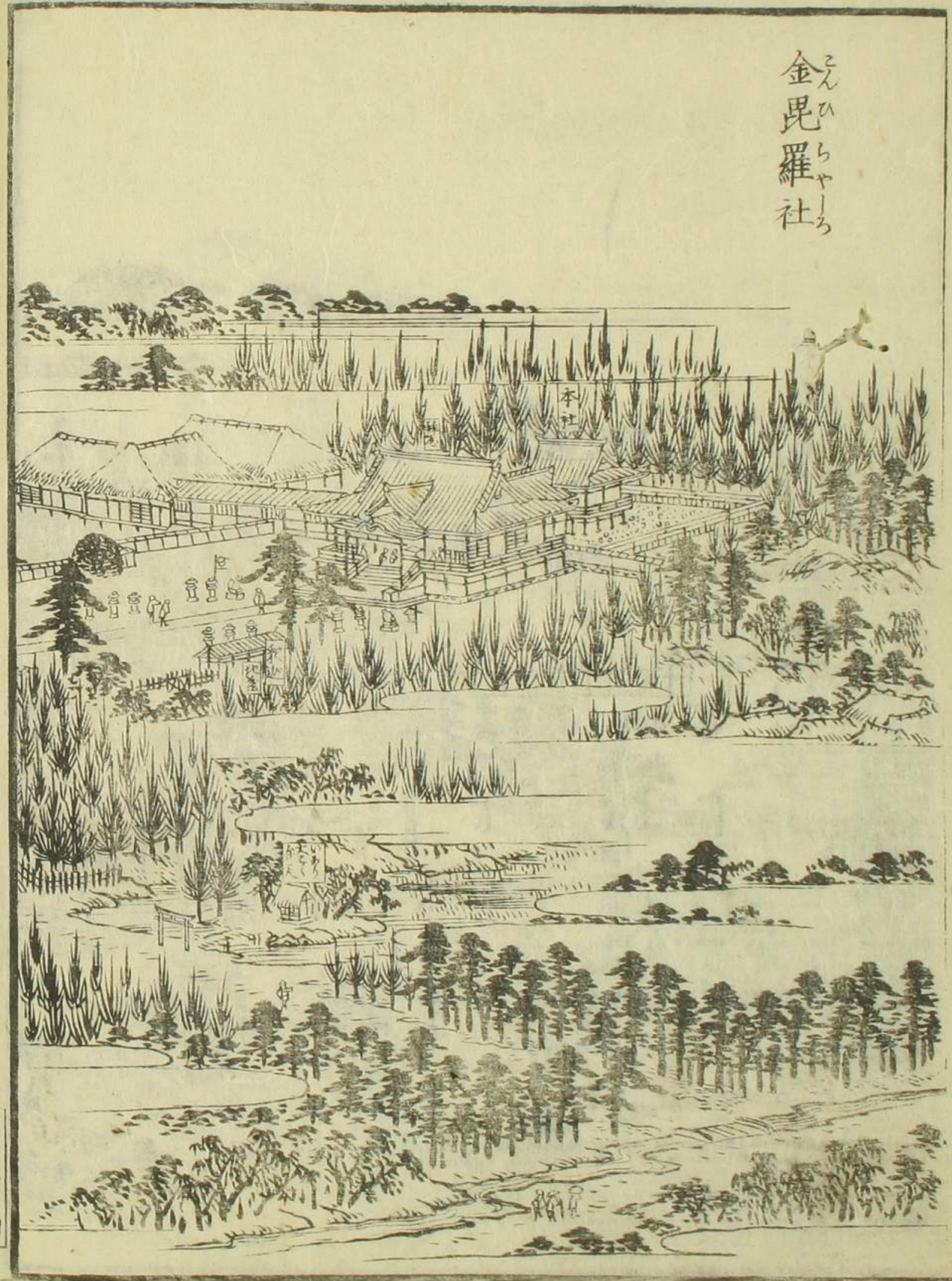


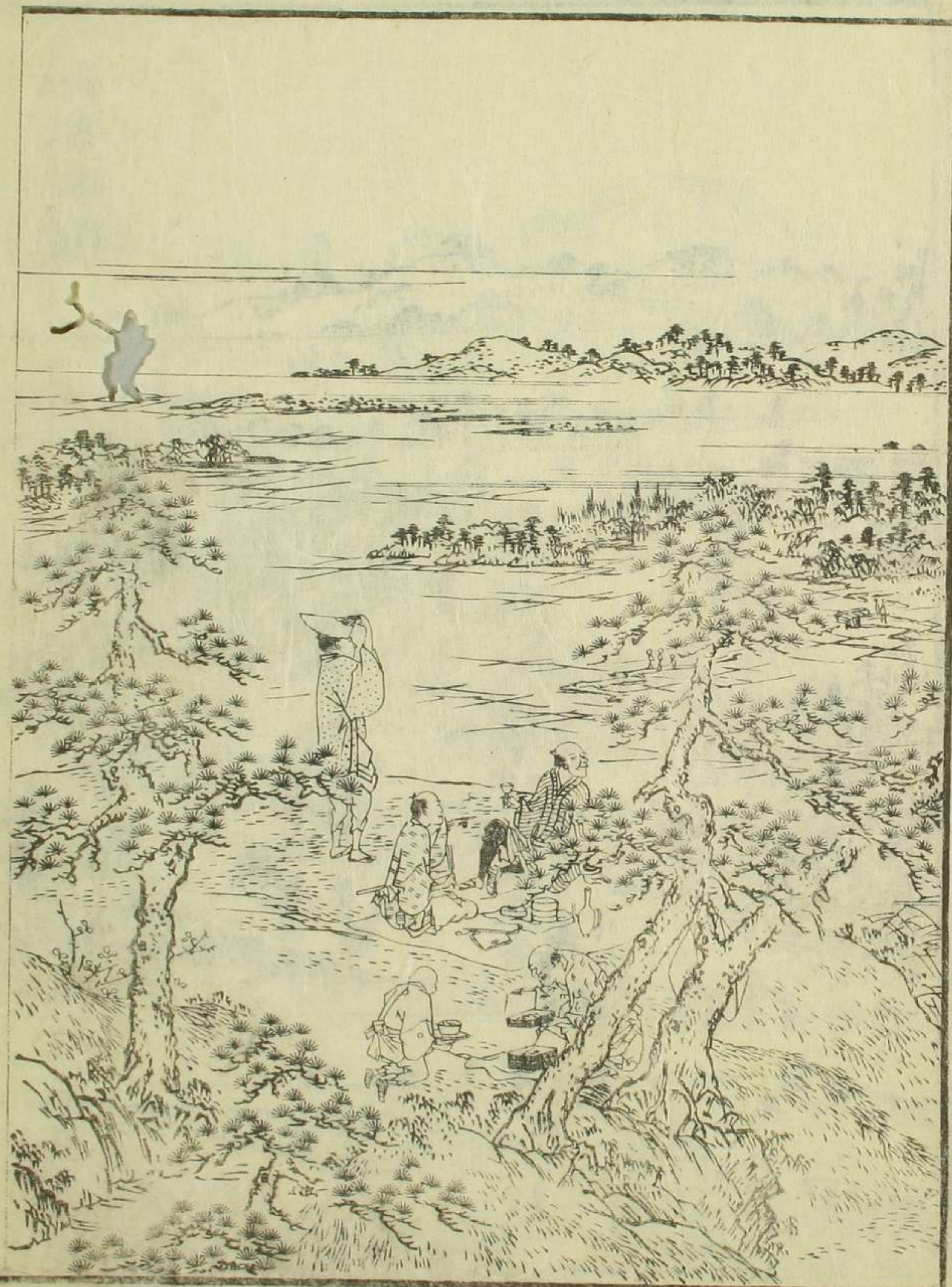
大鳥明神の社



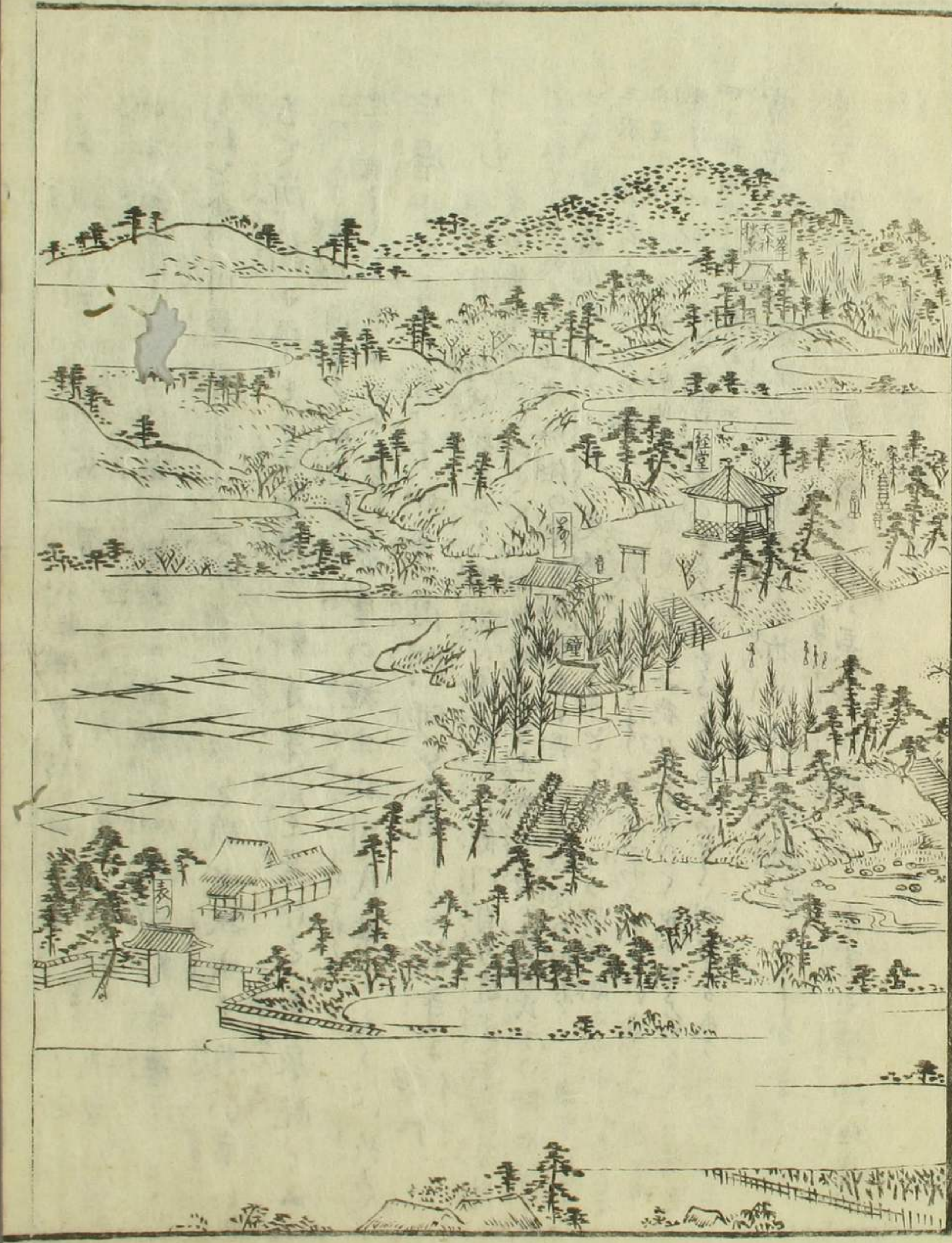


金毘羅社





子代々 湧
 行人坂の北永松
 主殿作別荘の後中
 目録の方へ下る所
 なり初築り湧といひ
 しを後子代々湧と
 改めしといふも後作
 梅の旧跡よせ此の
 傍に衣掛松といふ
 樹ハ新田美濃の室
 資盛夫の後にゆく
 室資の跡をわきま
 張ん此池よきを
 授とより湧といひ
 親といふも
 此のあつたの野
 ありとそ



長泉律院
ちゆうせんりつゐん



故の事なりす 不能律師に至り營建既す 大玄大僧
 正尔寂あり 遺志を奉り 法弟千如等百計千慮し
 これを企つ川越蓮馨寺主教意上人力を戮せ扶成を再ひ官に
 告て所請中準をり得く創建落成を号け長泉院と云
 山間より清泉涌りて境内を 扶費の施主北川氏某之あに於く
 宝曆十三年の夏千如等徳門師を請て當寺に住持とす
 徳門律師行状記云く師諱普寂字徳門自ら道光と号け勢州
 桑名勝増田邑に生れ又一向源流寺主秀寛母中村氏より師稱を
 受けてあり好んで禮佛誦經の態を作常見は異中々名僧の相あり三歳字を識り
 六歳書を讀ん投る所の経書一受輒ち記を年とてんく師の字徳既み世中つあれ
 三衣一鉢を穿て身を擲ふの錢一糸を蓄ふをわあは竟り天明元年
 辛丑十月十四日寂を圓世七十五臘夏三十六其徳化はあまひく世にあらはれ
 略す又師生年撰述の書甚多くす小判せるとのあをりて現せざるありとも不徳計
 四十部百四十有三卷あり云く
 當寺ハ常行念佛の道場なり松風をとりかへ梵唄の
 声を助け去此不遠の秋の月ハ長泉の流ふやとる実小清浄無塵の
 浄刹なり常ニ寥寂とす



早稲田大学図書館

011688984892